

地域課題研究

# 「地域づくり」に関する調査研究

2014年3月

地 域 づ く り 研 究 会  
( 地 域 課 題 研 究 実 行 委 員 会 )

北九州市立大学都市政策研究所

## 目 次

生活感に関連する要因 - 生活のゆとり感や社会関係の認知、地域活動 への参加との関連性 - .....	石塚 優	・・・ 3
地域子育て支援拠点における相談のあり方について .....	池田 佐輪子・岩丸 明江	・・・ 61
行動経済学による「消費者力」の涵養（１） ～「生活を守る経済学」講演シナリオを通じて～ .....	神山 和久	・・・ 73



# 生活感に関連する要因

- 生活のゆとり感や社会関係の認知、地域活動への参加との関連性 -

石塚 優

## 目次

### はじめに

#### 全体的生活満足感

- 1 全体的生活満足感
- 2 基本属性別全体的生活満足感

#### 生活のゆとり感

- 1 全体の生活面のゆとり感
  - (1) 全体的な生活面のゆとり
  - (2) 経済面のゆとり
  - (3) 日常生活でのゆとり
- 2 基本属性別生活の全体的ゆとり感
  - (1) 経済面の全体的ゆとり
  - (2) 時間面の全体的ゆとり
  - (3) 居住空間面の全体的ゆとり
  - (4) 精神面の全体的ゆとり
  - (5) 総合的な生活のゆとり
- 3 全体的なゆとり不足の要素

#### 地域活動や社会関係と全体的生活満足感の関連性

- 1 地域活動への参加と全体的生活満足感の関連性
- 2 社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性

#### 生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

- 1 全体的ゆとり感と全体的生活満足感の関連性
- 2 経済面のゆとり感と全体的生活満足感の関連性
- 3 日常生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性
- 4 社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性
- 5 地域活動への参加と全体的生活満足感の関連性

### おわりに

- 1 「経済面の全体的ゆとり」と「精神面の全体的ゆとり」感
- 2 地域活動参加や社会関係の認知

### 資料

資料 1 調査の概要、資料 2 基本属性、資料 3 記述統計量、資料 4 調査票

## 生活感に関連する要因

- 生活のゆとり感や社会関係の認知、地域活動への参加との関連性 -

石塚 優

### はじめに

全体的生活満足感は調査をすれば、概ね常に高いという結果で共通している。この生活満足感が常に高く維持され続ける要因が何か、何と関連性が強いのかを探るのが以下の目的である。生活の経済面に影響すると考えられる雇用形態に関する一連の法律としては、労働基準法（1947年）、男女雇用機会均等法（1985年）、改正男女雇用機会均等法（1997年）、改正労働基準法（1999年）、改正男女雇用機会均等法（2006年）等がある。これらの法律により男性労働者の保護規制（8時間労働）、女性の深夜労働の制限撤廃（1999年の改正労働基準法）などとともに、性別を理由とする差別の禁止や事業主の雇用管理上の措置義務としてセクシュアルハラスメントの防止、妊産婦の母性健康管理などの義務を含む内容へと変化している。

また、労働者派遣法（1986年）は、当初、基本的考え方として専門的業務、もしくは特別の雇用管理を要する業務に限定して、労働力需給を迅速に結びつけるための派遣を認める内容であり、適用対象業務を限定し、派遣期間にも一定の規制を設け、派遣による常用雇用の肩代わりを制限した。しかし、1996年、1999年と改正を重ねるに従い対象業務は拡大し、2003年改正時には、1999年改正では対象業務から外されていた「製造」業務を対象業務に含める規制緩和が行われた。派遣期間も最長1年から3年に延長され、拡大した対象業務で働く不安定な派遣労働者にとり、多少の安定をもたらす反面で、派遣労働者の長期雇用が常用雇用に抑制する働きが強くなるという問題を同時に含んでいる。

このため、今日の職場には正規職員の他に従来のパートタイマー、アルバイトの他に、請負社員、業務請負、再雇用など多様に存在し、派遣社員の3年、契約社員の1年更新で更新回数の制限付きなどの有期労働者が混在する。このような就業形態の多様化は不安定な就業形態をもたらし、加えて賃金の引き下げや増税などは生活のゆとり感や全体的生活満足感に影響が大きいと推測できる。

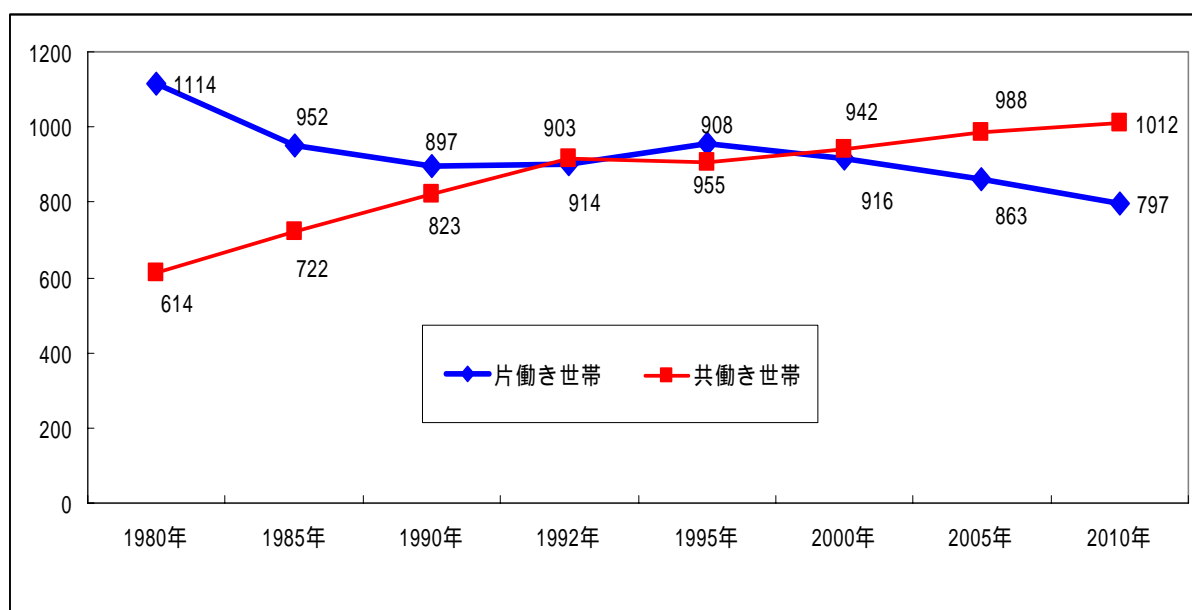
経済面では労働者派遣法による労務管理の変化をともなう不安定雇用とともに、改正男女雇用機会均等法を反映したのか、共働き世帯が増加し、1992年から2000年にかけて、夫婦のどちらか一方が働く世帯と世帯数では逆転した（図1参照）。これによる高所得世帯との所得格差が拡大した。

このような所得（就業形態）面での変化の他に社会情勢の変化もあり、市民の生活のゆとり感や全体的生活満足感は揺らいでいると推測し、調査票を用いてその現状を質問した。以下ではその回答結果を紹介する。さらに、単純な調査結果とともに、全体的生活満足感やゆとり感が何と関連しているかについても検討した。

調査の方法等と対象者の基本属性、調査票は末尾に資料として調査の概要とともに掲載している。

大まかな調査の概要は、対象者は 20～79 歳の市内に居住する人を選挙人名簿から所定の手続きを経て、無作為抽出(系統抽出)法により選んだ 1,500 人である。郵送により調査票を配送し、回答後に郵送により返送する留置法による。有効回収数は 564(有効回収率 37.6%)である。

図 1 共働き世帯、片働き世帯の推移 (万世帯)



総務省「労働力調査特別調査」2013 より作成

表 1 女性労働力率 (%)

	総数	未婚	有配偶	離別等
1975年	45.7	54.4	45.2	36.1
1980年	47.6	52.6	49.2	34.2
1990年	50.1	55.2	52.7	32.3
1995年	50.0	59.2	51.2	32.0
2000年	49.3	62.2	49.7	31.0
2005年	48.4	63.0	48.7	29.4
2010年	48.5	63.4	49.2	29.5

総務省統計局「就業構造基本調査」より作成

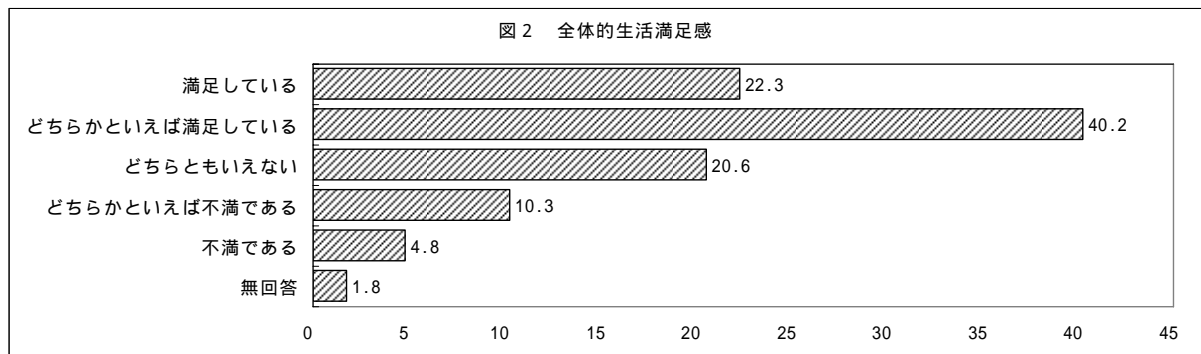
表 1 は女性の労働力率の推移を示しているが、総数では 1990 年代より低く、未婚を除き労働力率は大きな変化がない。

## 全体的生活満足感

最初に生活感を表すと考えられる全体的生活満足感について、全体と基本属性別に結果を確認しておく。

### 1 全体的生活満足感

全体の生活満足感は図2に示した通りである。全体的生活面では満足している人が多いという結果を得た。社会的背景として不況が続き、賃金の低下や就業条件の変化などの雇用面の現状を考えると「どちらともいえない」が多くを占めると予測したのであるが、そうではなく「どちらかといえば満足している」を選択した人が4割以上であり、「満足している」人が2割以上を占め、この合計が6割以上を占めるという結果である。



この結果を「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」に順に2、1、0、-1、-2点を配点し、記述統計量を表2に示した。平均値が0.672点であり、「どちらともいえない」を上回ることから満足感を持つ人が多いことを示している。

表2 全体的生活満足感の記述統計量

度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
554	0.672	-2.0	2.0	1.087

### 2 基本属性別全体的生活満足感

さらに基本属性別に全体的生活満足感を示したのが図3である。

これによると性別では女性の方が全体的生活満足感が高く、年代別では30歳代の満足感が高い傾向が認められる。一方、40歳代、50歳代の「どちらかといえば不満である」「不

満である」という回答が多く、子どもにかかる費用の負担が大きいこの年代の賃金の低下や就業条件の変化などによる不満を反映していると推測できる。

図3 全体的生活満足感（性別、年代別）

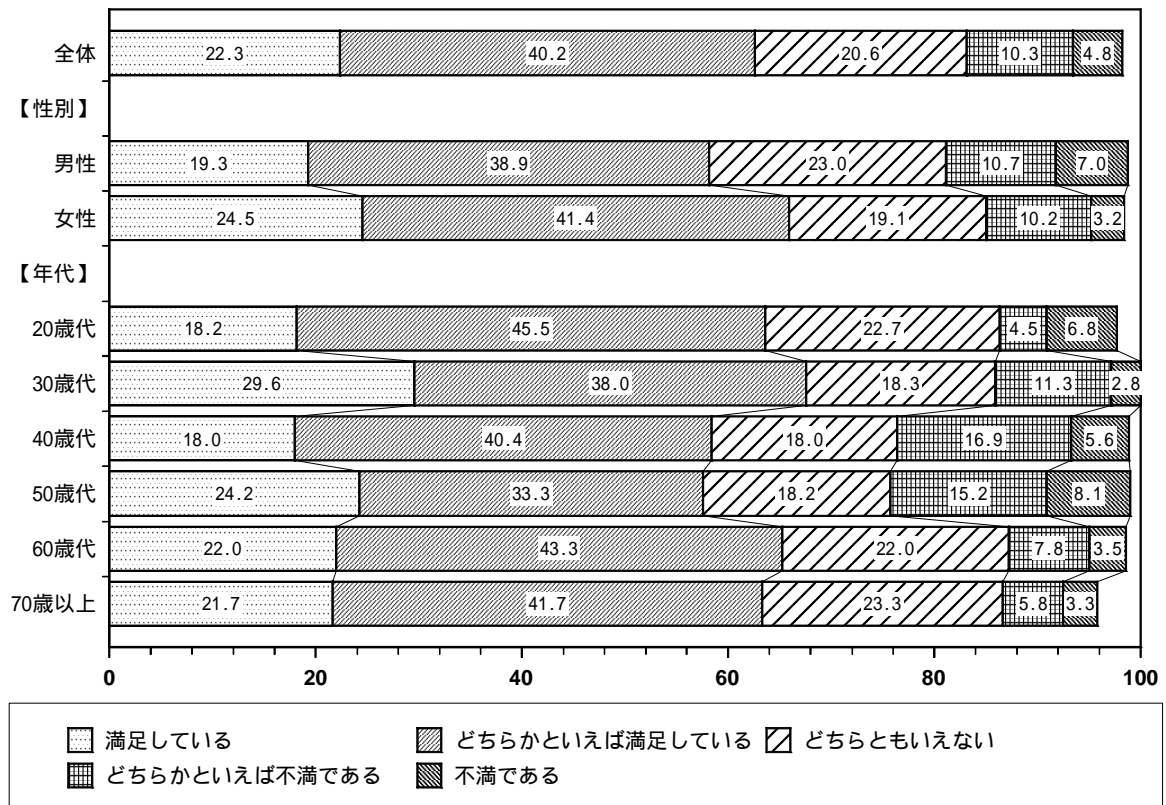


図4は職種別に全体的生活満足感を示している。これによると全体的生活満足感が高いのは「公務員（行政職や警察官、消防官など）」「専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）」であり、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を加えると「自営業・会社経営」「家事専業（無職の）」や「事務系専門職（医療事務、オペレーターなど）」「技術・技能系職業（製造、加工、組立、建設、その他技術者、作業員など）」がこれらに続いて満足感が高く見える。

逆に不満回答が多いのは「通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）」「サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）」「運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）」「公務員（行政職や警察官、消防官など）」「販売的職業（商品の販売、店員、営業・セールスなど）」と続く。公務員は満足感も高いが不満も多い。



図4 全体的生活満足感（職種）

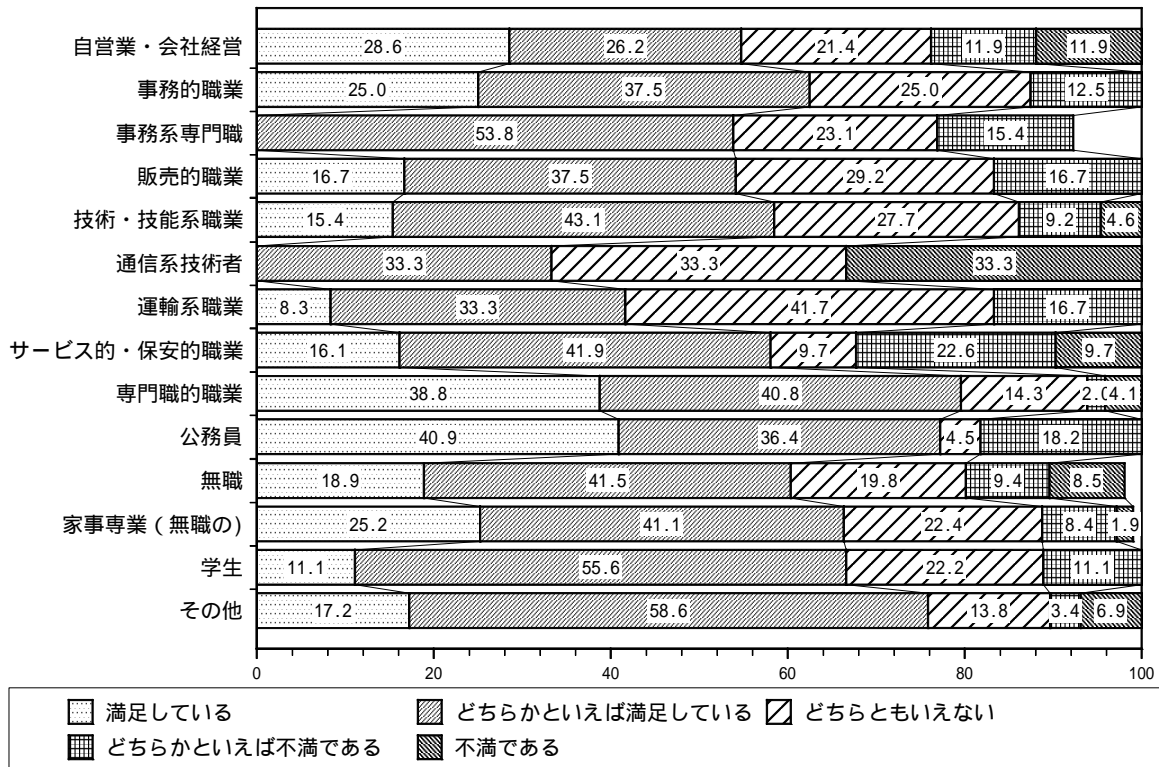


図5は就業形態別に全体的生活満足感を示している。今日の就業形態の変化は大きく、最初に仕事を始める時から契約や派遣職員であり、パート・アルバイトである場合も少なくない。事業所には「契約さん」「派遣さん」「パートさん」等が混在する。

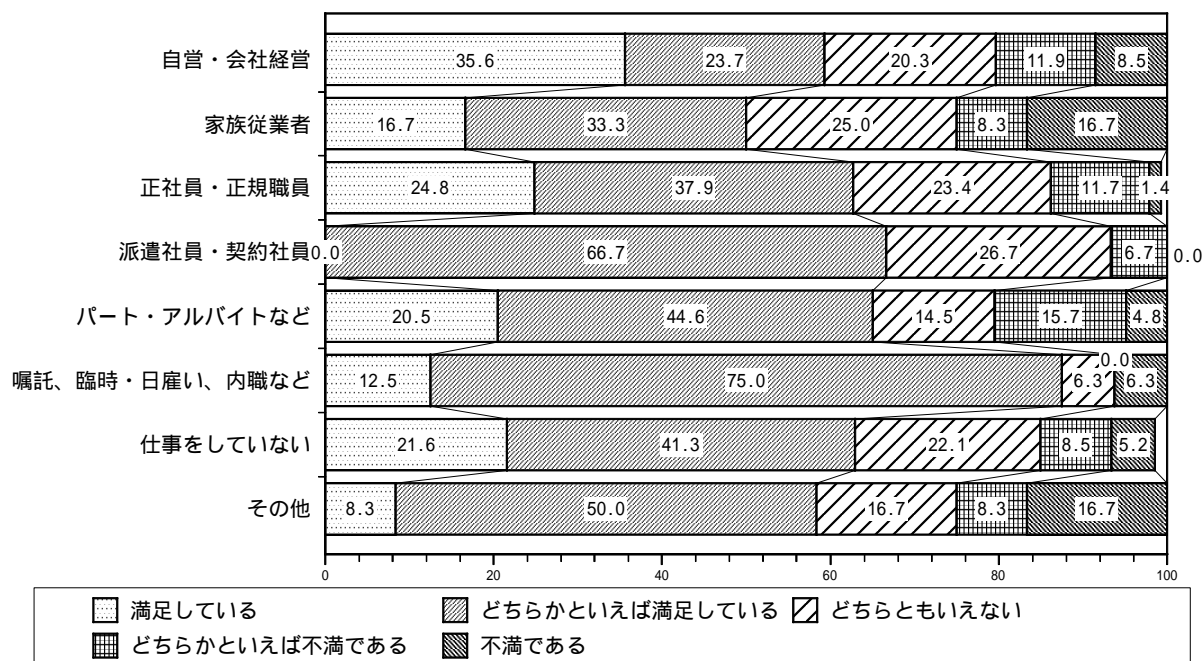
このような現状であるが、回答者に派遣・契約職員、嘱託、臨時・日雇い、内職は少なく、そのために図には一人当たりの回答が大きな数値となって示されている。

「満足している」人が多いのは「自営・会社経営」「正社員・正規職員」「仕事をしていない」「パート・アルバイトなど」である。これに「どちらかといえば満足している」を加えると「嘱託、臨時・日雇い、内職など」と「家族従業者」を除き大差がなくなる。

「不満である」は「家族従業者」と「その他」が多いが両者とも該当者が少ないことにより一人当たりの回答が大きな数値となって示されている。その中で「パート・アルバイトなど」「自営・会社経営」の不満が多少多めのようなのである。

就業形態による不満に関しては、不安定雇用が常態化し、そのために全体的生活満足感が低下していると予測したほどに、「正社員・正規職員」と「パート・アルバイトなど」の間で大差がないなど、大きな違いは認められなかった。

図5 全体的生活満足感（就業形態）



全体的生活面では満足している人が多いという結果であるが、賃金の低下や就業条件の変化などの雇用面の影響を受けている世代や職種により、全体的生活の満足感に違いがあることも分かる。

年代ではリストラ、昇給停止、減給などの対象となりやすい40～50歳代、職種では「通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）」、「サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）」、「運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）」など、就業形態では「パート・アルバイトなど」の不安定雇用で不満が多いという傾向がある。ただし、「パート・アルバイトなど」には家計の補助として仕事をしている人も多く含まれるため、正社員・正規職員を望みながら不安定雇用への不満を持つ人の不満が相殺されている可能性がある。

表3には表2と同様に、「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」に順に2、1、0、-1、-2点を配点し、属性別記述統計量を示した。年代別では30歳代、60歳以上、職種では専門職的職業、公務員、事務的職業、家事専業（無職の）、就業形態では嘱託、臨時・日雇い、内職など、正社員・正規職員の平均値が高く、70歳以上、家事専業（無職の）、専門職的職業、嘱託、臨時・日雇い、内職などの標準偏差が小さいことは、バラツキが小さいことを示している。また、サービスの・保安的職業、運輸系職業、事務系専門職の標準偏差が小さい。家族従業者の平均値が低く、派遣社員・契約社員の標準偏差が小さい。

表3 全体的生活満足感記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	0.651	-2	2	1.066
	30歳代	71	0.803	-2	2	1.077
	40歳代	89	0.489	-2	2	1.145
	50歳代	99	0.510	-2	2	1.246
	60歳代	141	0.734	-2	2	1.011
	70歳以上	120	0.757	-2	2	.988
配偶関係	未婚	99	0.296	-2	2	1.177
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	0.786	-2	2	1.018
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	0.485	-2	2	1.203
職種	自営業・会社経営	42	0.476	-2	2	1.348
	事務的職業	40	0.750	-1	2	.981
	事務系専門職	13	0.417	-1	1	.793
	販売的職業	24	0.542	-1	2	.977
	技術・技能系職業	65	0.554	-2	2	1.016
	通信系技術者	3	-0.333	-2	1	1.528
	運輸系職業	12	0.333	-1	2	.888
	サービスの・保安的職業	31	0.323	-2	2	1.275
	専門職的職業	49	1.082	-2	2	.997
	公務員	22	1.000	-1	2	1.113
	無職	106	0.538	-2	2	1.165
	家事専業（無職の）	107	0.802	-2	2	.980
	学生	9	0.667	-1	2	.866
	就業形態	自営・会社経営	59	0.661	-2	2
家族従業者		12	0.250	-2	2	1.357
正社員・正規職員		145	0.736	-2	2	1.010
派遣社員・契約社員		15	0.600	-1	1	.632
パート・アルバイトなど		83	0.602	-2	2	1.126
嘱託、臨時・日雇い、内職など		16	0.875	-2	2	.885
仕事をしていない		213	0.667	-2	2	1.073

## 生活のゆとり感

全体的生活の満足感が高かったのであるが、以下では、生活のゆとり感について質問した「全体的な生活面のゆとり」「経済面のゆとり」「日常生活でのゆとり」について最初に検討し、次に「全体的な生活面のゆとり」の ～ について基本属性別に結果を検討する。

### 1 全体の生活面のゆとり感

#### (1) 全体的な生活面のゆとり

全体的な生活面のゆとりとして「経済面の全体的ゆとり」「時間面の全体的ゆとり」「居住空間面の全体的ゆとり」と「精神面の全体的ゆとり」「総合的な生活のゆとり」について「十分ある」「ある程度ある」「あまりない」「非常に乏しい」により回答を得た結果を図6に示した。

全体的な生活面のゆとりでは、ゆとり感が高かったのは、「十分ある」が多い「居住空間面の全体的ゆとり」と「時間面の全体的ゆとり」である。次に「精神面の全体的ゆとり」「総合的な生活のゆとり」であり、これらは「十分ある」「ある程度ある」を加えると半数を超えている。「経済面の全体的ゆとり」は「十分ある」が「非常に乏しい」を下回り、「ある程度ある」「あまりない」の両者が同水準であるなど、経済面でのゆとり感は居住空間面や時間面に比べると低いようである。経済面に余裕がない人が過半数を超えているとも見える。

#### (2) 経済面のゆとり

その経済面のゆとり感としては、「毎日の生活費」「病気など万一の場合の経済的余裕」「教育や子育て資金」「老後の備え」「交際費・娯楽費」について質問した。結果は、図6の通り、「毎日の生活費」には困らないが「老後の備え」や「教育や子育て資金」が不十分であると感じている人が多いことを示している。特に「老後の備え」には不安を持つ人が多いことが示されている。「病気など万一の場合の経済的余裕」「交際費・娯楽費」は「老後の備え」や「教育や子育て資金」よりはゆとり感を持つ人が多いが、余裕のない人が過半数を占めている。

#### (3) 日常生活でのゆとり

図6には、日常生活でのゆとり感として「家事や育児のゆとり」「家族の介護のゆとり」「家族関係のゆとり」「将来に関するゆとり」「余暇時間」を示した。

これによると、ゆとりが「十分ある」が多いのは「余暇時間」であるが、加えて「家族関係のゆとり」や「家事や育児のゆとり」がある人が半数以上であることが分かる。一方、「将来に関するゆとり」では展望が持てないのかゆとり感がある人が4割以下である。

また、「 家族の介護のゆとり」に関しても「 余暇時間」や「 家族関係のゆとり」「 家事や育児のゆとり」に比べると、ゆとりを十分に感じられない人が多くを占めている。

これらの結果は、経済面では日常生活で困らないが老後の備えができるほどの余裕はないし、子育て資金も不安がある。また、日常生活では時間の余裕があり、家事や子育ての余裕もあるし、家族関係も良好であるが、将来の展望や家族の介護に不安を抱いている姿が認められる。今は良いが老後は、介護はどうすべきか、という今後に不安を持っている様子が窺える。

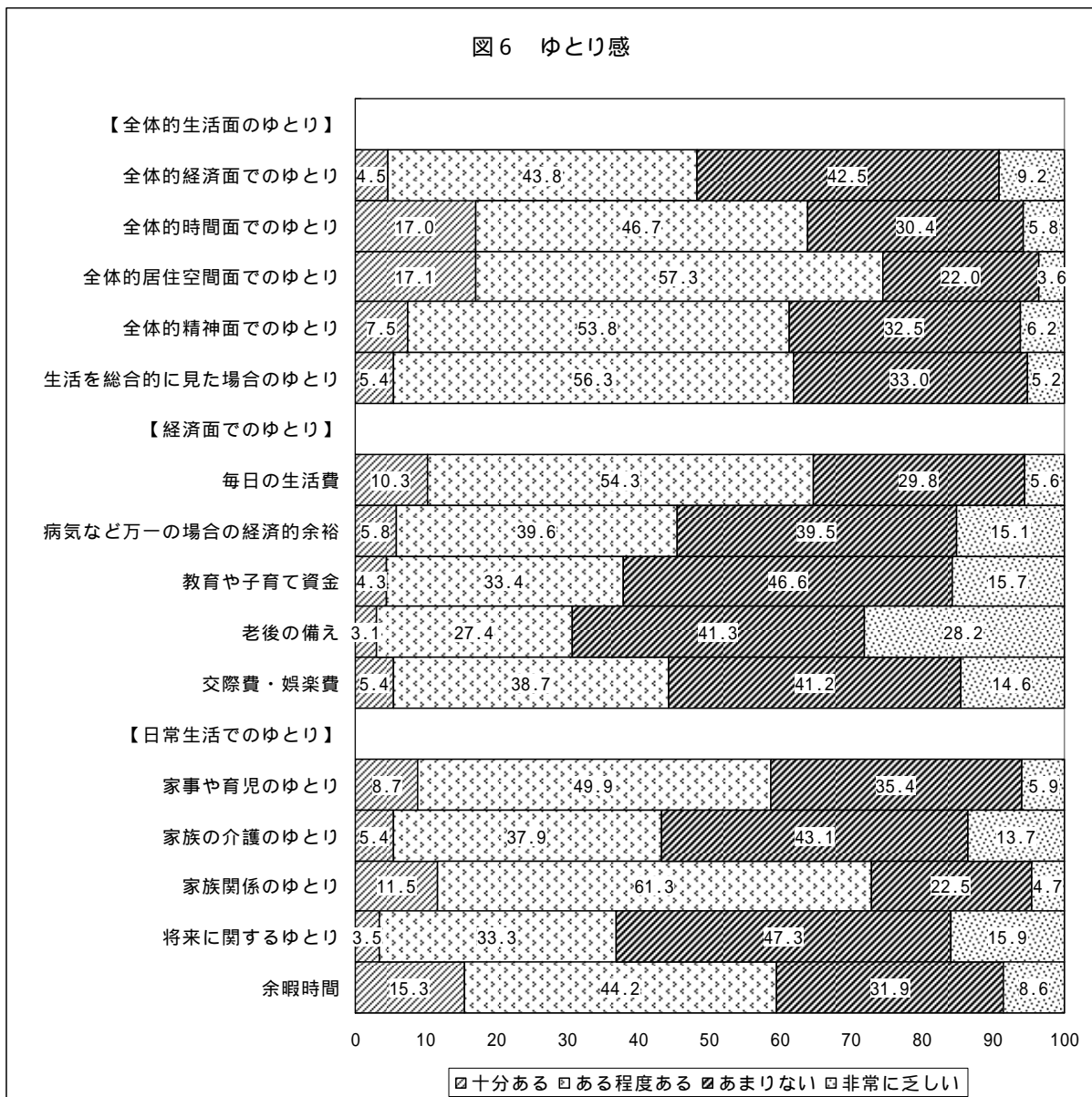


表4～6には「十分ある」「ある程度ある」「あまりない」「非常に乏しい」の順に4、3、2、1点を配点して求めた記述統計量を示している。これによると全体的ゆとり、経済面

のゆとり、日常生活でのゆとりに含めた各項目の標準偏差が小さく、バラツキ小さいことがわかる。

全体的ゆとりでは「居住空間面の全体的ゆとり」、経済面のゆとりでは「毎日の生活費」、日常生活でのゆとりでは「家族関係のゆとり」「余暇時間」「家事や育児のゆとり」の平均値が高い。逆に平均値が低いのは全体的ゆとりでは「経済面の全体的ゆとり」、経済面のゆとりでは「老後の備え」「教育や子育て資金」、日常生活でのゆとりでは「将来に関するゆとり」「家族の介護のゆとり」である。現状の生活にはゆとり感があっても、介護や教育や子育て、老後の備えに不安があり、今後に関しては不確実であることを示唆している。

表4 全体的ゆとり

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
経済面の全体的ゆとり	555	1	4	2.436	0.722
時間面の全体的ゆとり	552	1	4	2.750	0.803
居住空間面の全体的ゆとり	550	1	4	2.878	0.723
精神面の全体的ゆとり	550	1	4	2.625	0.713
総合的な生活のゆとり	554	1	4	2.619	0.671

表5 経済面のゆとり

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
毎日の生活費	554	1	4	2.693	0.729
病気など万一の場合の経済的余裕	555	1	4	2.360	0.806
教育や子育て資金	464	1	4	2.263	0.772
老後の備え	554	1	4	2.054	0.823
交際費・娯楽費	553	1	4	2.349	0.794

表6 日常生活でのゆとり

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
家事や育児のゆとり	505	1	4	2.614	0.729
家族の介護のゆとり	504	1	4	2.349	0.781
家族関係のゆとり	537	1	4	2.797	0.698
将来に関するゆとり	546	1	4	2.244	0.757
余暇時間	548	1	4	2.662	0.838

## 2 基本属性別生活の全体的ゆとり感

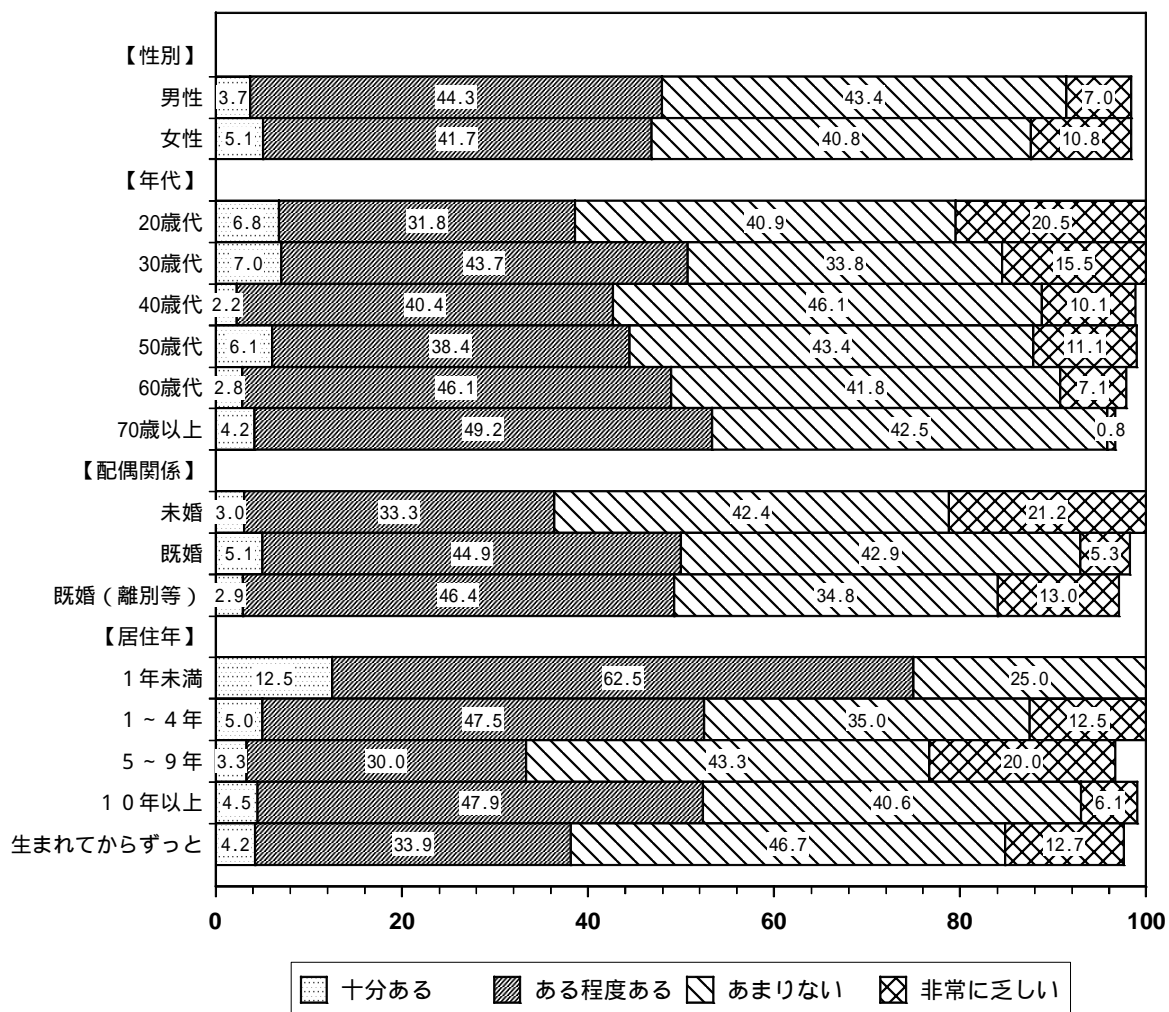
以下では全体的ゆとり感の各項目について属性別に検討する。

### (1) 経済面の全体的ゆとり

経済面の全体的なゆとり感が高いのは、性別では男性、年代では30歳代と年代が高くなるほど、配偶関係では既婚、居住年では年数が4年未満の短い人と10年以上である。

逆に低いのは、20歳代、未婚、居住年が5～9年である。

図7 経済面の全体的ゆとり感（性別、年代別、配偶関係別、居住年）



経済面の全体的なゆとり感を職種別に示したのが図8である。これを見るとゆとり感が高いのは、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）、公務員（行政職や警察官、消防官など）である。事務的職業（一般事務、外勤事務、集金人など）、家事専業（無職の）、無職がこれに続く。

ゆとり感が少ないのは通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミン

グ・情報処理など)、運輸系職業(電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など)、サービスの・保安的職業(理容・美容、接客、清掃、警備など)、事務系専門職(医療事務、オペレーターなど)である。なお、「その他」には介護職が多い。

図8 経済面の全体的ゆとり感(職種別)

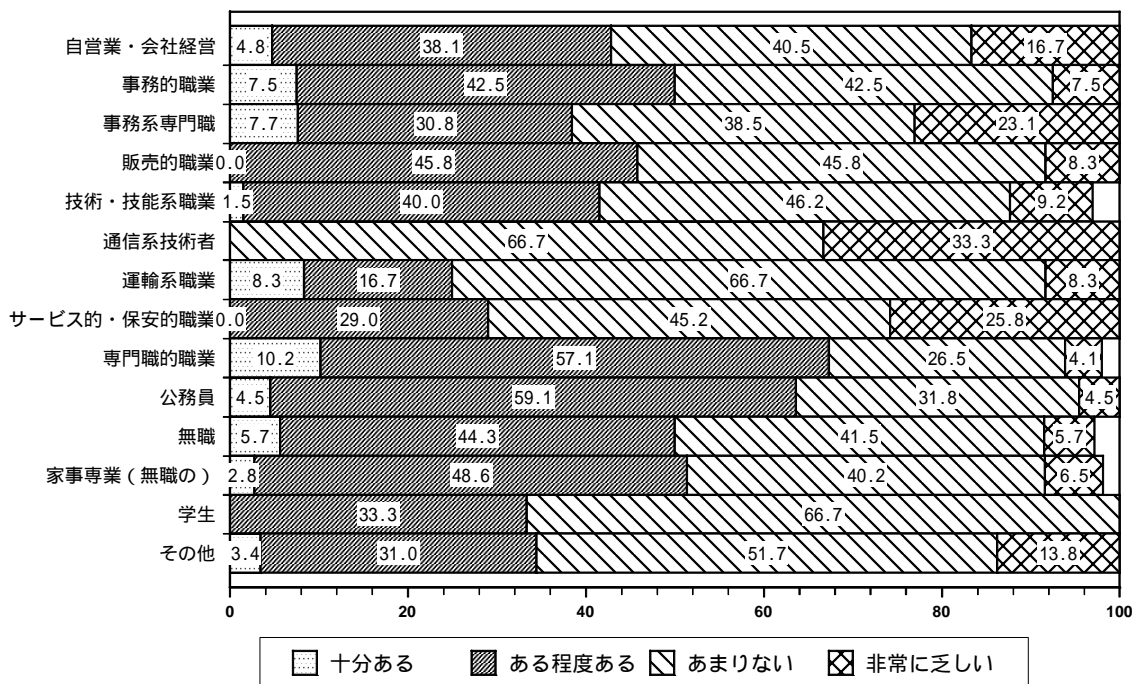


図9 経済面の全体的ゆとり感(就業形態別)

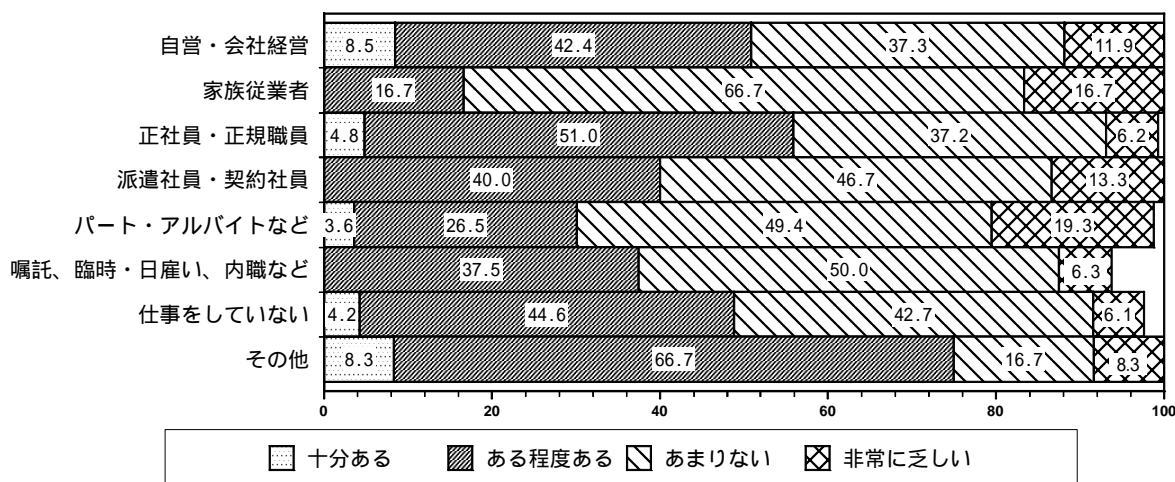


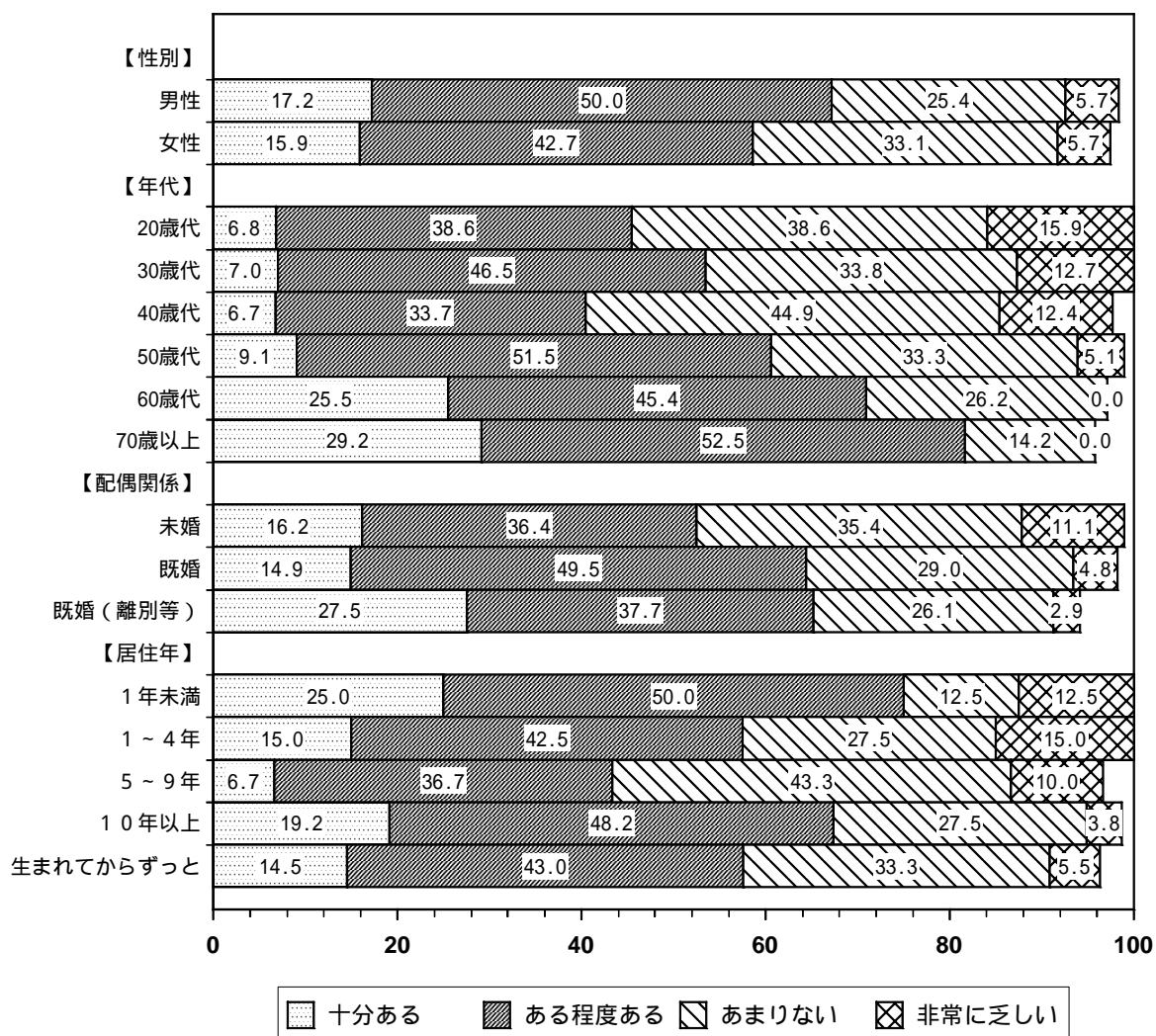
図9には就業形態の経済面の全体的ゆとり感を示した。これによると、ゆとり感が高いのは正社員・正規職員、自営業・会社経営、仕事をしていないである。その他は学生が多い。ゆとり感が少ないのはパート・アルバイトなど嘱託、臨時・日雇い、内職などである。



( 2 ) 時間面の全体的ゆとり

時間面の全体的なゆとり感が高いのは、性別では男性、年代では 30 歳代と年代が高くなるほど、配偶関係では既婚、離別など、居住年では年数が 4 年未満の短い人と 10 年以上である。逆に低いのは、40 歳代、20 歳代、未婚、居住年が 5～9 年である。この傾向は経済面と同じである(図 10 参照)。

図10 時間面の全体的ゆとり感（性別、年代別、配偶関係別、居住年）



時間面の全体的なゆとり感を職種別に示したのが図 11 である。これを見るとゆとり感が高いのは、無職、家事専業(無職の)、公務員(行政職や警察官、消防官など)、自営業・会社経営、販売的職業(商品の販売、店員、営業・セールスなど)などであり、無職と家事専業(無職の)が顕著にゆとり感が高い。経済面でゆとりのあった専門職的職業(医師、

看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）などは時間面ではゆとりがあるとはいえないようである。経済面でゆとり感が少なかった通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）、運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）、サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）、事務系専門職（医療事務、オペレーターなど）は時間面でもゆとり感が低い。

図11 時間面の全体的ゆとり感（職種別）

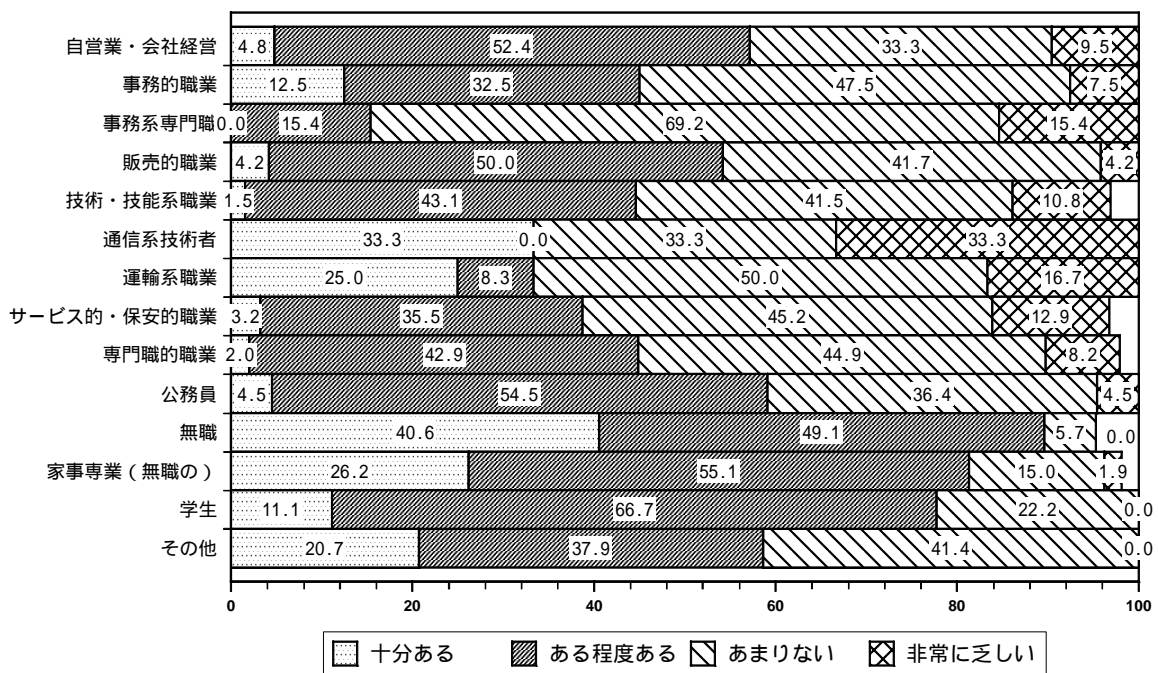


図12 時間面の全体的ゆとり感（就業形態別）

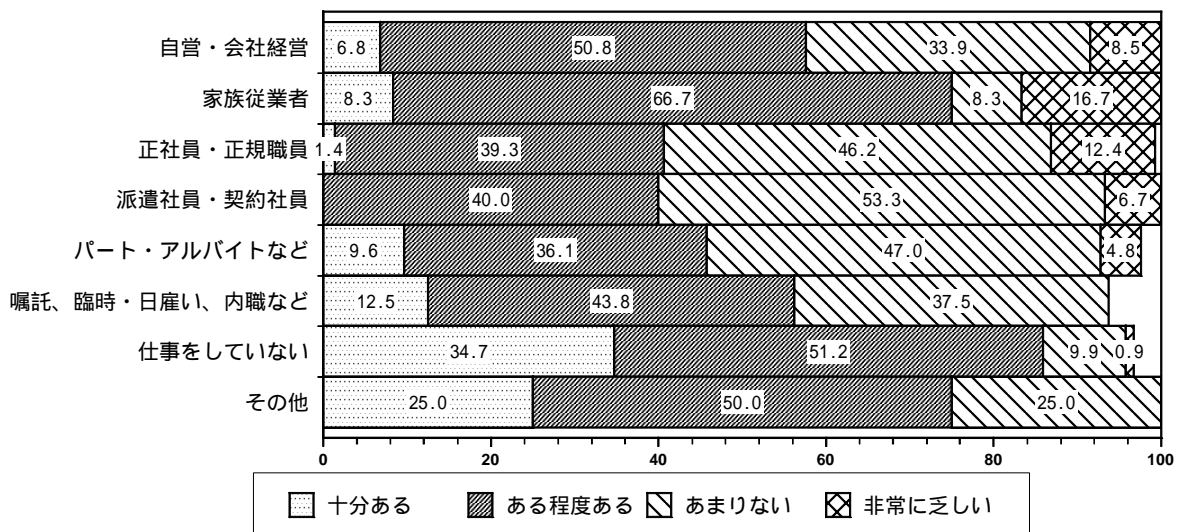


図 12 には就業形態の時間面の全体的ゆとり感を示した。これによると、ゆとり感が高いのは仕事をしていない人である。また、全体的生活満足感の低かった家族従業者の時間面のゆとり感が高く、嘱託、臨時・日雇い、内職などや自営業・会社経営も高い。ゆとり感が少ないのは派遣・契約社員、正社員・正規職員、パート・アルバイトなどである。

### (3) 居住空間面の全体的ゆとり

居住空間面の全体的なゆとり感が高いのは、性別では女性、年代では大差がなく、居住年では年数が4年未満の短い人である。逆に低いのは、40歳代、離別などである(図13参照)。この傾向は経済面とも時間面とも異なり、属性による差は小さい。

図13 居住空間の全体的ゆとり感(性別、年代別、配偶関係別、居住年)

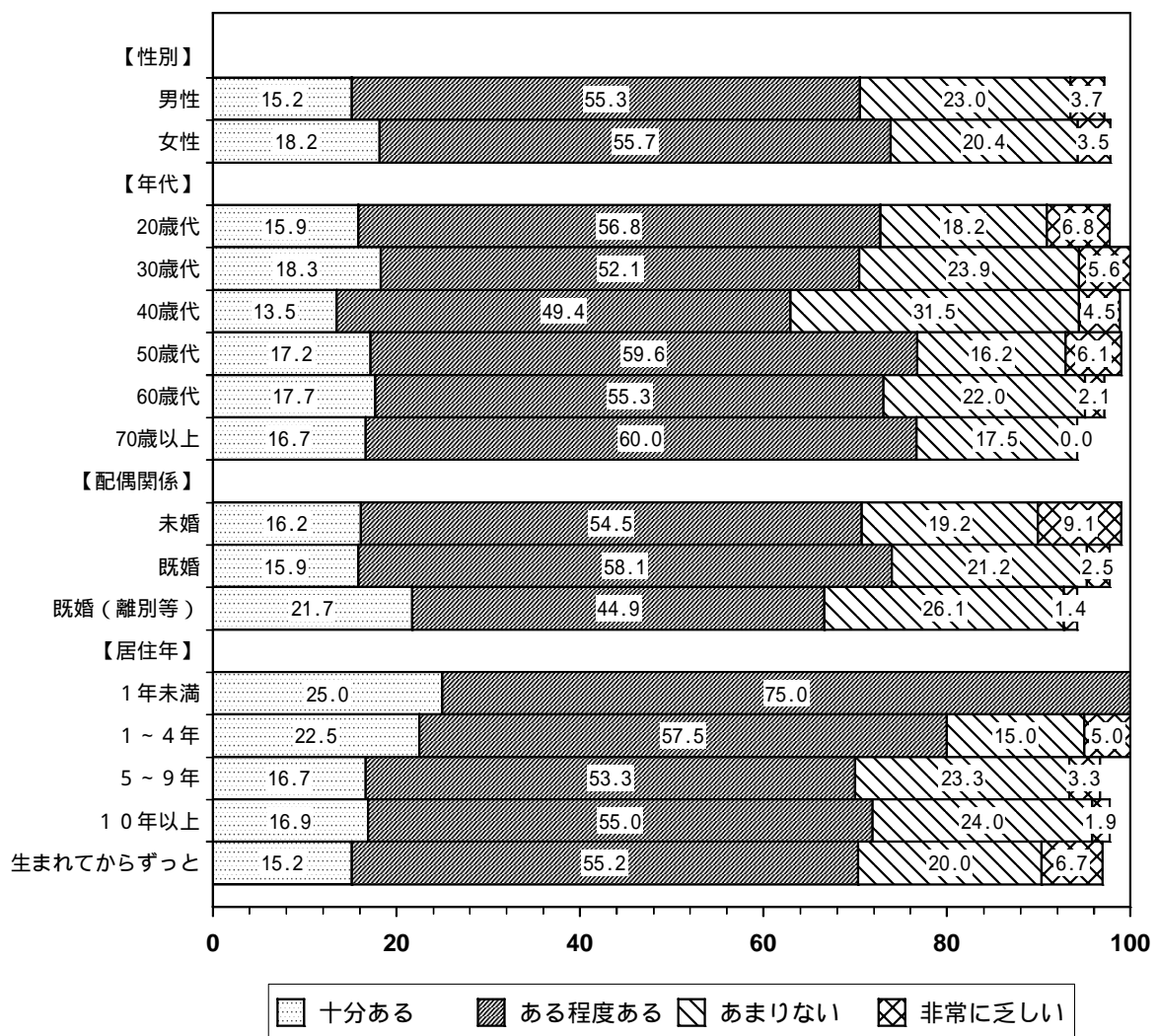


図14 居住空間の全体的ゆとり感（職種別）

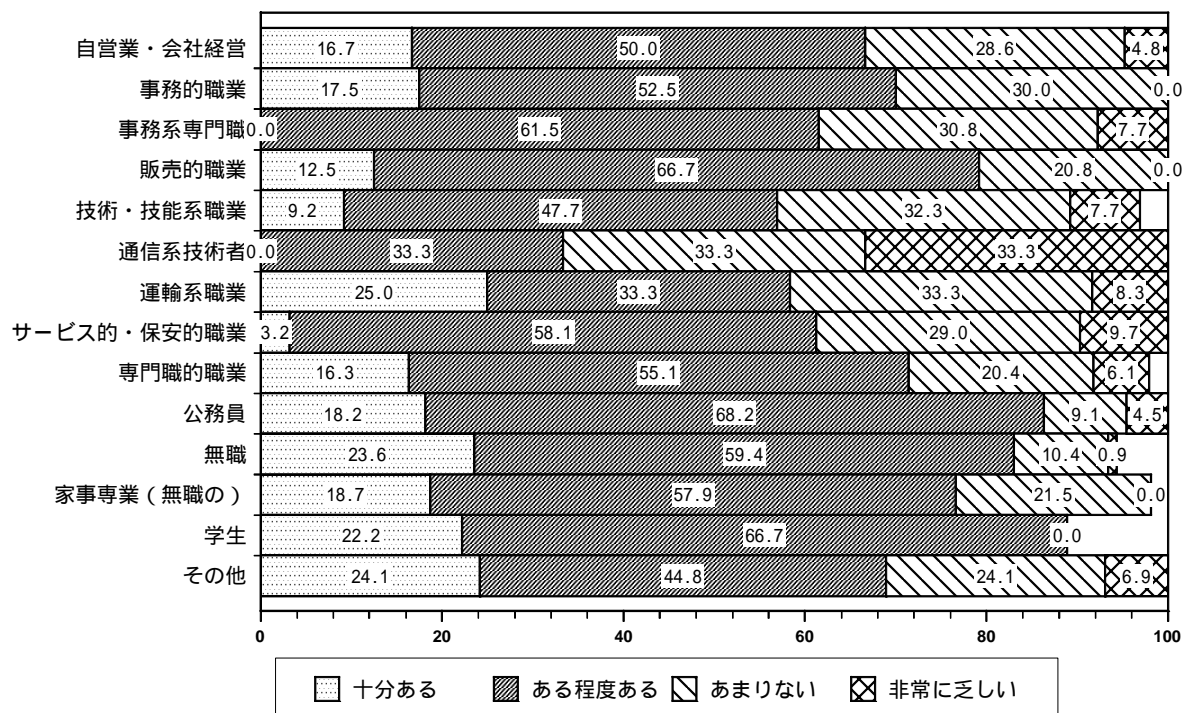
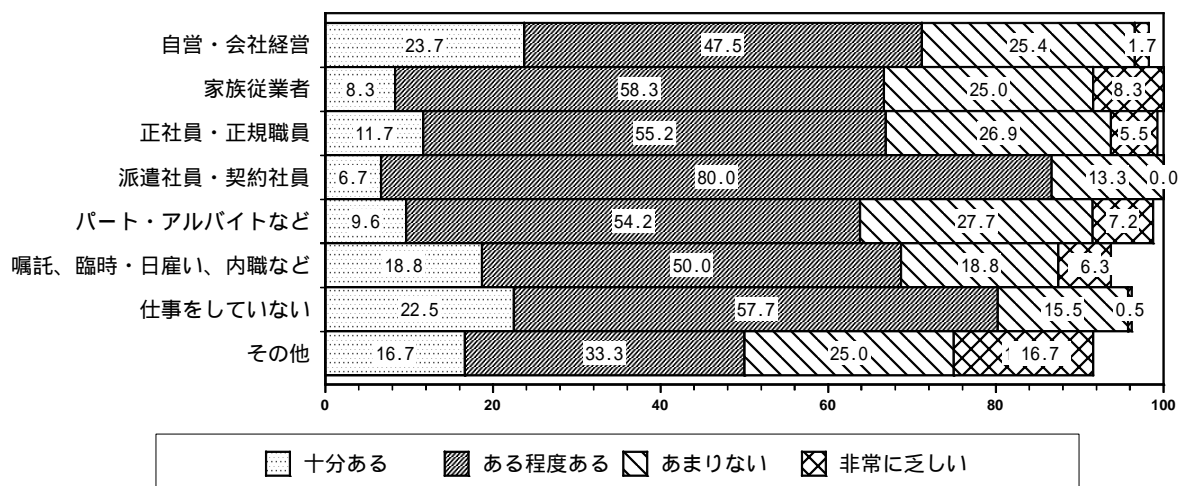


図15 居住空間の全体的ゆとり感（就業形態別）



居住空間面の全体的なゆとり感を職種別に示したのが図 14 である。これを見るとゆとり感が高いのは、公務員（行政職や警察官、消防官など）、学生、無職、販売的職業（商品の販売、店員、営業・セールスなど）、家事専業（無職の）などであり、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）は経済面ほどゆとり感があるとはいえないようである（個人の要求水準によるが）。経済面、時間面共にゆとり感が少なかった通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報

処理など)、運輸系職業(電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など)、サービスの・保安的職業(理容・美容、接客、清掃、警備など)、事務系専門職(医療事務、オペレーターなど)は居住空間面でもゆとり感が低い。

図 15 には就業形態の時間面の全体的ゆとり感を示した。これによると、ゆとり感が高いのは仕事をしていない人と派遣・契約社員であり、他は大差がない。

#### (4) 精神面の全体的ゆとり

精神面の全体的なゆとり感が高いのは、性別では男性、年代では60歳以上、配偶関係では既婚、離別、居住年では年数が短い人である。逆に低いのは、未婚、居住年の5~9年などである(図 16 参照)。しかし、属性による差は小さい。

図16 精神面の全体的ゆとり感(性別、年代別、配偶関係別、居住年)

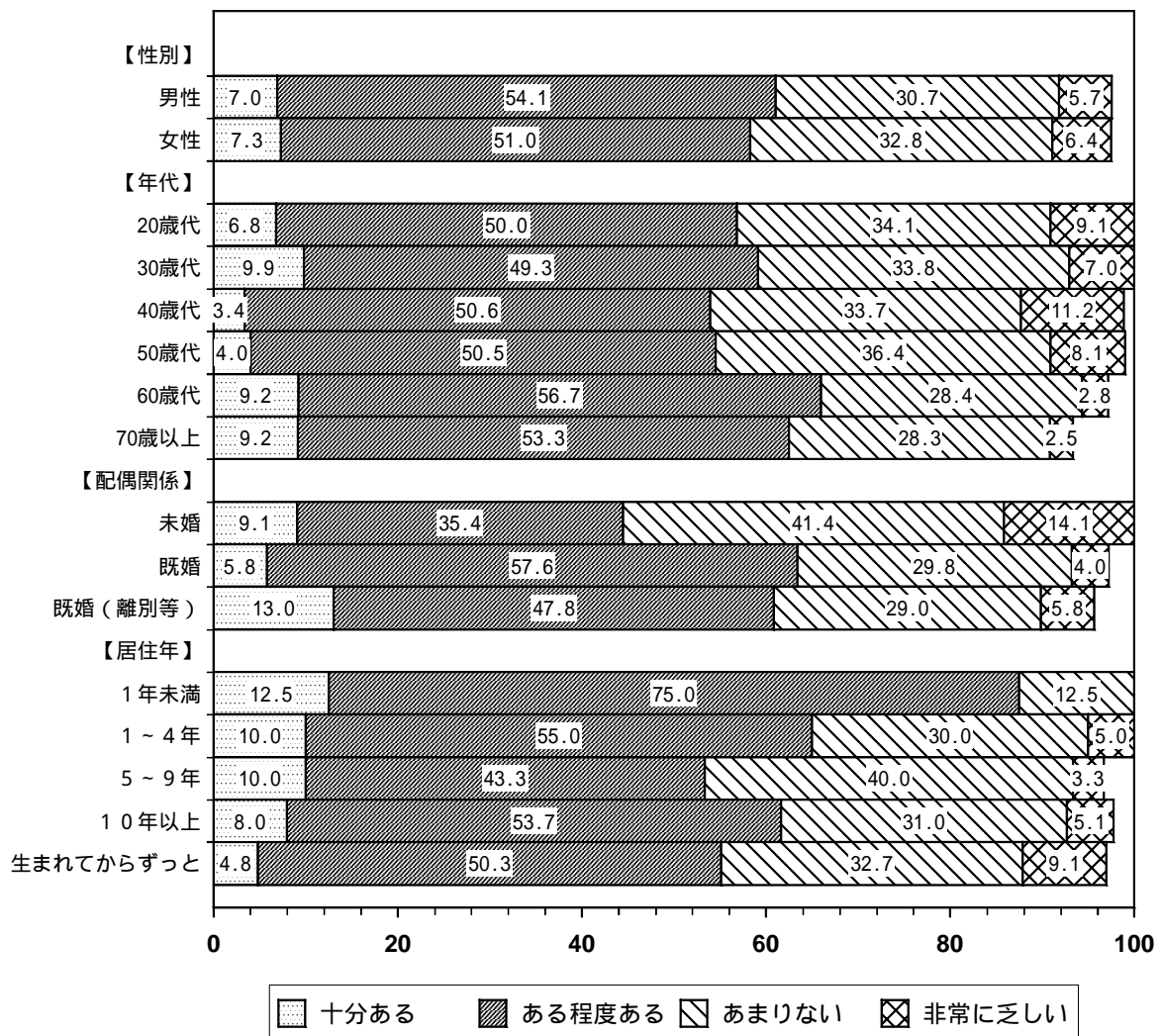


図17 精神面の全体的ゆとり感（職種別）

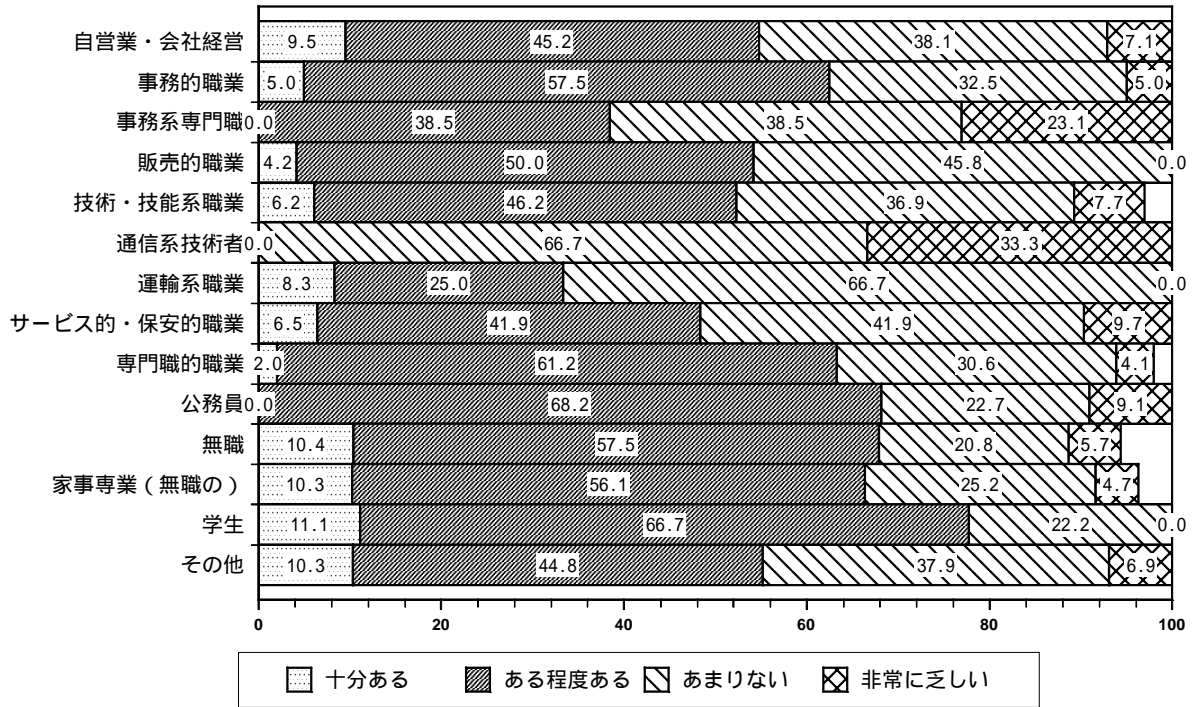
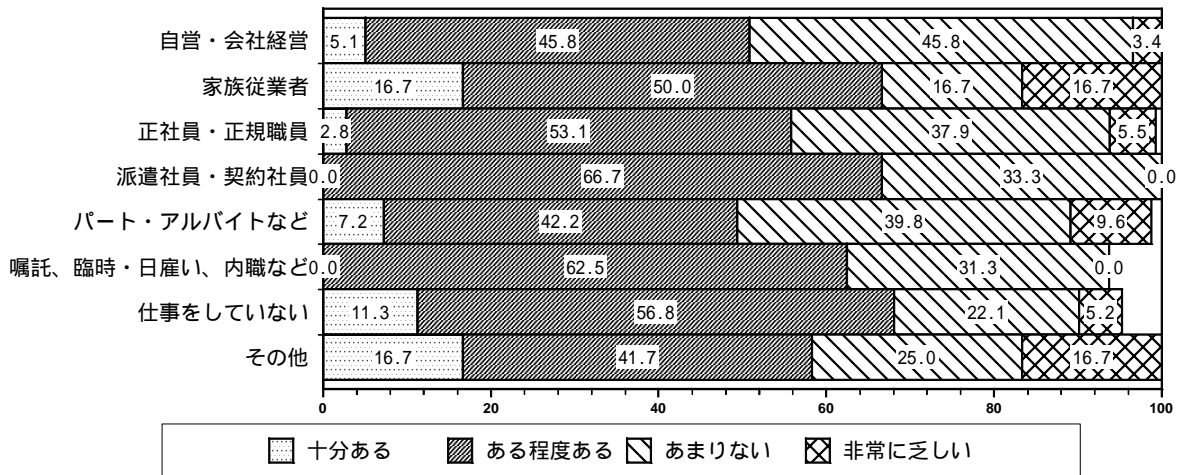


図18 精神面の全体的ゆとり感（就業形態別）



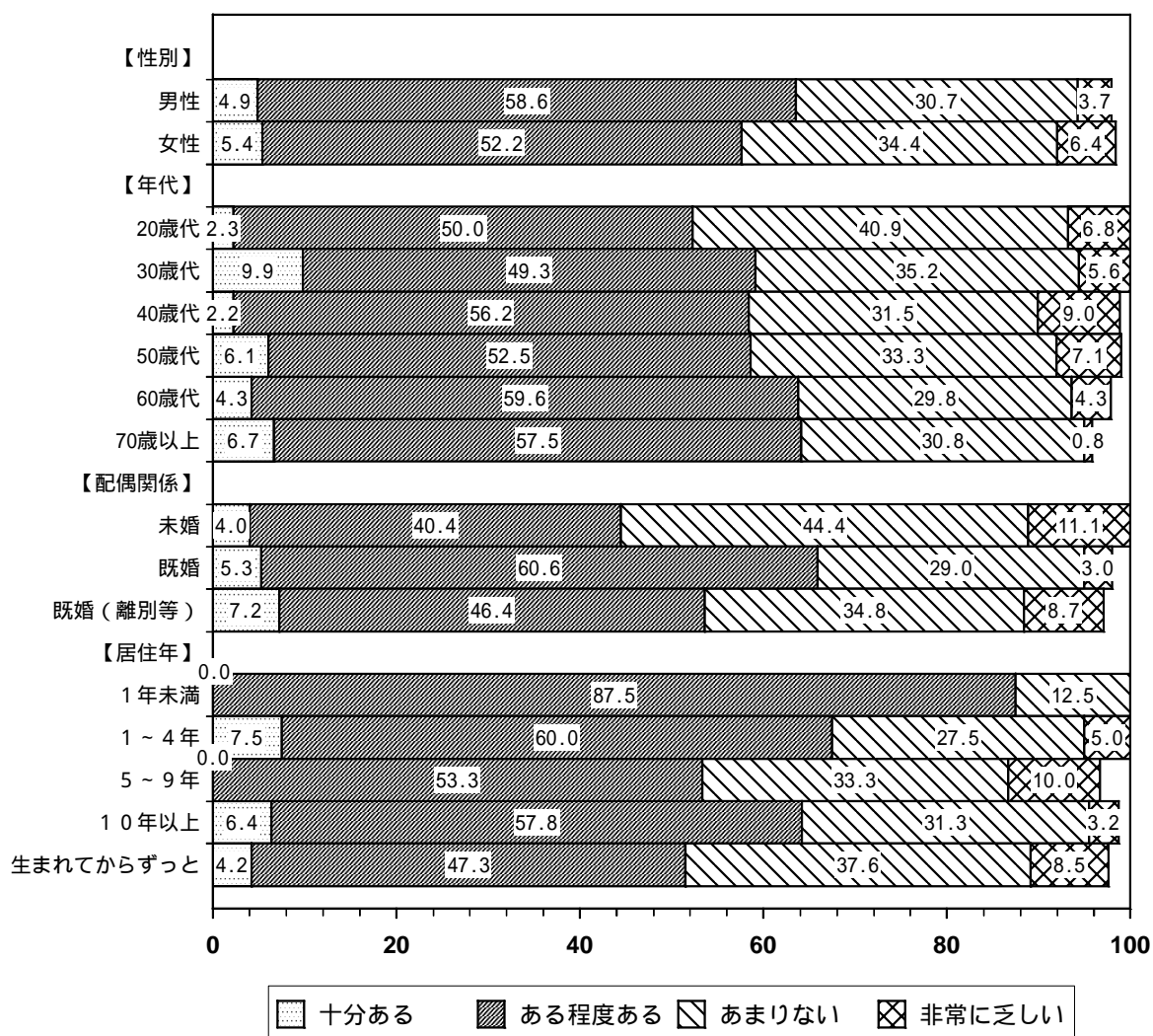
精神面の全体的なゆとり感を職種別に示した図17によると、ゆとり感が高いのは、学生、無職、家事専業（無職の）、公務員（行政職や警察官、消防官など）、事務的職業（一般事務、外勤事務、集金人など）、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）などであり、経済面、時間面、居住空間面共にゆとり感が少なかった通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理な

ど) 事務系専門職(医療事務、オペレーターなど)、運輸系職業(電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など)、サービスの・保安的職業(理容・美容、接客、清掃、警備など)は精神面でもゆとり感が少ない。

図 18 には就業形態の精神面の全体的ゆとり感を示した。これによると、精神面のゆとり感が高いのは仕事をしていない人、家族従業者、派遣・契約社員、嘱託、臨時・日雇い、内職などであり、ゆとり感が低いのはパート・アルバイトなど、自営・会社経営である。

### (5) 総合的な生活のゆとり

図19 生活の総合的ゆとり感(性別、年代別、配偶関係別、居住年)



総合的な生活のゆとり感が高いのは、性別では男性、年代では年代が高くなるほど、配偶関係では既婚、離別、居住年では年数が4年以内の短い人と10年以上の人である。逆に低いのは、未婚、居住年の5～9年などである（図19参照）。

図20 生活の総合的ゆとり感（職種別）

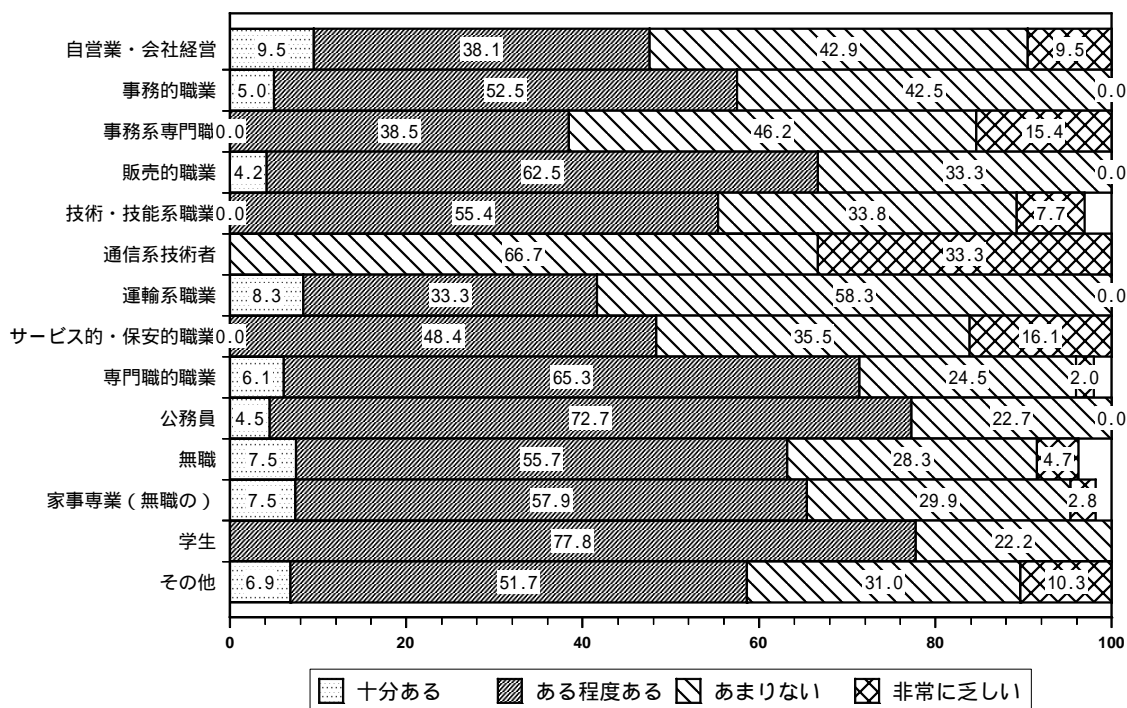
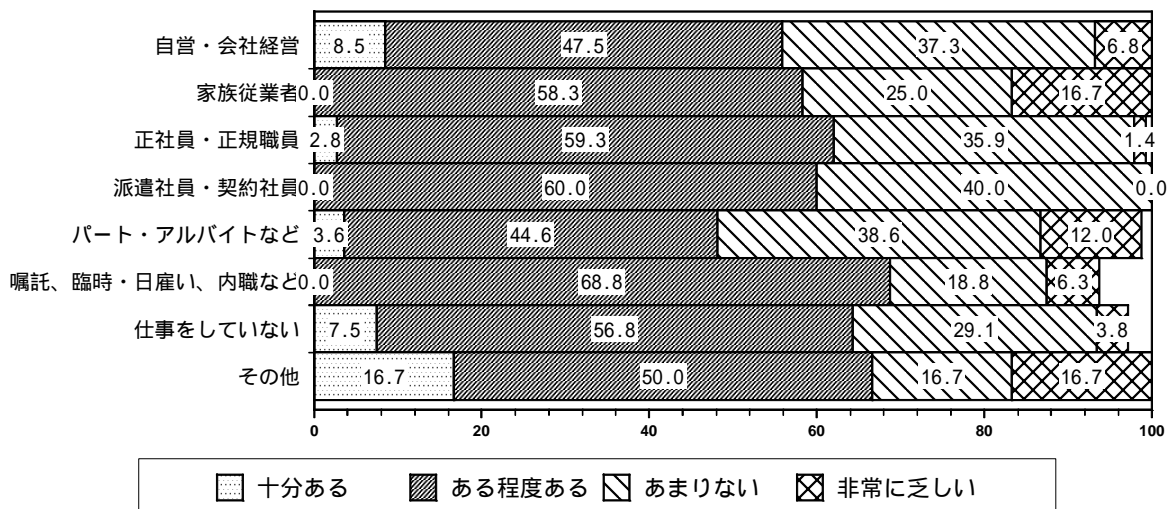


図21 生活の総合的ゆとり感（就業形態別）





総合的な生活のゆとり感を職種別に示した図 20 によると、ゆとり感が高いのは、学生、公務員（行政職や警察官、消防官など）、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）、販売的職業（商品の販売、店員、営業・セールスなど）である。無職や家事専業（無職の）は事務的職業（一般事務、外勤事務、集金人など）と同水準であるが、学生、公務員（行政職や警察官、消防官など）、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）よりは低い。経済面、時間面、精神面共にゆとり感が少なかった通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）、運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）、サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）、事務系専門職（医療事務、オペレーターなど）は総合的な生活のゆとり感でもゆとり感が少ない。

図 21 には就業形態の時間面の総合的な生活のゆとり感を示した。これによると、就業形態別では大きな差は認められないが、パート・アルバイトなどのゆとり感が低い。

なお、経済面の全体的ゆとり、時間面の全体的ゆとり、居住空間面の全体的ゆとり、精神面の全体的ゆとり、総合的な生活のゆとりについて、「十分ある」「ある程度ある」「あまりない」「非常に乏しい」の順に 4、3、2、1 点を配点して求めた全体の記述統計量は表 4 に示しているが属性別記述統計量は、性別では大差が認められないため、これを除いて末尾に参考として資料 3 記述統計量として示している。

### 3 全体的なゆとり不足の要素

図 22 には景気の回復感とともに生活面のゆとり不足を何により感じているかを示した。図により明らかな通り、生活面のゆとり不足は経済面の不足感が主であり、景気の回復感を感じていない。

表 7 は全体的な生活面のゆとりは何により不足していると感じているかを属性別に示している。表から明らかな通り、共通してゆとり不足を感じる要因は「経済的ゆとり」と「精神的ゆとり」である。一方、この点に関しても性別を除く年代や職種などの属性による違いが認められる。

年代では、年代が高くなるに従い、不足していると感じる要因が経済から精神的ゆとりに変化し、時間面のゆとり不足が減少する。配偶関係では大差が認められないが、既婚は経済的にも精神的にも不足を感じている人が少ない。

職種ではゆとり不足を感じる要因を経済面での不足とする人が通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職業の 7 割近く、事務系専門職・販売的職業と技術・技能系職業の 6 割近くを占めるのに対して、公務員、専門職はその半分である。しかし、精神的ゆとり不足が生活のゆとり不足の要因と感じている人が通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職、技術・技能系職業では少ない。公務員、専門職は時間的ゆとり不足を感じ

ている人が多い。

就業形態別では家族従業者、派遣社員・契約社員、パート・アルバイトなどは経済的ゆとり不足が多く、仕事をしていない人は経済面によるゆとり不足を感じている人は少ない。

精神面のゆとり不足を感じている人が多いのは派遣社員・契約社員である。なお、これらの結果のカイ2乗検定では、期待度数が小さく検定ができなかった中で年代に関しては、カイ2乗=67.946、df=25、 $p < .01$ で有意であった。

表8には景気の回復を感じる生活面について示したが、ほとんどは景気の回復を感じていないという結果である。不安定雇用とされる派遣社員・契約社員には、仕事における精神的ゆとりが出てきたことから景気の回復を感じている人もいる。

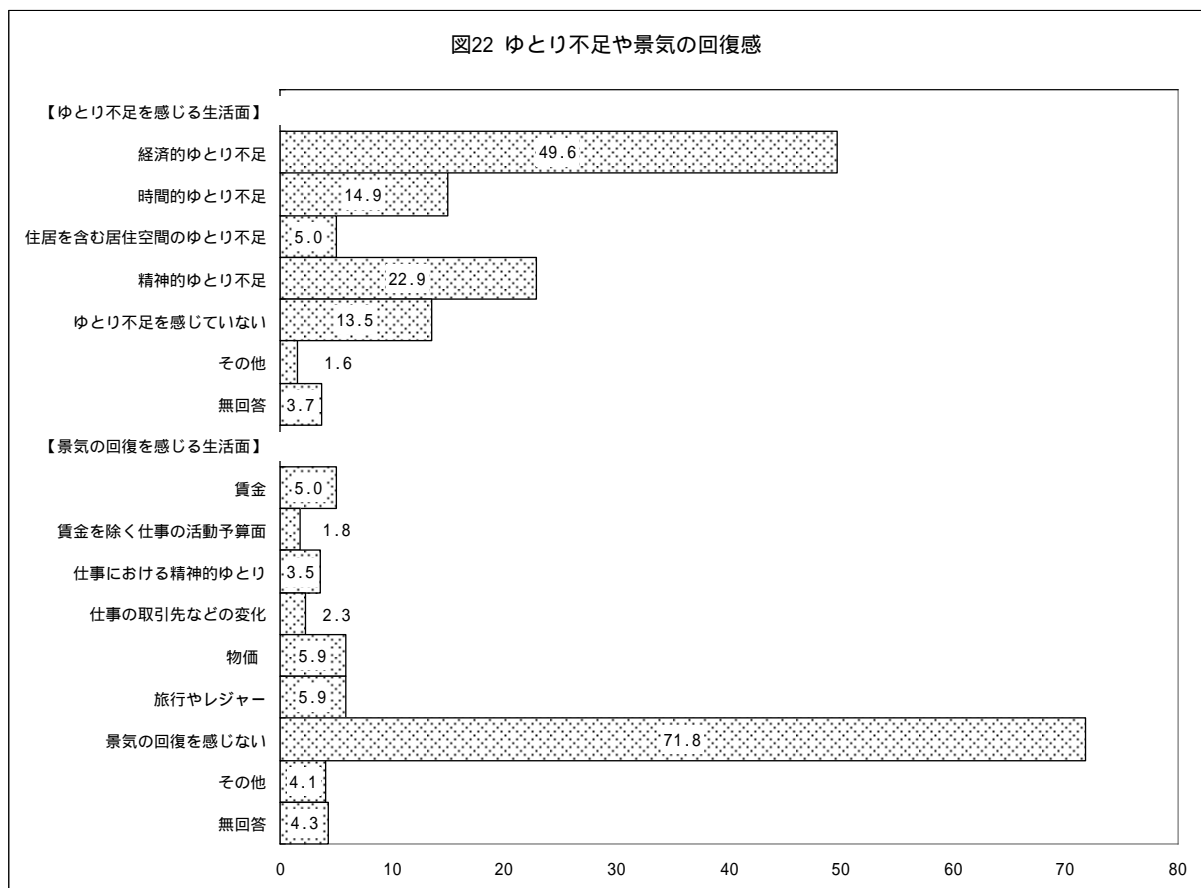


表7 ゆとり不足を感じる生活面

	経済的 ゆとり不足	時間的 ゆとり不足	住居を含む 居住空間の ゆとり不足	精神的 ゆとり不足	ゆとり不足 を感じない
男性	49.6	13.9	4.5	23.0	14.3
女性	50.0	15.9	5.4	22.3	12.7
20歳代	52.3	13.6	4.5	20.5	9.1
30歳代	49.3	29.6	4.2	21.1	9.9
40歳代	57.3	23.6	2.2	20.2	6.7
50歳代	57.6	17.2	8.1	23.2	7.1
60歳代	46.8	9.2	7.1	19.9	19.9
70歳以上	40.0	5.0	2.5	30.0	20.0
未婚	57.6	13.1	6.1	28.3	9.1
既婚（現在、夫または妻がいる）	46.7	16.7	4.3	21.2	14.9
既婚（配偶者と離別または死別）	55.1	7.2	7.2	24.6	11.6
自営業・会社経営	54.8	14.3	2.4	28.6	11.9
事務的職業	50.0	22.5	2.5	22.5	12.5
事務系専門職・販売的職業	56.8	18.9	2.7	24.3	5.4
通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	67.4	13.0	6.5	15.2	6.5
技術・技能系職業	58.5	23.1	6.2	16.9	12.3
学生、その他	60.5	15.8	7.9	23.7	7.9
専門職的職業	30.6	32.7	4.1	26.5	14.3
公務員	27.3	31.8	4.5	22.7	13.6
無職	46.2	-	1.9	25.5	22.6
家事専業（無職の）	44.9	9.3	9.3	23.4	13.1
自営・会社経営	45.8	15.3	1.7	27.1	18.6
家族従業者	66.7	25.0	-	16.7	-
正社員・正規職員	46.2	30.3	4.1	22.1	6.2
派遣社員・契約社員	60.0	13.3	-	33.3	20.0
パート・アルバイトなど	62.7	12.0	7.2	19.3	12.0
嘱託、臨時・日雇い、内職など	50.0	18.8	-	25.0	12.5
仕事をしていない	46.9	4.2	5.6	23.0	17.4
その他	33.3	25.0	25.0	41.7	8.3

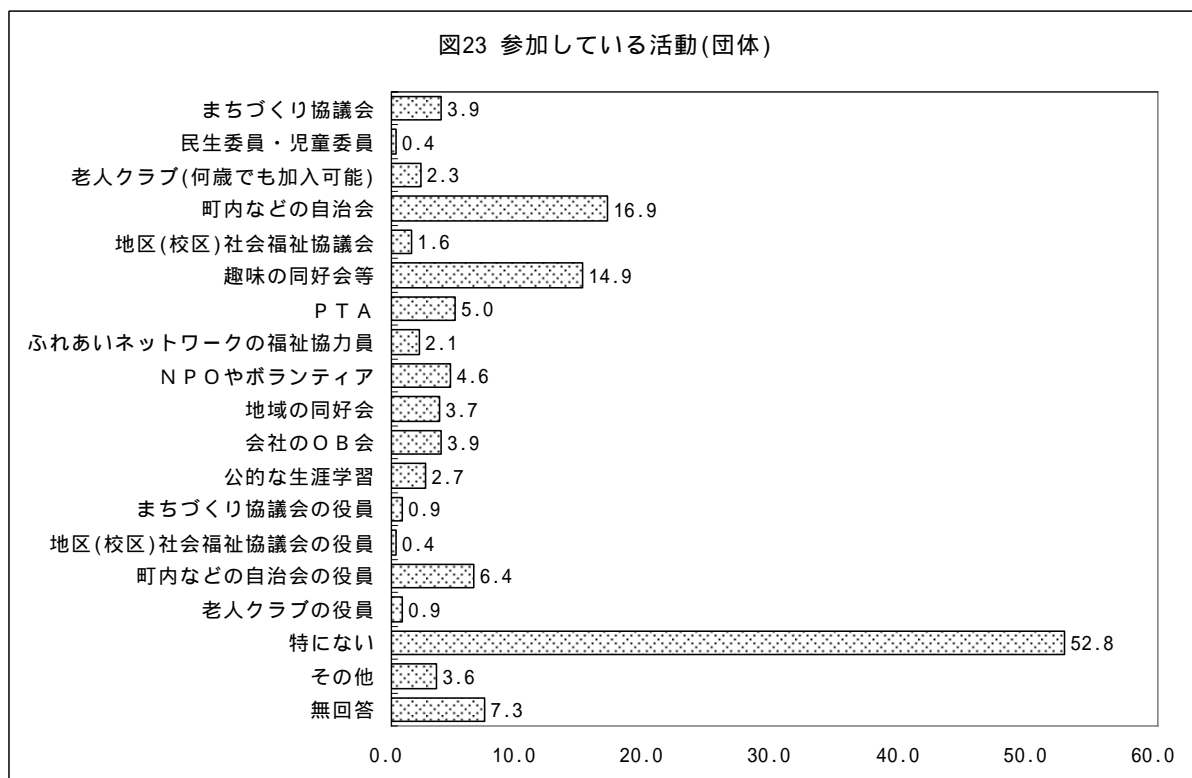
表8 景気の回復を感じる生活面

	賃金	賃金を除く 仕事の活動 予算面	仕事におけ る精神的ゆ とり	仕事 の取引 先などの変 化	物価	旅行やレジ ヤ	景気 の回復 を感じない
男性	3.7	2.5	4.1	2.5	4.5	3.3	74.6
女性	6.1	1.3	3.2	2.2	7.0	7.6	69.4
20歳代	11.4	-	-	-	11.4	2.3	70.5
30歳代	5.6	-	4.2	2.8	1.4	7.0	78.9
40歳代	6.7	5.6	4.5	3.4	5.6	5.6	73.0
50歳代	6.1	2.0	3.0	5.1	4.0	4.0	72.7
60歳代	5.0	1.4	5.0	2.1	7.1	8.5	67.4
70歳以上	-	0.8	2.5	-	6.7	5.0	71.7
未婚	8.1	-	4.0	-	6.1	3.0	76.8
既婚	4.3	2.5	3.5	2.8	5.8	7.3	70.2
既婚（離別など）	4.3	-	2.9	2.9	5.8	1.4	73.9
自営業・会社経営	2.4	2.4	4.8	7.1	7.1	7.1	71.4
事務的職業	5.0	7.5	2.5	5.0	5.0	5.0	70.0
事務系専門職・販売的職業	5.4	2.7	2.7	5.4	-	5.4	75.7
通信、運輸、サービス・保安	10.9	2.2	10.9	2.2	4.3	2.2	69.6
技術・技能系職業	12.3	6.2	4.6	3.1	3.1	3.1	72.3
学生、その他	5.3	-	7.9	-	5.3	2.6	81.6
専門職的職業	2.0	-	6.1	4.1	6.1	12.2	71.4
公務員	4.5	-	4.5	-	4.5	9.1	77.3
無職	0.9	-	-	0.9	5.7	3.8	74.5
家事専業（無職の）	3.7	-	-	-	10.3	9.3	66.4
自営・会社経営	3.4	3.4	8.5	8.5	10.2	5.1	62.7
家族従業者	-	-	8.3	-	-	-	83.3
正社員・正規職員	6.2	2.8	4.1	3.4	3.4	5.5	73.1
派遣社員・契約社員	6.7	13.3	20.0	6.7	-	-	66.7
パート・アルバイトなど	10.8	2.4	6.0	1.2	6.0	4.8	71.1
嘱託、臨時・日雇い、内職	12.5	-	-	-	6.3	12.5	75.0
仕事をしていない	1.9	-	-	0.5	7.0	7.0	72.3
その他	-	-	-	-	8.3	8.3	91.7

## 地域活動や社会関係と全体的生活満足感の関連性

### 1 地域活動への参加と全体的生活満足感の関連性

図23に示す通り、地域の活動に参加している人といない人が各5割程度である。参加している主な活動は「町内などの自治会」「趣味の同好会等」であるが、前者のほとんどは加入しているだけで、「町内など自治会の役員」にならなければ実際の活動は伴わないのが実情であろう。



この結果を全体的生活満足感に「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」の順に2、1、0、-1、-2点と配点し、地域活動の内容別に属性別記述統計量を表9に示した。

表9によると、平均値が全体の平均値0.662を下回っているのは「P T A」「まちづくり協議会の役員」「特にない(参加している活動がない)」の三者のみであり、他の地域活動参加者の全体的生活満足感はいずれも全体の平均値を上回っている。ただし、「民生委員・児童委員」「地区(校区)社会福祉協議会」「まちづくり協議会の役員」「地区(校区)社会福祉協議会の役員」「老人クラブの役員」等は回答者数も少なく、一人が役員を重複している場合もある。この結果を「特にない(参加している活動がない)」と「何らかの地域活動に参加している」に分けて、記述統計量を示したのが表10である。平均値の差の検定では有意な結果になった。

表9 参加したり役員をしている活動（複数回答）別全体的生活満足感記述統計量

	度数	最大値	最小値	平均値	標準偏差
全体	564	2	-2	0.662	1.087
まちづくり協議会	22	2	-2	0.818	1.181
民生委員・児童委員	2	2	1	1.500	0.707
老人クラブ(何歳でも加入可能)	13	2	0	1.417	0.669
町内などの自治会	95	2	-2	0.763	1.165
地区(校区)社会福祉協議会	9	2	1	1.444	0.527
趣味の同好会等	84	2	-2	0.917	0.853
P T A	28	2	-2	0.464	1.290
ふれあいネットワークの福祉協力員	12	2	-1	1.167	0.937
N P Oやボランティア	26	2	-1	1.154	0.732
地域の同好会	21	2	-2	0.789	0.976
会社のO B会	22	2	-2	0.818	1.053
公的な生涯学習	15	2	-2	0.867	1.187
まちづくり協議会の役員	5	2	-2	0.600	1.517
地区(校区)社会福祉協議会の役員	2	1	1	1.000	0.000
町内などの自治会の役員	36	2	-2	0.917	1.156
老人クラブの役員	5	2	1	1.400	0.548
特にない	297	2	-2	0.544	1.113
その他	20	2	-1	0.895	1.049

表10 地域活動への参加有無別記述統計量

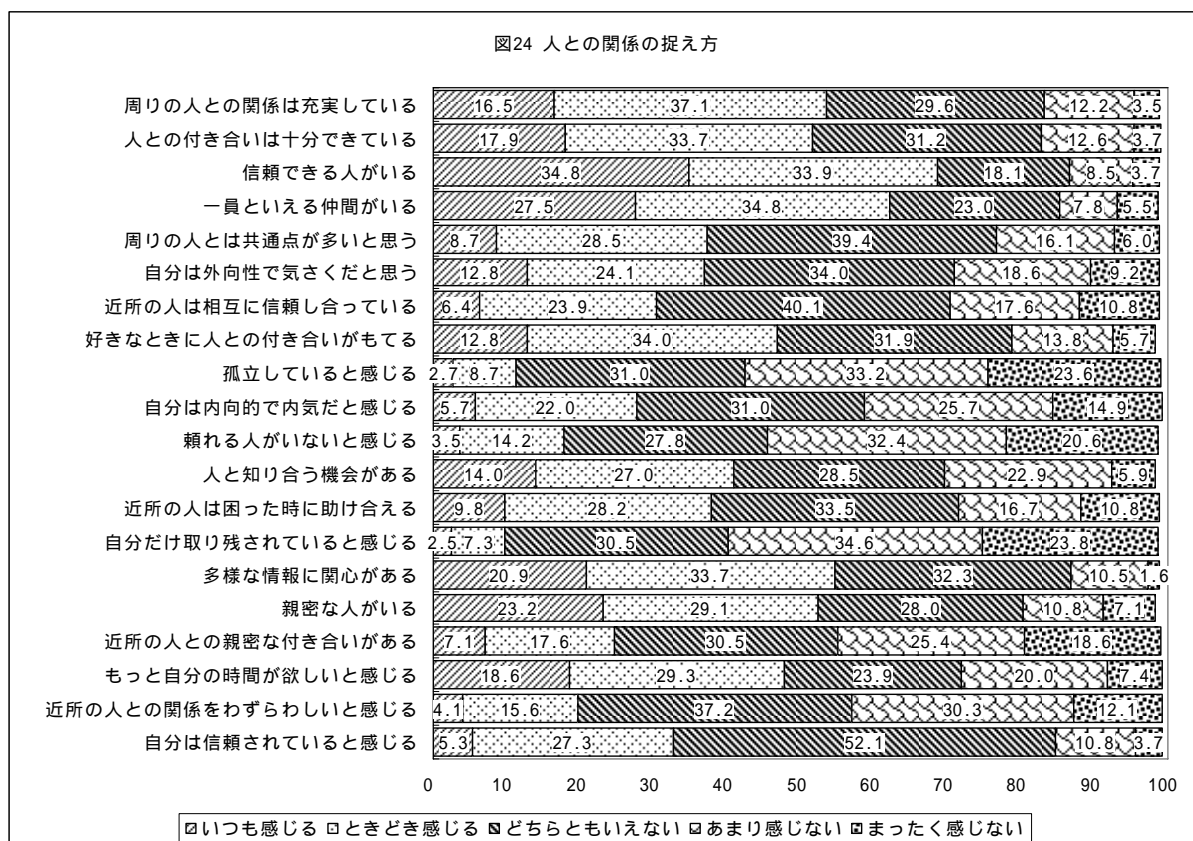
地域活動参加	度数	平均値	標準偏差
参加していない	294	0.544	1.113
参加している	260	0.796	1.044

表10に示した記述統計量の平均値の差の検定結果は、 $t=-2.737$ 、 $df=552$ 、 $P<.01$ である。これにより、地域活動に参加していない人に比べて参加している人の全体的生活満足感が有意に高いという結果になった。

## 2 社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性

図 24 は周りの人と自己との関係をどのように感じているかを質問した 20 項目について示している。これは自己が他者との関係を捉えている社会的認知でもある。この結果によると「孤立している」「自分だけ取り残されている」「頼れる人がいない」とともに「近所の人と親密な付き合いがある」についても「いつも感じる」「時々感じる」が少ない。前三者は社会的孤立を示唆しているが、「近所の人と親密な付き合いがある」はこれとは逆の意味をもつ。「近所の人との関係をわずらわしいと感じる」は社会関係に関して否定的な態度である。このように「いつも感じる」「時々感じる」「どちらともいえない」「あまり感じない」「まったく感じない」により、社会関係では肯定にも否定にもなる。図 24 では「孤立している」「自分は内向的で内気だ」「頼れる人がいない」「自分だけ取り残されている」「もっと自分の時間が欲しいと感じる」「近所の人との関係をわずらわしい」は否定的である。

図によると「孤立している」「頼れる人がいない」「自分だけ取り残されている」「自分は内向的で内気だ」「近所の人との関係をわずらわしい」に関しては「いつも感じる」「時々感じる」は少ない。概ね「周りの人との関係は充実」し、「人との付き合いは十分できて」おり、「信頼できる人」「一員といえる仲間」がいる。一方で「近所の人との相互信頼」は不十分であり、「近所の人との関係をわずらわしい」と感じている面もある。



これらの社会関係別に全体的生活満足感の記述統計量を示したのが表 11 である。上述した通り、全体的生活満足感は「満足している」から「不満である」までを-2~2 点と配点し、社会関係の ~ は「あまり感じない」「まったく感じない」と「いつも感じる」「時々感じる」を「感じない」「感じる」にまとめて「どちらともいえない」は除外した。p は平均値の差の検定による有意確率(両側)で、\*\*は 1%水準で有意であることを示す。「多様な情報に関心がある」「もっと自分の時間が欲しいと感じる」以外は 1%水準で有意であった。この結果から、他者との関係の認知で、関係を良好と捉えている人の方が全体的生活満足感は有意に高いといえる。

表 11 全体的生活満足感の社会関係の認知別記述統計量

		度数	平均値	標準偏差	P
周りの人との関係は充実している	感じない	89	-0.067	1.241	**
	感じる	302	0.929	0.977	
人との付き合いは十分できている	感じない	92	-0.033	1.293	**
	感じる	291	0.926	0.976	
信頼できる人がいる	感じない	69	-0.014	1.157	**
	感じる	387	0.813	1.039	
一員といえる仲間がいる	感じない	75	0.173	1.190	**
	感じる	351	0.816	1.028	
周りの人とは共通点が多いと思う	感じない	125	0.213	1.201	**
	感じる	210	0.932	1.017	
自分は外向性で気さくだと思う	感じない	157	0.342	1.159	**
	感じる	208	0.917	0.964	
近所の人とは相互に信頼し合っている	感じない	160	0.430	1.191	**
	感じる	171	0.880	1.066	
好きなときに人との付き合いがもてる	感じない	110	0.167	1.180	**
	感じる	264	0.965	0.924	
孤立していると感じる	感じない	64	-0.111	1.284	**
	感じる	320	0.875	0.987	
自分は内向的で内気だと感じる	感じない	156	0.439	1.179	**
	感じる	229	0.803	1.034	
頼れる人がいないと感じる	感じない	100	0.192	1.235	**
	感じる	299	0.921	0.969	



表 11 全体的生活満足感の社会関係の認知別記述統計量(続き)

人と知り合う機会がある	感じない	162	0.409	1.115	**
	感じる	231	0.877	0.995	
近所の人困った時に助け合える	感じない	155	0.487	1.201	**
	感じる	214	0.901	0.985	
自分だけ取り残されていると感じる	感じない	55	-0.127	1.292	**
	感じる	329	0.910	0.967	
多様な情報に関心がある	感じない	68	0.727	1.060	
	感じる	308	0.751	1.062	
親密な人がいる	感じない	101	0.250	1.123	**
	感じる	295	0.872	1.023	
近所の人との親密な付き合いがある	感じない	248	0.480	1.116	**
	感じる	139	0.985	1.004	
もっと自分の時間が欲しいと感じる	感じない	270	0.609	1.115	
	感じる	155	0.743	1.020	
近所の人との関係をわずらわしいと感じる	感じない	111	0.486	1.252	**
	感じる	239	0.814	0.997	
自分は信頼されていると感じる	感じない	82	0.222	1.107	**
	感じる	184	0.955	1.016	

## 生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

ここまで検討してきた結果、全体的生活満足感には生活の全体的ゆとり感の中の「経済面の全体的ゆとり」、経済面のゆとりの中の「老後の備え」「教育や子育て資金」「病気などの万一の備え」、日常生活でのゆとりの中の「将来に関するゆとり」「家族の介護のゆとり」が関連している。また、地域活動への参加、社会関係の認知も関連性が高いと推測できる。以下ではこれらと全体的生活満足感の関連性について検討する。以下で記述統計量は既に表4～6等に示しているために省略する。相関係数はJMP9を用いている。

### 1 全体的ゆとり感と全体的生活満足感の関連性

記述統計量は表4に示しているため、表12には全体的ゆとり感と全体的生活満足感の相関係数を示した。この結果からも明らかな通り、全体的生活満足感と経済面の全体的ゆとり感の関連性が高いことがわかる。時間面や居住空間面の関連性は弱い。なお、相関係数は絶対値が大きいほど関連性が増すことになるが、基準が明確なわけではない。ここでは「0.7～1.0 かなり強い関連」、「0.4～0.7 関連あり」、「0.2～0.4 弱い関連」、「0.0～0.2 ほとんど関連なし」を基準とする。表中の\*\*は1%、\*は5%の有意水準を示す。

表12 全体的ゆとり感と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
経済面の全体的ゆとり	.531**
時間面の全体的ゆとり	.201**
居住空間面の全体的ゆとり	.365**
精神面の全体的ゆとり	.484**
総合的に見た場合の生活をゆとり	.598**

### 2 経済面のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

表13には経済面のゆとり感5項目と全体的生活満足感のペアによる相関係数を示した。ここまでの検討から、全体的生活満足感と経済面の関連性は高いと推測したのであるが、図が示す通り、～すべてで関連ありを示している。ただし、上述した内容とは多少異なっているのは、「老後の備え」「教育や子育て資金」「病気など万一の場合の経済的余裕」と「毎日の生活費」「交際費・娯楽費」の関連性に差がなく、むしろ「老後の備え」の関連性が低めであることである。上記の検討からは「老後の備え」が強い関連性があると考えられたのであるが、結果はそうではなかった。記述統計量は表5に示している。

表 13 経済面のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
毎日の生活費	.511**
病気など万一の場合の経済的余裕	.507**
教育や子育て資金	.510**
老後の備え	.487**
交際費・娯楽費	.503**

### 3 日常生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

表 14 に示す通り、日常生活のゆとり感とした ~ 各項目と全体的生活満足感の間には「将来に関するゆとり」のみ関連性があり、「家族の介護のゆとり」も含め、他は 0.2~0.4 弱い関連がある程度であった。この記述統計量は表 6 に示している。

表 14 日常生活のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
家事や育児のゆとり	.329**
家族の介護のゆとり	.303**
家族関係のゆとり	.393**
将来に関するゆとり	.490**
余暇時間	.269**

以上の関連性の結果から、全体的生活満足感と経済面の関連性が他の生活の側面よりも強いことがわかる。ただし、ここまでの検討の結果として関連性が高いとして上述した「老後の備え」「教育や子育て資金」「病気などの万一の備え」、日常生活でのゆとりの中の「将来に関するゆとり」「家族の介護のゆとり」は関連性はあるものの、予測したような他と大差があるといえるほどの関連性は認められなかった。

### 4 社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性

社会関係の認知は、自己と他者の関係をどのように捉えているかを表している。この項目は UCLA 孤独感尺度を参考に作成した。表 15 にはその基本統計量を示している。配点は「いつも感じる」「時々感じる」「どちらともいえない」「あまり感じない」「まったく感じない」の順に 2、1、0、-1、-2 とした。ただし、「孤立していると感じる」「自分は内向的で内気だと感じる」「頼れる人がいないと感じる」「自分だけ取り残され

ていると感じる」「もっと自分の時間が欲しいと感じる」「近所の人との関係をわずらわしいと感じる」は逆の配点をした。

表 15 社会関係の認知の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
周りの人との関係は充実している	558	-2	2	0.513	1.023
人との付き合いは十分できている	559	-2	2	0.499	1.045
信頼できる人がいる	558	-2	2	0.884	1.098
一員といえる仲間がいる	556	-2	2	0.719	1.120
周りの人とは共通点が多いと思う	557	-2	2	0.180	1.009
自分は外向性で気さくだと思う	557	-2	2	0.127	1.144
近所の人とは相互に信頼し合っている	557	-2	2	-0.025	1.057
好きなときに人との付き合いがもてる	554	-2	2	0.350	1.057
孤立していると感じる	559	-2	2	0.669	1.018
自分は内向的で内気だと感じる	560	-2	2	0.223	1.123
頼れる人がいないと感じる	556	-2	2	0.531	1.083
人と知り合う機会がある	554	-2	2	0.208	1.129
近所の人とは困った時に助け合える	558	-2	2	0.095	1.131
自分だけ取り残されていると感じる	556	-2	2	0.709	.994
多様な情報に関心がある	558	-2	2	0.625	.983
親密な人がいる	554	-2	2	0.514	1.174
近所の人との親密な付き合いがある	559	-2	2	-0.311	1.173
もっと自分の時間が欲しいと感じる	560	-2	2	-0.318	1.203
近所の人との関係をわずらわしいと感じる	560	-2	2	0.309	1.009
自分は信頼されていると感じる	560	-2	2	0.198	.843

他者との関係からの自己の捉え方（社会関係の認知）で平均値が高いのは「信頼できる人がいる」「自分だけ取り残されていると感じる」「一員といえる仲間がいる」「孤立していると感じる」「頼れる人がいないと感じる」「周りの人との関係は充実している」「人との付き合いは十分できている」等である。

標準偏差が小さい項目は「多様な情報に関心がある」「自分は信頼されていると感じる」「自分だけ取り残されていると感じる」であり、これらの項目はバラツキが小さいことを示している。

「自分だけ取り残されていると感じる」「孤立していると感じる」「頼れる人が

いないと感じる」に関しては「いつも感じる」に-2、「ときどき感じる」に-1、「どちらともいえない」に0、「あまり感じない」に1、「まったく感じない」に2と配点していることから、平均値が高いことは「自分だけ取り残されていると感じる」「孤立していると感じる」「頼れる人がいないと感じる」人が少ないことを示している。

平均値が低いのは「もっと自分の時間が欲しいと感じる」「近所の人との親密な付き合いがある」「近所の人とは相互に信頼し合っている」「近所の人とは困った時に助け合える」「周りの人とは共通点が多いと思う」「自分は外向的で気さくだと思う」などであり、近所の人との信頼関係やお互い様の親密な付き合いができていないと捉えている。

表 16 社会関係の認知と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
周りの人との関係は充実している	.344**
人との付き合いは十分できている	.328**
信頼できる人がいる	.278**
一員といえる仲間がいる	.230**
周りの人とは共通点が多いと思う	.248**
自分は外向的で気さくだと思う	.218**
近所の人とは相互に信頼し合っている	.175**
好きなときに人との付き合いがもてる	.279**
孤立していると感じる	.302**
自分は内向的で内気だと感じる	.151**
頼れる人がいないと感じる	.282**
人と知り合う機会がある	.202**
近所の人とは困った時に助け合える	.198**
自分だけ取り残されていると感じる	.332**
多様な情報に関心がある	.061
親密な人がいる	.216**
近所の人との親密な付き合いがある	.212**
もっと自分の時間が欲しいと感じる	.045
近所の人との関係をわずらわしいと感じる	.122**
自分は信頼されていると感じる	.238**

表 16 には社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性を示した。これによると、6項目で関連性が認められず、残りの項目も0.4に満たない弱い関連があるにすぎない。「いつも感じる」「ときどき感じる」をまとめて「感じる」とし、「あまり感じない」「まったく感じない」を「感じない」としてまとめて表 11 に示した平均値の差の検定結果では「感じる」方が有意に全体的生活満足感が高かったのであるが、相関関係（一方が変化すると他方も変化する）では弱いという結果である。

## 5 地域活動への参加と全体的生活満足感の関連性

地域活動への参加は表 10 に示した参加の有無と同様に何らかの地域活動に参加している人と特に参加していない人に分けて、「地域活動に参加している人」2、「地域活動に参加していない人」1点を配点して記述統計量を示している。表 17 には全体的生活満足感の記述統計量も示している。表 18 はこの配点による地域活動への参加と全体的生活満足感の関連を示している。この地域活動への参加の有無も社会関係の認知と同様、参加している人の全体的生活満足感の平均値が高く、関連性を予測したのであるが、ほとんど関連がないという結果である。

表 17 地域活動への参加の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体的生活満足度得点	554	-2	2	.66	1.087
地域活動参加	564	1	2	1.47	.500

表 18 地域活動への参加と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
地域活動参加	.116**

## おわりに

全体的生活満足感は調査をすれば、概ね常に高いという結果は何が要因となり、何と関連性が強いために、常に高く維持され続けるのかを探るのがここまでの目的であった。そのために関連するであろうと推測した「生活面のゆとり」という曖昧な調査項目を設定した。曖昧なために分析する視点も曖昧にならざるを得ないのであるが、この他に地域活動への参加や社会関係の認知に関する項目を含め、これらが全体的生活満足感に関連する何かを生じさせるのではないかと分析の視点に据えたのであるが、全体的生活満足感自体が曖昧なために、結果は曖昧なままである。経済面よりは安定していると考えられる地域活動への参加や社会関係の認知の違いによる全体的生活満足感の有無得点では、平均値の

差の検定などによると有意性を示しても相関関係では強い関連性を認められなかった。このため、全体的生活満足感を常に高く維持する「何か」を生じさせる要因を特定できないままである。

### 1 「経済面の全体的ゆとり」と「精神面の全体的ゆとり」感

生活の全体的ゆとり感という曖昧な項目では、全体的生活満足感を常に高く維持する「何か」について、生活の「経済面の全体的ゆとり」と「精神面の全体的ゆとり」に関連性が認められた。経済面の中でも「毎日の生活費」「教育や子育て資金」など日常で直面することや、「将来に関するゆとり」ともいえる「病気など万一の場合の経済的余裕」「老後の備え」などが関連していることが分かった。

精神面では「将来に関するゆとり」に象徴される不確実性が関連している。「毎日の生活費」よりも不確実な「病気など万一の場合の経済的余裕」「老後の備え」などがそれである。

### 2 地域活動参加や社会関係の認知

精神面のゆとりに関連することとしては、上記の不確実性ととも社会関係の認知や近所の人とのお互い様の信頼関係などを考えることができる。地域活動への参加を通して近所の人との親密度や信頼関係が出来上がることが精神面のゆとりを生じさせる要因と考えて地域活動の有無を、さらに他者との関係の認知が精神面のゆとりを生じさせる要因と予測して分析したのであるが、これらに関しては明確な結果が得られていない。表 19 には地域活動参加と主なゆとり感との関連性を示したが、関連性は認められなかった。

表 19 地域活動参加とゆとり感の相関関係

ゆとり感	地域活動への参加
全体的経済面でのゆとり	.151**
全体的精神面でのゆとり	.156**
生活を総合的に見た場合のゆとり	.163**
毎日の生活費	.125**
病気など万一の場合の経済的余裕	.066
教育や子育て資金	.183**
老後の備え	.145**
交際費・娯楽費	.110**
家事や育児のゆとり	.096*
家族の介護のゆとり	.142**
家族関係のゆとり	.096*
将来に関するゆとり	.173**

表 20 に「社会関係の認知」と「ゆとり感」、「地域活動への参加」との関連性を示した。肯定的な社会関係の認知と生活満足感に関連性の高かった経済面、精神面のゆとり感を示す項目との関連性を表は示しているが、弱い関連性は認められるものの 0.4 を超える関連性を認められる項目がない。この結果、全体的生活満足感は生活の経済面のゆとりや精神面のゆとりと関連性が認められるものの、そのゆとりが安定しているであろう地域活動への参加や社会関係の認知ではない、何かにより生ずるのかは不明である。

表 20 社会関係の認知とゆとり感の相関関係

	充 美 し て い る 周 り の 人 と の 関 係 は	分 で き て い る 人 と の 付 き 合 い は 十	信 頼 で き る 人 が い る	い る 一 員 と い え る 仲 間 が	親 密 な 人 が い る	頼 し 合 っ て い る 近 所 の 人 は 相 互 に 信	に 助 け 合 え る 近 所 の 人 は 困 っ た 時	付 き 合 い が あ る 近 所 の 人 と の 親 密 な	ら わ し い と 感 じ る 近 所 の 人 と の 関 係 を わ ず
全体的経済面でのゆとり	.219**	.233**	.194**	.186**	.151**	.152**	.109*	.193**	.152**
全体的時間面でのゆとり	.143**	.152**	.113**	.038	.107*	.155**	.167**	.173**	.121**
全体的居住空間面でのゆとり	.214**	.194**	.174**	.178**	.146**	.156**	.155**	.158**	.109*
全体的精神面でのゆとり	.326**	.337**	.226**	.190**	.214**	.213**	.195**	.185**	.203**
毎日の生活費	.263**	.291**	.240**	.195**	.167**	.169**	.113**	.157**	.217**
病気など万一の場合の経済的余裕	.237**	.248**	.228**	.204**	.190**	.144**	.088*	.167**	.143**
教育や子育て資金	.277**	.256**	.242**	.196**	.186**	.181**	.139**	.186**	.137**
老後の備え	.214**	.238**	.174**	.146**	.147**	.229**	.193**	.272**	.155**
家事や育児のゆとり	.158**	.181**	.148**	.111*	.103*	.145**	.157**	.092*	.119**
家族の介護のゆとり	.189**	.196**	.159**	.130**	.092*	.172**	.100*	.109*	.090*
家族関係のゆとり	.306**	.288**	.252**	.226**	.165**	.248**	.184**	.172**	.170**
将来に関するゆとり	.252**	.255**	.190**	.193**	.213**	.186**	.170**	.202**	.211**
地域活動参加	.236**	.239**	.185**	.222**	.214**	.244**	.216**	.282**	.154**

[ 参考文献 ]

橋木俊詔「いま、働くということ」ミネルヴァ書房、2011

ジョン・T・カシオポ&ウイリアム・パトリック著/柴田裕之訳「孤独の科学」河出書房新社、2010

三木準一「雇用形態の多様化と雇用調整」経済政策研究第2号、2006、pp139-166



## 資料

### 資料 1 調査の概要

#### (1)調査対象

北九州市に居住する 20～79 歳までの 1,500 人。

#### (2)調査期間

2014 年 1 月 6 日～1 月 27 日

#### (3)調査方法

調査票を郵送により送付し、回答後に郵送により返送する郵送留置法。

#### (4)調査対象者の選び方

選挙人名簿から所定の手続きを経て、無作為抽出（系統抽出）法による。

#### (5)回収率等

配布調査票	1,500
回収調査票	565(無効 1)(他に宛先不明返送 14)
回収率	37.7%
有効回収票	564
有効回収率	37.6%

資料2 基本属性

全体	564	100.0				
性別	度数	構成比	年齢5歳区分	度数	構成比	
男性	244	43.3	20～24歳	19	3.4	
女性	314	55.7	25～29歳	25	4.4	
無回答	6	1.1	30～34歳	28	5.0	
年齢10歳区分			35～39歳	43	7.6	
20歳代	44	7.8	40～44歳	50	8.9	
30歳代	71	12.6	45～49歳	39	6.9	
40歳代	89	15.8	50～54歳	50	8.9	
50歳代	99	17.6	55～59歳	49	8.7	
60歳代	141	25.0	60～64歳	76	13.5	
70歳以上	120	21.3	65～69歳	65	11.5	
家族構成			70～74歳	79	14.0	
ひとり暮らし	73	12.9	75歳以上	41	7.3	
夫婦のみ	174	30.9	配偶関係			
親世代との二世世代家族	88	15.6	未婚	99	17.6	
子世代との二世世代家族	179	31.7	既婚(現在、夫または妻がいる)	396	70.2	
親・子・孫・その他の親族の三世世代家族	33	5.9	既婚(配偶者と離別または死別)	69	12.2	
その他	14	2.5	居住年数			
無回答	3	0.5	1年未満	8	1.4	
住宅			1～4年	40	7.1	
一戸建て(借家)	46	8.2	5～9年	30	5.3	
一戸建て(持ち家)	278	49.3	10年以上	313	55.5	
アパート、マンションなどの共同住宅(借家)	78	13.8	生まれてからずっと	165	29.3	
アパート、マンションなどの共同住宅(持ち家)	105	18.6	無回答	8	1.4	
公営の借家(公団住宅、市営住宅など)	41	7.3				
勤め先の寮や職員住宅	12	2.1				
その他	4	0.7				

職種	度数	構成比
自営業・会社経営	42	7.4
事務的職業（一般事務、外勤事務、集金人など）	40	7.1
事務系専門職（医療事務、オペレーターなど）	13	2.3
販売的職業（商品の販売、店員、営業・セールスなど）	24	4.3
技術・技能系職業（製造、加工、組立、建設、その他技術者、作業員など）	65	11.5
通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）	3	0.5
運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）	12	2.1
サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）	31	5.5
専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）	49	8.7
公務員（行政職や警察官、消防官など）	22	3.9
無職	106	18.8
家事専業（無職の）	107	19.0
学生	9	1.6
その他	29	5.1
無回答	12	2.1
就業形態	度数	構成比
自営・会社経営	59	10.5
家族従業者	12	2.1
正社員・正規職員	145	25.7
派遣社員・契約社員	15	2.7
パート・アルバイトなど	83	14.7
嘱託など	11	2.0
臨時・日雇いなど	4	0.7
内職	1	0.2
仕事をしていない	213	37.8
その他	12	2.1
無回答	9	1.6

資料3 記述統計量

(1) 全体的ゆとり感の記述統計量

表1 全体的経済面でのゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.250	1	4	0.866
	30歳代	71	2.423	1	4	0.839
	40歳代	89	2.352	1	4	0.695
	50歳代	99	2.398	1	4	0.770
	60歳代	141	2.457	1	4	0.674
	70歳以上	120	2.586	1	4	0.591
配偶関係	未婚	99	2.182	1	4	0.800
	既婚(現在、夫または妻がいる)	396	2.506	1	4	0.680
	既婚(配偶者と離別または死別)	69	2.403	1	4	0.760
職種	自営業・会社経営	42	2.310	1	4	0.811
	事務的職業	40	2.500	1	4	0.751
	事務系専門職	13	2.231	1	4	0.927
	販売的職業	24	2.375	1	3	0.647
	技術・技能系職業	65	2.349	1	4	0.676
	通信系技術者	3	1.667	1	2	0.577
	運輸系職業	12	2.250	1	4	0.754
	サービスの・保安的職業	31	2.032	1	3	0.752
	専門職的職業	49	2.750	1	4	0.700
	公務員	22	2.636	1	4	0.658
	無職	106	2.515	1	4	0.698
	家事専業(無職の)	107	2.486	1	4	0.667
	学生	9	2.333	2	3	0.500
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.475	1	4	0.817
	家族従業者	12	2.000	1	3	0.603
	正社員・正規職員	145	2.549	1	4	0.688
	派遣社員・契約社員	15	2.267	1	3	0.704
	パート・アルバイトなど	83	2.146	1	4	0.772
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.333	1	3	0.617
	仕事をしていない	213	2.481	1	4	0.681

表2 全体的時間面でのゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.364	1	4	0.838
	30歳代	71	2.479	1	4	0.808
	40歳代	89	2.356	1	4	0.792
	50歳代	99	2.653	1	4	0.719
	60歳代	141	2.993	2	4	0.733
	70歳以上	120	3.157	2	4	0.657
配偶関係	未婚	99	2.582	1	4	0.896
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	2.758	1	4	0.765
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	2.954	1	4	0.837
職種	自営業・会社経営	42	2.524	1	4	0.740
	事務的職業	40	2.500	1	4	0.816
	事務系専門職	13	2.000	1	3	0.577
	販売的職業	24	2.542	1	4	0.658
	技術・技能系職業	65	2.365	1	4	0.703
	通信系技術者	3	2.333	1	4	1.528
	運輸系職業	12	2.417	1	4	1.084
	サービスの・保安的職業	31	2.300	1	4	0.750
	専門職的職業	49	2.396	1	4	0.676
	公務員	22	2.591	1	4	0.666
	無職	106	3.366	2	4	0.595
	家事専業（無職の）	107	3.076	1	4	0.703
	学生	9	2.889	2	4	0.601
	就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.559	1	4
家族従業者		12	2.667	1	4	0.888
正社員・正規職員		145	2.299	1	4	0.700
派遣社員・契約社員		15	2.333	1	3	0.617
パート・アルバイトなど		83	2.519	1	4	0.743
嘱託、臨時・日雇い、内職など		16	2.733	2	4	0.704
仕事をしていない		213	3.238	1	4	0.668

表3 全体的居住空間面でのゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.837	1	4	0.785
	30歳代	71	2.831	1	4	0.793
	40歳代	89	2.727	1	4	0.754
	50歳代	99	2.888	1	4	0.758
	60歳代	141	2.912	1	4	0.702
	70歳以上	120	2.991	2	4	0.605
配偶関係	未婚	99	2.786	1	4	0.828
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	2.894	1	4	0.688
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	2.923	1	4	0.756
職種	自営業・会社経営	42	2.786	1	4	0.782
	事務的職業	40	2.875	2	4	0.686
	事務系専門職	13	2.538	1	3	0.660
	販売的職業	24	2.917	2	4	0.584
	技術・技能系職業	65	2.603	1	4	0.773
	通信系技術者	3	2.000	1	3	1.000
	運輸系職業	12	2.750	1	4	0.965
	サービスの・保安的職業	31	2.548	1	4	0.723
	専門職的職業	49	2.833	1	4	0.781
	公務員	22	3.000	1	4	0.690
	無職	106	3.120	1	4	0.624
	家事専業（無職の）	107	2.971	2	4	0.642
	学生	9	3.250	3	4	0.463
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.948	1	4	0.759
	家族従業者	12	2.667	1	4	0.778
	正社員・正規職員	145	2.736	1	4	0.738
	派遣社員・契約社員	15	2.933	2	4	0.458
	パート・アルバイトなど	83	2.671	1	4	0.754
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.867	1	4	0.834
	仕事をしていない	213	3.063	1	4	0.642

表4 全体的精神面でのゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.545	1	4	0.761
	30歳代	71	2.620	1	4	0.763
	40歳代	89	2.466	1	4	0.742
	50歳代	99	2.510	1	4	0.707
	60歳代	141	2.745	1	4	0.665
	70歳以上	120	2.741	1	4	0.668
配偶関係	未婚	99	2.394	1	4	0.843
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	2.670	1	4	0.652
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	2.712	1	4	0.780
職種	自営業・会社経営	42	2.571	1	4	0.770
	事務的職業	40	2.625	1	4	0.667
	事務系専門職	13	2.154	1	3	0.801
	販売的職業	24	2.583	2	4	0.584
	技術・技能系職業	65	2.524	1	4	0.737
	通信系技術者	3	1.667	1	2	0.577
	運輸系職業	12	2.417	2	4	0.669
	サービスの・保安的職業	31	2.452	1	4	0.768
	専門職的職業	49	2.625	1	4	0.606
	公務員	22	2.591	1	3	0.666
	無職	106	2.770	1	4	0.723
	家事専業（無職の）	107	2.748	1	4	0.710
	学生	9	2.889	2	4	0.601
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.525	1	4	0.653
	家族従業者	12	2.667	1	4	0.985
	正社員・正規職員	145	2.535	1	4	0.647
	派遣社員・契約社員	15	2.667	2	3	0.488
	パート・アルバイトなど	83	2.476	1	4	0.773
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.667	2	3	0.488
	仕事をしていない	213	2.778	1	4	0.721

表5 生活を総合的に見た場合のゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.477	1	4	0.664
	30歳代	71	2.634	1	4	0.741
	40歳代	89	2.523	1	4	0.694
	50歳代	99	2.582	1	4	0.717
	60歳代	141	2.652	1	4	0.635
	70歳以上	120	2.730	1	4	0.597
配偶関係	未婚	99	2.374	1	4	0.737
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	2.696	1	4	0.619
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	2.537	1	4	0.765
職種	自営業・会社経営	42	2.476	1	4	0.804
	事務的職業	40	2.625	2	4	0.586
	事務系専門職	13	2.231	1	3	0.725
	販売的職業	24	2.708	2	4	0.550
	技術・技能系職業	65	2.492	1	3	0.644
	通信系技術者	3	1.667	1	2	0.577
	運輸系職業	12	2.500	2	4	0.674
	サービスの・保安的職業	31	2.323	1	3	0.748
	専門職的職業	49	2.771	1	4	0.592
	公務員	22	2.818	2	4	0.501
	無職	106	2.686	1	4	0.689
	家事専業（無職の）	107	2.714	1	4	0.646
	学生	9	2.778	2	3	0.441
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.576	1	4	0.747
	家族従業者	12	2.417	1	3	0.793
	正社員・正規職員	145	2.639	1	4	0.562
	派遣社員・契約社員	15	2.600	2	3	0.507
	パート・アルバイトなど	83	2.402	1	4	0.751
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.667	1	3	0.617
	仕事をしていない	213	2.700	1	4	0.666



( 2 ) 経済面でのゆとり感の記述統計量

属性別に検討しなかった図 6 と表 5 に示した経済面でのゆとり感に関して、項目別の平均値を属性別に表 6 ～ 10 に示した。上述した全体的ゆとり感で、ゆとり感の低かった職種を「通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職」「事務系専門職・販売的職業」にまとめ、「学生、その他」もまとめて示している。

表 6 毎日の生活費

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.725	1	4	0.665
	女性	314	2.662	1	4	0.780
年代	20 歳代	44	2.750	1	4	0.892
	30 歳代	71	2.746	1	4	0.788
	40 歳代	89	2.557	1	4	0.741
	50 歳代	99	2.602	1	4	0.685
	60 歳代	141	2.708	1	4	0.709
	70 歳以上	120	2.802	1	4	0.662
職種まとめ	自営業・会社経営	42	2.571	1	4	0.914
	事務的職業	40	2.800	2	4	0.648
	事務系専門職・販売的職業	37	2.595	1	4	0.599
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	2.413	1	4	0.832
	技術・技能系職業	65	2.635	1	4	0.679
	学生、その他	38	2.676	1	4	0.747
	専門職的職業	49	2.917	1	4	0.679
	公務員	22	3.000	2	4	0.535
	無職	106	2.670	1	4	0.719
	家事専業(無職の)	107	2.752	1	4	0.731
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.729	1	4	0.848
	家族従業者	12	2.500	1	3	0.674
	正社員・正規職員	145	2.825	1	4	0.609
	派遣社員・契約社員	15	2.600	2	3	0.507
	パート・アルバイトなど	83	2.415	1	4	0.816
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.467	1	4	0.743
	仕事をしていない	213	2.707	1	4	0.733

表7 病気など万ーの場合の経済的余裕

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.342	1	4	0.765
	女性	314	2.372	1	4	0.842
年代	20歳代	44	2.295	1	4	0.978
	30歳代	71	2.479	1	4	0.876
	40歳代	89	2.227	1	4	0.798
	50歳代	99	2.347	1	4	0.775
	60歳代	141	2.355	1	4	0.753
	70歳以上	120	2.431	1	4	0.783
職種まとめ	自営業・会社経営	42	2.262	1	4	0.857
	事務的職業	40	2.450	1	4	0.815
	事務系専門職・販売的職業	37	2.189	1	4	0.776
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	1.957	1	4	0.788
	技術・技能系職業	65	2.302	1	3	0.710
	学生、その他	38	2.316	1	4	0.873
	専門職的職業	49	2.688	1	4	0.829
	公務員	22	2.682	1	4	0.839
	無職	106	2.330	1	4	0.785
	家事専業(無職の)	107	2.457	1	4	0.760
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.390	1	4	0.871
	家族従業者	12	2.167	1	3	0.718
	正社員・正規職員	145	2.507	1	4	0.748
	派遣社員・契約社員	15	2.267	1	3	0.704
	パート・アルバイトなど	83	2.073	1	4	0.858
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.067	1	3	0.799
	仕事をしていない	213	2.385	1	4	0.778

表 8 教育や子育て資金

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.229	1	4	0.735
	女性	314	2.290	1	4	0.808
年代	20 歳代	44	2.049	1	4	0.973
	30 歳代	71	2.362	1	4	0.857
	40 歳代	89	2.125	1	3	0.708
	50 歳代	99	2.315	1	4	0.755
	60 歳代	141	2.283	1	4	0.685
	70 歳以上	120	2.354	1	4	0.743
職種 まとめ	自営業・会社経営	42	2.243	1	4	0.796
	事務的職業	40	2.289	1	4	0.927
	事務系専門職・販売的職業	37	2.147	1	3	0.657
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	1.878	1	4	0.781
	技術・技能系職業	65	2.232	1	4	0.763
	学生、その他	38	2.219	1	4	0.792
	専門職的職業	49	2.604	1	4	0.707
	公務員	22	2.318	1	4	0.839
	無職	106	2.250	1	4	0.707
	家事専業（無職の）	107	2.356	1	4	0.734
就業 形態 まとめ	自営・会社経営	59	2.404	1	4	0.846
	家族従業者	12	2.083	1	3	0.515
	正社員・正規職員	145	2.348	1	4	0.761
	派遣社員・契約社員	15	2.231	1	3	0.599
	パート・アルバイトなど	83	2.027	1	4	0.805
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.167	1	3	0.835
	仕事をしていない	213	2.255	1	4	0.753
	その他	12	2.600	2	4	0.699

表9 老後の備え

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.075	1	4	0.799
	女性	314	2.039	1	4	0.846
年代	30歳代	71	1.845	1	4	0.889
	40歳代	89	1.864	1	3	0.790
	50歳代	99	1.969	1	4	0.805
	60歳代	141	2.225	1	4	0.792
	70歳以上	120	2.310	1	4	0.762
職種まとめ	自営業・会社経営	42	1.976	1	4	0.897
	事務的職業	40	2.050	1	4	0.904
	事務系専門職・販売的職業	37	1.778	1	3	0.797
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	1.674	1	4	0.790
	技術・技能系職業	65	1.905	1	3	0.734
	学生、その他	38	1.974	1	4	0.788
	専門職的職業	49	2.292	1	4	0.824
	公務員	22	2.364	1	4	0.848
	無職	106	2.204	1	4	0.784
	家事専業（無職の）	107	2.152	1	4	0.806
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.169	1	4	0.950
	家族従業者	12	1.750	1	3	0.622
	正社員・正規職員	145	2.056	1	4	0.776
	派遣社員・契約社員	15	2.000	1	3	0.756
	パート・アルバイトなど	83	1.744	1	4	0.843
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.000	1	3	0.926
	仕事をしていない	213	2.154	1	4	0.802
	その他	12	2.333	1	3	0.651

表 10 交際費・娯楽費

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.356	1	4	0.764
	女性	314	2.341	1	4	0.818
年代	20 歳代	44	2.500	1	4	0.902
	30 歳代	71	2.366	1	4	0.914
	40 歳代	89	2.261	1	4	0.750
	50 歳代	99	2.235	1	4	0.771
	60 歳代	141	2.370	1	4	0.726
	70 歳以上	120	2.421	1	4	0.797
職種まとめ	自営業・会社経営	42	2.286	1	4	0.891
	事務的職業	40	2.550	1	4	0.783
	事務系専門職・販売的職業	37	2.324	1	4	0.709
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	1.913	1	4	0.755
	技術・技能系職業	65	2.270	1	4	0.807
	学生、その他	38	2.316	1	4	0.775
	専門職的職業	49	2.583	1	4	0.679
	公務員	22	2.591	1	4	0.796
	無職	106	2.353	1	4	0.792
	家事専業（無職の）	107	2.385	1	4	0.792
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.424	1	4	0.835
	家族従業者	12	1.917	1	3	0.669
	正社員・正規職員	145	2.465	1	4	0.719
	派遣社員・契約社員	15	2.333	1	4	0.816
	パート・アルバイトなど	83	2.085	1	4	0.834
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.333	1	4	0.816
	仕事をしていない	213	2.374	1	4	0.803
	その他	12	2.417	1	4	0.793





問9 差し支えなければ勤務形態をお聞かせください。

- |              |                |             |
|--------------|----------------|-------------|
| 1. 自営・会社経営   | 5. パート・アルバイトなど | 9. 仕事をしていない |
| 2. 家族従業者     | 6. 嘱託など        | 10. その他( )  |
| 3. 正社員・正規職員  | 7. 臨時・日雇いなど    |             |
| 4. 派遣社員・契約社員 | 8. 内職          |             |

問10 通勤時間はどれくらいですか。

- |             |                 |                 |
|-------------|-----------------|-----------------|
| 1. 通勤はしていない | 3. 30分～1時間未満    | 5. 1時間30分～2時間未満 |
| 2. 30分未満    | 4. 1時間～1時間30分未満 | 6. 2時間以上        |

問11 勤務年数はどれくらいですか。

- |             |         |           |          |
|-------------|---------|-----------|----------|
| 1. 仕事をしていない | 3. 1～4年 | 5. 10～14年 | 7. 20年以上 |
| 2. 1年未満     | 4. 5～9年 | 6. 15～19年 |          |

問12 最後に卒業した学校は次の中のどれにあたりますか。

1. 中学校(尋常小学校、高等小学校などを含む)
2. 高等学校(旧制中学校、女学校、実業学校、師範学校、旧制高専などを含む)
3. 各種専門学校
4. 大学(短期大学、高専、大学院、旧制高校などを含む)
5. その他( )

問13 現在、生活全般に満足していますか。

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. 満足している         | 4. どちらかといえば不満である |
| 2. どちらかといえば満足している | 5. 不満である         |
| 3. どちらともいえない      |                  |



問 14 北九州市が住みにくいと思う点を3つ選んで下さい。

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1. 通勤・通学時間が長い    | 8. 人間関係が希薄 |
| 2. 労働時間が長い       | 9. 物価が高い   |
| 3. どこへいっても混雑している | 10. 家が狭い   |
| 4. 子どもの教育環境が悪い   | 11. 家賃が高い  |
| 5. 自然が少ない        | 12. 特にない   |
| 6. 騒音が激しい        | 13. その他( ) |
| 7. 活気がない         |            |

問 15 現在お住まいの地域に今後もずっと住みたいと思いますか。

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| 1. 住みたい             | 副問 1 へ進んで下さい |
| 2. 北九州市内の別の地域に住みたい  | 副問 2 へ進んで下さい |
| 3. 北九州市以外の別の地域に住みたい | 副問 3 へ進んで下さい |
| 4. わからない            | 問 16 へ進んで下さい |

**副問 1 (問 15 で今後も住みたいと回答した人へ)**

その理由を以下から一つだけ選んでください。

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1. 親元・出身地だから     | 5. 生活環境が気に入っているから    |
| 2. 配偶者の親元・出身地だから | 6. 他の地域や都市に魅力を感じないから |
| 3. 土地や家屋があるから    | 7. その他( )            |
| 4. 長年住みなれたところだから |                      |

**副問 2 (問 15 で北九州市内の別の地域に住みたいと回答した人へ)**

その理由を以下から一つだけ選んでください。

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. 親元・出身地の近く        | 5. 通勤・通学、仕事などに便利だから |
| 2. 配偶者の親元・出身地の近く    | 6. 生活に便利だから         |
| 3. 土地や家屋があるから       | 7. その他( )           |
| 4. 市内の他の地域に魅力を感じるから |                     |



【日常生活のゆとりについてお聞きします】

問 17 生活の以下の面でゆとりを感じていますか。～の各々についてゆとりが「十分ある」～「非常に乏しい」の当てはまる欄の番号に をつけて下さい。

	十分ある	ある程度ある	あまりない	非常に乏しい
全体的経済面でのゆとり	1	2	3	4
全体的時間面でのゆとり	1	2	3	4
全体的居住空間面でのゆとり	1	2	3	4
全体的精神面でのゆとり	1	2	3	4
生活を総合的に見た場合のゆとり	1	2	3	4

問 18 経済面でゆとりを感じていますか。～の各々についてゆとりが「十分ある」～「非常に乏しい」の当てはまる欄の番号に をつけて下さい。

	十分ある	ある程度ある	あまりない	非常に乏しい
毎日の生活費	1	2	3	4
病気など万一の場合の経済的余裕	1	2	3	4
教育や子育て資金	1	2	3	4
老後の備え	1	2	3	4
交際費・娯楽費	1	2	3	4

問 19 日常生活でゆとりを感じていますか。～の各々についてゆとりが「十分ある」～「非常に乏しい」の当てはまる欄の番号に をつけて下さい。

	十分ある	ある程度ある	あまりない	非常に乏しい
家事や育児のゆとり	1	2	3	4
家族の介護のゆとり	1	2	3	4
家族関係のゆとり	1	2	3	4
将来に関するゆとり	1	2	3	4
余暇時間	1	2	3	4

問 20 全体的なゆとりは主として何により不足していると感じていますか。

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1. 経済的ゆとり不足        | 4. 精神的ゆとり不足     |
| 2. 時間的ゆとり不足        | 5. ゆとり不足を感じていない |
| 3. 住居を含む居住空間のゆとり不足 | 6. その他 ( )      |

問 21 長期間の景気の低迷からの回復が報道されていますが、どのような生活面で景気の回復を感じていますか。

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 1. 賃金            | 5. 物価         |
| 2. 賃金を除く仕事の活動予算面 | 6. 旅行やレジャー    |
| 3. 仕事における精神的ゆとり  | 7. 景気の回復を感じない |
| 4. 仕事の取引先などの変化   | 8. その他 ( )    |

**【近所の人との付き合いや人との関係についてお聞きします】**

問 22 現在、参加していたり、役員をしている活動が何かありますか。次の中からいくつでも選んでください。

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1. まちづくり協議会         | 10. 地域の同好会           |
| 2. 民生委員・児童委員        | 11. 会社のOB会           |
| 3. 老人クラブ(何歳でも加入可能)  | 12. 公的な生涯学習          |
| 4. 町内などの自治会         | 13. まちづくり協議会の役員      |
| 5. 地区(校区)社会福祉協議会    | 14. 地区(校区)社会福祉協議会の役員 |
| 6. 趣味の同好会等          | 15. 町内などの自治会の役員      |
| 7. P T A            | 16. 老人クラブの役員         |
| 8. ふれあいネットワークの福祉協力員 | 17. 特にない             |
| 9. N P O やボランティア    | 18. その他 ( )          |

問 23 以下のような活動をしてみたいと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1. 地域活動の活性化に関わる活動      | 7. 自然や環境の保全に関する活動 |
| 2. 健康づくり・介護予防に関する活動    | 8. 食生活改善に関する活動    |
| 3. 高齢者や障害のある人の支援に関する活動 | 9. 男女共同参画に関する活動   |
| 4. 住んでいる地域の防犯や防災に関する活動 | 10. 教育や生涯学習に関する活動 |
| 5. 住んでいる地域の美化や清掃に関する活動 | 11. 子育て支援に関する活動   |
| 6. 住んでいる地域の相互の助け合いの活動  | 12. その他 ( )       |

問 24 日頃の人とのつきあいで感じていることについて次の ～ に答えてください。「いつも感じる」～「まったく感じ ない」の中であてはまる番号に をつけて下さい。	い つ も 感 じ る	と き ど き 感 じ る	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 感 じ な い	ま っ た く 感 じ な い
周りの人との関係は充実している	1	2	3	4	5
人との付き合いは十分できている	1	2	3	4	5
信頼できる人がいる	1	2	3	4	5
一員といえる仲間がいる	1	2	3	4	5
周りの人とは共通点が多いと思う	1	2	3	4	5
自分は外向性で気さくだと思う	1	2	3	4	5
近所の人とは相互に信頼し合っている	1	2	3	4	5
好きなときに人との付き合いがもてる	1	2	3	4	5
孤立していると感じる	1	2	3	4	5
自分は内向的で内気だと感じる	1	2	3	4	5
頼れる人がいないと感じる	1	2	3	4	5
人と知り合う機会がある	1	2	3	4	5
近所の人とは困った時に助け合える	1	2	3	4	5
自分だけ取り残されていると感じる	1	2	3	4	5
多様な情報に関心がある	1	2	3	4	5
親密な人がいる	1	2	3	4	5
近所の人との親密な付き合いがある	1	2	3	4	5
もっと自分の時間が欲しいと感じる	1	2	3	4	5
近所の人との関係をわずらわしいと感じる	1	2	3	4	5
自分は信頼されていると感じる	1	2	3	4	5

アンケートへのご協力を心から感謝いたします。ありがとうございました。

お手数をお掛けしますが、返信用封筒に入れて返送をお願いいたします。なお、差出人の住所氏名の記入や切手を貼る必要はありません。

2014年1月実施

## 地域子育て支援拠点における相談のあり方について

池田 佐輪子 岩丸 明江

( コラボラキャンパスネットワーク親子ふれあいルーム実行委員 )

少子化問題のなかで、3歳未満児の約7～8割は在宅で子育てしており、子育ての孤立化、子育ての不安感、負担感が高まっていることが指摘されている。また核家族化、地域のつながりの希薄化、男性の子育てへの関わりが少ないこと、児童数そのものが減少しており、子どもの多様な大人・子どもとの関わりの減少も課題となっている。

そこで、厚生労働省は、「地域子育て支援拠点」を設置し、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を、公共施設や保育所、児童館等の地域の身近な場所で展開している。

(平成23年度 地域子育て支援拠点事業実施箇所数 5722箇所 内閣府ホームページより)

地域子育て支援拠点は、概ね以下の～の事業

交流の場の提供・交流促進

子育てに関する相談・援助

地域の子育て関連情報提供

子育て・子育て支援に関する講習等 を実施することが求められている

北九州市でも、「親子ふれあいルーム」として、下記のような形で設置している。

親子ふれあいルームとは(北九州市ホームページより)

子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進するため、子育て家庭の親とその子ども(概ね3歳未満の乳幼児)が気軽に集い、相互に交流を図る場として、「親子ふれあいルーム」を区役所または近接する公共施設や一部の児童館において開設しています。(小倉南区は 小倉南区若園5-1-5 小倉南生涯学習センター1階)

今回は、この地域子育て支援拠点の一つである、小倉南区親子ふれあいルームさざん(以下 さざん)の相談体制について、現在実施している、「ハテナタイム」という相談システムについて報告するとともに、こうした拠点での相談のあり方について、のぞましい仮説を提起することをねらいとして、まとめてみたい。

### 1. さざんの現状の相談システム

さざんの相談には2種類ある。

スタッフへの日常的な相談

(さざんのスタッフ体制は、【月～金 10-16時 スタッフ2名常駐】であり、概ね、

12名程度でローテーションしている。(「相談対応」としての専任スタッフはいない)  
 子育てハテナタイム(担当者有)  
 まず、日常的な相談の現状を分野ごとにみる。

### さざんの日常的な相談について

相談件数 25年4月～9月

相談内容	相談件数(延べ)						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
1 生活習慣・しつけについて	0	1	0	1	3	0	5
2 発育・発達・情緒について	1	3	0	0	0	0	4
3 家族・家庭環境・近隣環境について	2	0	0	1	1	0	4
4 病気・怪我などについて	1	0	0	1	1	0	3
5 保育所・幼稚園について	1	1	0	0	2	2	6
6 遊びについて	0	0	0	2	0	2	4
7 その他	1	0	1	3	1	0	6
計	6	5	1	8	8	4	32

#### (1) 生活習慣・しつけについて

- ・1歳2カ月男児、周囲のママが働いている人が多く、どんどん断乳しているが、自分もしたほうがいいのか？ 働く予定がないなら、ゆっくりでもいいのではないかと話をした。
- ・こども0歳のママより、メディアの掲示物について質問あり。資料をほしいと言われたので、コピーして渡した。パパのTV点けっぱなしやラジオはいいのか？など色々話をした。あんまり怖がらずに、うまく付き合う方法をアドバイスした。

#### (2) 発育・発達・情緒について

- ・おもちゃをひとりじめして、なかなかゆずれない。ちょっと相談したい時はどこにしたらいい？ ハテナタイムを紹介、申込みれました。

#### (3) 家族・家庭環境・近隣環境について

- ・一時預かりの保育所を教えてほしい。

#### (4) 病気・怪我などについて

- ・子どもが家で頬を打ち、口の中を切った。痛みからか食事もとらない。病院へ連れていくか？ すぐ直ると思うが、気になるようなら病院で消毒してもらおうといいかも

#### (5) 保育所・幼稚園について

- ・幼稚園と保育園の違いは？(最近北九州に引っ越してきた方) 昼食時に周囲の方も交えて雑談。

- ・12月中旬(生後6ヶ月)で職場復帰しなければならない。病院内の保育所か普通の認可保育所のどちらに預けた方がいいか迷っている。参考にしたいので意見を聞かせてほしい 両方の保育所の環境、保育料、何を迷っているのか(おそらく復帰が早いことと自体悩んでいる様子だったので)など話してもらい、そのうえで私見を述べた。「参考にします」と安心した様子で終話した。

#### (6) 遊びについて

- ・絵本を破ったり舐めたりすることについて・・・年齢的にそういう時期なので、硬い絵本を与える。破る事に興味があるなら広告の紙などを与える。等のアドバイスをした。
- ・さざんのほかに南区で無料で遊べる所はありますか 居住地近くの児童館や支援センター、館報等のご案内をした。

#### (7) その他

- ・保健師さんは簡単なことでも相談していいですか? いいですよ
- ・小倉南区の津田に住んでいますが、南区でいい小児科を知りませんか?

件数については、日誌にその日の当番が、自ら受けた相談の件数を書くことになっている。6カ月で32件では、多い印象は受けないかもしれないが、実際は、2人のスタッフ以外にもボランティアが在室していること多く、また(Cスタッフと呼ばれる)子連れのボランティアもいるため、話の中で、たくさん話題や、情報交流が生じていると思われる。まさに、そうしたカウントが難しい多様な日常的な相談が交わされることがこのような拠点の存在価値かもしれない。

そのなかでも、内容は、例えば「保健師さんは簡単なことでも相談していいですか?」など、「改めて聞きにくいこと」を気軽に聞いたり、一時預かりの保育所について聞くなど、情報提供で済むようなこと、また、「おもちゃのひとりじめ」など、不安そうなので、後述する専門家によるハテナタイムにつなぐなどの相談もあっている。ここが相談の入り口、きっかけとも言える。

### 子育てハテナタイム

#### (1)「子育てハテナタイム」とは

「子育てハテナタイム」とは、養育者が、子どもの遊びを見守りながら、日々の子育てをする中で気になること、分からないことなどを発達専門の先生に気軽に相談できる場として、さざんの中に開設したものである。



( さざんニュース呼びかけ文より )

H 2 5 年度は原則 第 4 月曜日 10 : 00 ~ 12 : 00 定員 4 名 随時申込可

子どもの行動でわからないことや「こんな時どう関わったらいいのかな？」と思うことがあったら、どうぞお気軽に北九州市立大学・税田慶昭先生(発達心理学・臨床心理士)にご相談ください。先生とお話した方が「安心しました」「先生がヒントをくださったこと、試してみますね」とたくさん声を寄せてくださっています。

定員に達していない場合は、当日申し込みでもOKです。

ハテナタイムは、さざんが開所して4年経つが、かなり広報がすすんできており、相談者は、ほぼ毎月定員の4名と安定している。

## ( 2 ) 「子育てハテナタイム」の開設にあたって

日々の子育ての中で気になることがあっても、専門機関に相談に行くほどではないものの、身近にある育児雑誌やインターネットでの情報では納得できるまでには至らず、育児の経験のある友人や祖父母に相談しても、いまひとつ我が子には当てはまらないような気がしてしまう……。子育てをしている方たちは、そのような思いを持たれているのではないだろうかと思いを立て、親子ふれあいルームの中でどのような相談形態が望ましいのかを、現場で活動している臨床心理士、発達心理学を専門とする大学教員、保健師、保育士など専門職のアドバイスもいただきながらスタッフで検討していった。

まずは、いつも利用している遊び慣れた環境で気軽に相談できること、子どもと一緒にその遊びを見守りながら相談できること、しかし発達の専門の先生による相談が受けられ、個別の問題に対応してもらえることで安心感が得られること、を重視し、「子育てハテナタイム」という名称で、あえてルーム内のオープンな遊び場での相談形態で開設した。

## ( 3 ) 「子育てハテナタイム」の流れ

ハテナタイムは、担当してくださる北九州市立大学の税田先生が来所可能な日程を調整し、平成 25 年度では第 4 月曜日の 10 時から 12 時までの時間に、定員 4 名で相談を受けている。

毎月、さざんニュースやルーム入り口の立て看板に「子育てハテナタイム」の掲示をして申し込みによる予約を行い、当日に受付スタッフが予約した相談者に簡単な質問紙に「子育てに関する気になること」の記入をお願いし、税田先生につないで、遊びの場の一角にスペースを取って相談を行っている。

その間、相談者のお子さんについては、安全が保たれるように、また相談者の顔が見える場所で遊ぶことで安心感が持てるように、ハテナタイム担当のスタッフが遊びの相手を

し、他のスタッフも見守りを行っている。このような体制をとることで、相談者は落ち着いて話を聞くことができるようである。

またスタッフがルームの集団の中で相談者のお子さんの遊びの相手をしていることで、その様子を見ながら相談者が具体的に税田先生に説明できること、それによって税田先生が分かりやすく子どもの発達の様子やその関わり方についての説明ができること、などオープンな遊びの場での相談形態の良さが表れているように思われる。

当初は、たくさんの利用者がある遊び場での相談では周りに遠慮して本音が出せないのではないかと、周囲が騒がしく、子どもが気になって落ち着いて相談できないのではないかと、また、周囲の利用者が相談者に対して興味本位の視線を持つのではないかと、といった心配もしていたが、この4年間のハテナタイムの相談の結果を見てみると、特に定着してきてからはほぼ毎月定員いっぱいの相談者がおり、相談後はほとんどの方が、「相談できて安心した」、「さっそく実行してみようと思う」と感想を下さり、それらは大きな問題ではなかったことが分かった。

(4)「子育てハテナタイム」を通して

相談を受けた方は、下記のような理由で、ハテナタイムを活用している。

(28名の方 複数回答)

	ハテナタイムで相談した理由(複数回答)	数
1	気軽に相談できるから	14
2	いつも遊びに来ている場所で相談できるので	9
3	子どもと遊びながら相談できるから	12
4	きょうだいがいても一緒に相談できるから	3
5	相談できるのが発達の専門の先生なので	13
6	友だちにすすめられたから	2
7	チラシ(ニュース)にのっていたから	7
8	スタッフにすすめられたから	6
9	無料だから	7
10	その他( )	3 ・市民センターの発達障害の講演会で聞いて ・一度話を聞いた事があって、優しそだったから

「気軽に相談できる、遊びながら相談できる、発達の専門家の先生に相談できる」との理由が多い。「いつも来ている場所で相談できる」の理由も次につづく。

ハテナタイムを担当していただいている税田先生の人となり、雰囲気にも助けられ、敷居が低い、日常の過ごし方との連続性のある相談の機会となっている。

\*\*\*\*\*

### ハテナタイム集計 2013 (H25) 年度 4月～1月

相談予約児数 44名 (うち9名は病気などの理由で来所できず、キャンセル)

相談実施児数 35名

相談予約者数 40名 (4名はきょうだいで相談)

相談実施者数 32名 (3名はきょうだいで相談)

(集計方法や受付表を、今年度、税田先生・スタッフと相談しながら、整備中です。途中のものですが、集計結果です。)

子どもの居住区	南区 (26) 北区 (6) 門司区 (1) 市外 (2) 不明 (9)			
相談者	母 (39) 祖父 (1)			
子どもの性別	男児 (27) 女児 (17)			
第何子	第1子 (26) 第2子 (9) 不明 (9)			
子どもの月齢	1:0か月～6か月未満	0	2:6か月～1歳未満	4
	3:1歳～1歳6か月未満	8	4:1歳6か月～2歳未満	14
	5:2歳～2歳6か月未満	5	6:2歳6か月～3歳未満	5
	7:3歳～4歳未満	2	8:4歳～5歳未満	2
	9:4歳～5歳未満	2	10:6歳以上	2

子どもの居住区は、さざんが立地している小倉南区が圧倒的に多く、全体の約6割を占めている。南区を中心にしたさざんの利用者がさざんニュースや立て看板の掲示を見て、気軽に申し込み、相談に来られている印象である。

それだけでなく、さざんのスタッフに子育てのいろいろな話をする流れから、「気になることがあったら、発達専門の先生が相談に乗ってくれるから申し込んでみれば」とスタッフから紹介されて利用につながったり、利用者同士で話をする中で、「発達の先生に相談に乗ってもらってとても安心したから、気になったら相談してみれば」と口コミで伝わって申し込まれる方もおり、さざん利用者の中では以前より周知がすすんできており、相談にいたる敷居は低くなって、より気軽に利用されていると思われる。

この中に、特に他地区からの利用者で日頃からさざんを利用しているのではないが、ハテナタイムのことをニュースやホームページなどで知り、申し込んで来られる方がわずかだがおられる。初回のさざん来訪でハテナタイムを利用され、その後のさざん利用につな

がっていない例である。現在はまだこの例について詳しい分析ができていないが、今後詳しく検討していく必要があると考えている。

相談者はそのほとんどが母親で、子育てを担っているのが母親であるという実情が浮き彫りになっている。子育てが母親に一手にかかってきており、子どもの発達や関わり方について気になることがあっても、家族に相談したり、子育ての分担をしたりできにくい環境になって、より子育ての負担感が重くなってしまっているのではないかと考えられる。

子どもの性別は、男児の相談がやや多く、この4年間の統計でも男児の相談が6割を占めた。また第1子の相談が多く、全体の6割であった。第1子の相談が多いのは、初めての子育てで、疑問や不安が多くなることに原因すると予想できるが、男児の相談が多いことについては税田先生などに協力していただいてその要因について検討し、今後に生かしたいと考えている。

詳しい相談内容などについては、次ページの表のようになっている（平成25年度4月から1月までのデータの集計）。

相談内容は、子どものついでに多様な相談や、子どもへの関わり方の相談が多く、特に生活習慣が身に着くようになり、自我・社会性の芽生えが感じられるようになる1歳から2歳の間の相談が多くなっている。

それら個別の相談について、ご自身も就学前のお子さんを持つ当事者でもある税田先生は、熱心に耳を傾けて話に聞き、共感してくださるので、まず相談者は話をすることで内容の整理ができ、抱えている不安や疑問を客観的に見られるようになるようである。そこに先生が安心できるように子どもの発達について説明し、関わり方についてわかりやすくアドバイスしてくださるので、相談されたみなさんは、「安心した、気持ちが楽になった」「アドバイスを実行してみようと思う」などの感想を寄せ、子どもとの関わりに前向きになれているようだ。相談者の相談後の表情は、非常に明るくなっていることが多い。

そのような中で、専門機関を受診するかどうか迷いながら相談される方や、相談者が子育てに疲れており他のサポートシステムとつないだ方が良いと思われるような方もおられる。そのような方に対しては、税田先生は十分に話を傾聴したのちに、「気になるようでしたら受診してみてもいいかですか」という形で、適切な専門機関を紹介することもある。また地域の保健師さんに連絡して、見守りなどの連携をお願いすることもある。「地域の親子ふれあいルーム」の利点をしっかり生かした連携ができるように、日頃からの連携が重要になってくる。

また、専門機関を受診中の方や、専門機関の予約待ちの方も相談に来られることがある。ハテナタイムにはセカンドオピニオンのような役割もあるのではないかとと思われる。問題解決を主とする専門機関とは異なり、あくまでも相談者のサポートとしての相談形態の良

さがあるのではないだろうか。

税田先生は、さざんのスタッフに対しても、相談者やそのお子さんとの関わり方についてのアドバイスを下さっている。スタッフも安心して様々な利用者に関わることができるとともに、スタッフには難しい内容を先生につなぐことができ、先生が月1回きてくださることでスタッフとしてのあり方もご相談でき、とても心強い存在になっている。

さざんのフロアで遊んでいる利用者が、相談中の様子を見て、「私も相談していいですか」というように当日の申し込みもあるのは、ハテナタイムの良さ認められているからだと考えられ、このようにハテナタイムの良さが利用者の中に広がっていくことで定着していると思われる。

ハテナタイム集計 2013(H25)年度														
カテゴリー	番号	内容	0歳前半 件数	0歳後半 件数	1歳前半 件数	1歳後半 件数	2歳前半 件数	2歳後半 件数	3歳児件数	4歳児件数	5歳児件数	6歳以上 件数	合計	
身体発達・健康状態	A	1 身体発達(身長・体重、首の座り・寝返り・歩行など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	2	
		2 知覚発達(視覚・聴覚など)		1		1							1	
		3 疾患・障害など		2										2
生活状況	B	4 食事(授乳・卒乳、離乳食、偏食など)			2	1					1		4	
		5 排泄・トイレトレーニング											0	
		6 睡眠(生活リズム、昼夜逆転、夜泣きなど)			3	1							4	
相談内容	C	7 メディア視聴											0	
		8 ことばの発達(発語が遅い、発音が不明瞭、奇声、吃音など)				5	1						6	
		9 コミュニケーション発達(視線が合いにくい、やりとりができにくい、人見知りなど)		1		1							2	
		10 性格・行動(わがまま・癪癪、不注意・多動、引っ込み思案など)			5	6	1	1	1	1			1	16
		11 気になる癖・こだわり行動					1				1		1	3
		12 幼稚園・保育園(一時保育、就園など)			1	1								2
		13 他児との関わり(乱暴、ケンカなど)			2	2	1	1					1	7
集団への参加	D	14 子どもへの関わり方			3	6	2	4	2	2	2	2	23	
		15 保護者(疲労、育児ストレスなど)				2							2	
		16 家族関係・きょうだい関係(配偶者の育児参加、赤ちゃん返りなど)			2	3	3	2	1			1	9	
家族・保護者	E	17 しつけ				2	2	1			1		4	
		18					2	2					2	
先生からのアドバイス	F	1 子どもの発達の説明と関わり方のアドバイス		2	7	12	2	4	2	2	2	2	35	
		2 専門機関の紹介		1		1						1	3	
		3 その他											0	
先生からスタッフへのアドバイス		1 保護者の話の傾聴サポート		2	7	12	2	4	2	2	2	2	35	
		2 子どもへの関わり方のモデリング		1	5	12	2	4	1	2	2	1	30	
		3 その他											0	
ハテナタイムへの経路		1 さざんニュース・立て看板・HPなどから		1	5	9	1	2		2	2		22	
		2 さざんスタッフから					1			1			2	
		3 さざん利用者から					1						1	
		4 さざん以外の情報から		1									1	
その後の経過		1 さざんの継続利用			1	6	1	1			1		10	
		2 来所が途絶える											0	
		3 専門機関へ											0	
		4 幼稚園・保育所へ											0	
		5 その他											0	
保護者感想等		1 アドバイスを受けて安心した、気持ちが楽になった		2	6	10	1	4	1	2	1	2	29	
		2 アドバイスを実行、実践してみようと思う		1	4	7	2	3	2	2	2	1	24	
		3 また相談したい				2	1						4	
		4 まだ不安、疑問を感じる											0	

## まとめと今後の課題

以上のようにさざんでは、地域子育て支援拠点における相談のあり方として、日常的な相談においても、「子育てハテナタイム」での相談においても、「**日常の遊びの場での相談**」を目指して取り組んできた。そのような環境を整えることで、日常の子どものありのままの様子が見られるため、スタッフが相談者の話を傾聴したり、**関わりのモデリング**をしてもらったりといった支援がしやすくなっている。また必要に応じて相談者の意向を重視しながら、適切な支援につなぐことも可能になっている。

さらに、専門機関での支援へつなぐだけでなく、療育が必要な場合であっても、多様な子ども・大人と関わり一緒に遊ぶことができる交流の場、**インクルージョン**の機能も果たすことが必要であると考えている。子どもにとって、自我・社会性が芽生えてくる、ちょうどさざんを利用することの多い3歳までの早期から多様な人たちと関わることは、不要な偏見を持たないために重要なことであろう。

平成元年まで療育センターでの勤務経験のある、大北啓子氏（臨床心理士）は、さざん主催の相談研修で以下のように発言している。

「療育センターは、今でもハードルが高い印象があり、そこにたどりつくまで大変です。子ども総合センターやわいわい相談に関わるようになって思うのは、外来や通園（週3回でも）で、親子にピンポイントで出会うけど、そのほかの生活の場で親御さんが上手に関わることで効果があがるということです。外来受診の日まで、待つ間が不安でしょうし、さざんもそこを埋める役割があると思います。今回、ようやくそういうことができるようになったなあ、と思いました」。毎日空いている生活の場だからこそ、そうした交流や、インクルージョンの可能性があると確認できたことは大きかった。

そのためには、まずスタッフが養育者の話を傾聴できるだけの心のゆとりを持ち、支援するために必要な知識を常に学ぼうとする姿勢が必要になる。安易なアドバイスではなく、養育者の気持ちに寄り添うことで、養育者が子どもと向き合う気持ちをエンパワメントできるように関わるのが望ましいと考えている。それによって養育者が遊びの中で子どもをサポートしやすくなり、子どもも、自分の親だけでなく多くの大人と関わり、他の子どもたちと一緒により多くの望ましい経験ができることと思う。

## **2. 地域子育て支援拠点におけるのぞましい相談システムのあり方**

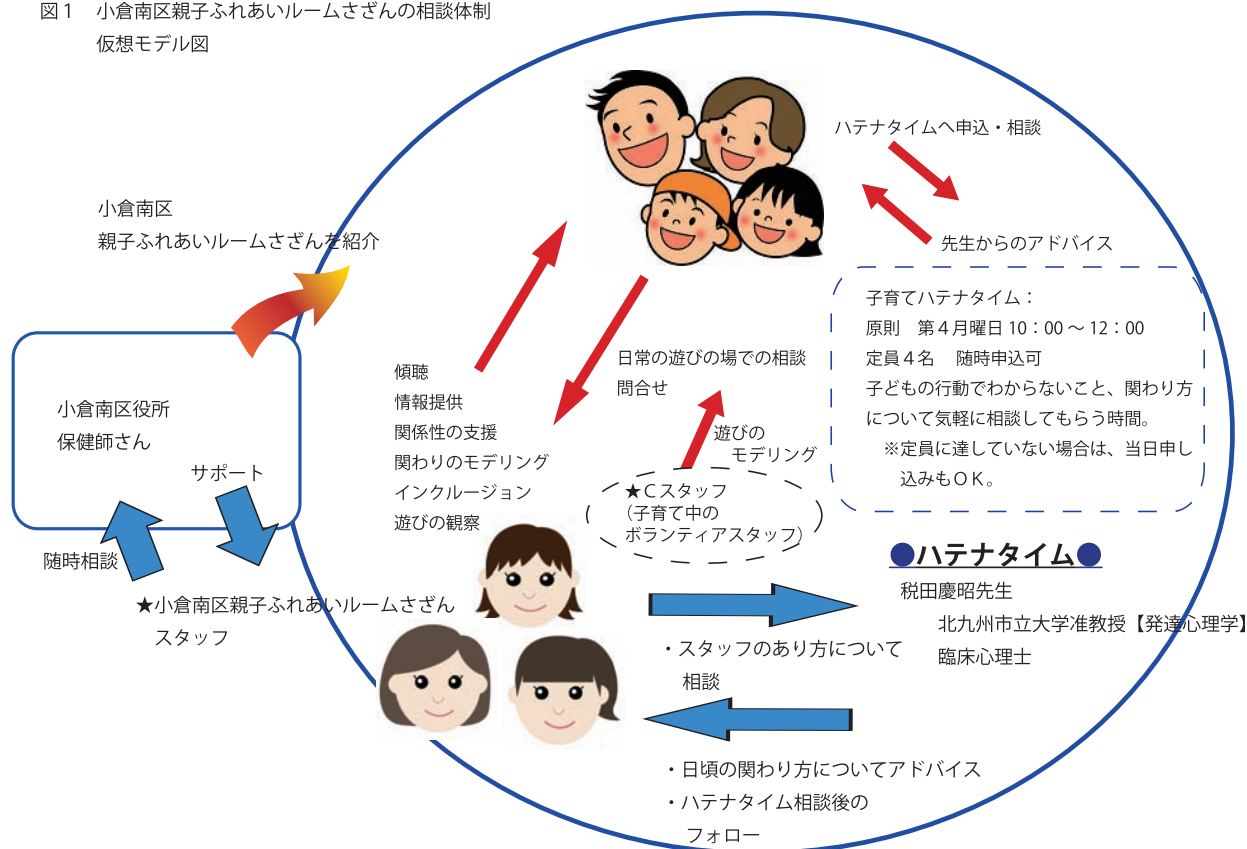
### **（仮想モデル図の提案）**

さざんでの現在の相談状況（日常の相談、ハテナタイム）をみてきた中で、【図1】のような仮想モデル図を構想した。

スタッフの視点でのキーワードとして、前出の「日常の遊びの場での相談」「傾聴」「関わりのモデリング」「インクルージョン」のほかに、「遊びの観察」「関係性の支援」をあげている。

「遊びの観察」は、スタッフが、相談を受けたり、不安が強い利用者について、子ども

図1 小倉南区親子ふれあいルームさざんの相談体制  
仮想モデル図



の遊びの様子や（利用者の様子についても）よく観るようにしており、毎日同じスタッフが常駐してはいないので、適切な支援のために、日頃の遊びの様子にもできるだけ注意深く見守り、共有を試みている内容を意味している。

「関係性の支援」については、遊びのなかでの子どもの反応や、他の大人・子どもとのやりとりの中での子どもの行動を、子どもの思いを共有できるように、養育者の方とのお話を心がけるようにしている。子どもに寄り添い、子ども視点で、なぜそういう行動をするのか、を養育者と共に見つめていくことが、子どもを理解することにつながり、親子の関係性の支援につながるのではないかと感じる。そうしたキーワードを盛り込み、日常の遊びの場と、ハテナタイムとの関連を考えた。

また、保健師さんについては、多様な行政の資源を背景に、さざんに利用者をつないでくださっている動き、さらに、こちらからお願いしたときに、様々なサポートで支えていただいている関係性を図式化した。実際は、もっと多くの社会資源ともつながっているが、この図では、シンプルに保健師さんとの関連を描いた。その他の地域資源、民間資源などは、利用者の意向・希望というファクターもあるので、図には表現していない。

こうした仮想モデル図を考えてみたいと感じたのは、現在のさざんの事業が、たくさんの市民に受け入れていただき、ハテナタイムも、定着してきたからにはほかならない。



現在のところ、この2つの相談形態が、利用者にとって好意的に受け入れられており、期待をもって利用されていると考えてよいのではないだろうか。地域の中に根ざす親子ふれあいルームとしての相談形態として望ましいのではないかと考えている。

スタッフのたゆまぬ研鑽が大前提ではあるが、今後、この仮想モデル図を検証していきながら、さらに利用者にとってどのような支援・相談体制が望ましいのかを考えていくとともに、専門機関や他区の親子ふれあいルームなど、地域子育て支援拠点の場と連携し、市内のどこでも適切な相談が受けられる体制を作っていけるように、働きかけていきたいと考えている。

## 研究ノート

### 行動経済学による「消費者力」の涵養（１）

～「生活を守る経済学」講演シナリオを通じて～

神山 和久

#### はじめに

われわれ消費者は、ほしいモノが全て手に入るわけではない。経済学が最も重視する価値は「希少性」である。それゆえお金も、時間的ゆとりも、モノやサービスも、限定的な満足しか手に入らない。自分にとって何を選べばどれだけ満足が得られるか、いつも選択に逡巡するのが人間である。このことは社会全体で見ると、限られた資源の中からどれかを選択すると一方で何かをあきらめなければならないという二律背反、トレード・オフが常につきまとうことを意味する。経済学とは、最善の選択と意思決定を考える学問である。トレード・オフの損得を判断する知恵の体系と言ってもいいだろう。情報化、国際化が進む現在、ヒト・モノ・カネ・情報が燎原の火のごとく渦巻くなかで人々の選択と意思決定は困難さを増しており、生活者の立場からも多くの消費者問題を生み出してきた。生産・流通・消費のグローバル化によって、食品危害一つとっても、われわれの日常生活は相互依存・相互信頼の中でしか成立し得ない。けれども、多くの国々、多くの市民、多くの消費者間で相互依存の必然性は首肯するものの、自立した消費者像は姿も見えず未完成のままである。一方で、こうした相互依存の拡大は、自立・自尊・責任を持った消費者の登場に期待せざるを得ない状況を生んでいる。受動的な依存体質を拭えない旧来型の消費者のままで良いのか、主体的に「生活者」としての知恵と行動を備えた消費者に変貌すべきなのか、それは世界の市民社会像を大きく変える選択肢でもある。言うまでもなく、後者への社会的誘導を期待するのは筆者のみならず、大方のコンセンサスであろう。

欧米では消費者市民社会(Consumer Citizenship)という考えが生まれて久しいが、その内容に関して平成 20 年「国民生活白書」では次のように述べている。「個人が消費者・生活者としての役割において、社会問題、多様性、世界情勢、将来世代の状況などを考慮することによって、社会の発展と改善に積極的に参加する社会を意味している。つまり、そこで期待される消費者・生活者像は、自分自身の個人的ニーズと幸福を求めるとしても、消費や社会生活、政策形成過程などを通じて地球、世界、国、地域、そして家族の幸せを実現すべく、社会の主役として活躍する人々である。そこには豊かな消費生活を送る『消費者』だけでなく、ゆとりのある生活を送る市民としての『生活者』の立場も重要になっている。そうした人たちのことは『消費者市民』と呼べよう。一人ひとりがそれぞれの幸せを追求し、その生活を充実したゆとりのあるものにできる社会、そうした社会を目指すためには残念ながら受け身の生活では実現しない」として、消費者市民社会(Consumer Citizenship)への転換の意義を謳っている。

その実現のためには、以下、本稿でみるように「消費者力」(注1)の涵養を目的とした市

民啓発、つまり消費者教育の実践に新たな展望をもつことが求められてくる。後出、新しい経済学の登場とその教訓の認知がこの目的達成に僅かでも寄与する一因となることを信じてみたい。

近年、行動経済学という新しい経済学が注目されている。「絶対にまちがわない合理的なひと」「一度決めたら迷わない自制的なひと」「他人が得することは考えない、自分の利益のみを考える利己的なひと」。この3つを守る経済人を標準的な経済学は想定している。でも人間って、そんなに自説を曲げずに合理的に行動するばかりではない。もっと無意識の直感や感情で判断するもの。だから悪質商法にも騙されてしまう。実は、人間が完全な答えを出すまで待てず即座に判断してしまうのは、有史以来、人が環境に適応するために備わってきた力なのだと進化心理学は説く。こうした進化論的な知見も加味し、行動経済学では、感情や直感など心のはたらきも交えながら、現実的な経済世界に潜む新発見をしようとする。人間は弱い。でも、それは人皆おなじ。3日坊主もある。だから、そんな弱い人間の行動メカニズムを知ればいざという時の意思決定も怖くないし、他者にもやさしくなれる。

筆者は、いわゆる地域貢献活動の一環として、北九州市域を中心とした「年長者大学」や「弁護士会研修会」などを通じ「生活を守る経済学」をテーマとした講演活動に出向している。平成25年度においては「消費者力を身につけよう」を基調テーマとする講演会に出向いた。また同時に、筆者の大学ゼミでは、弱い感情に左右される消費者の意思決定と行動をたくさんの実験の成果を通して学んでおり、実習や日常生活、さらに地域活動に生かせる「消費者力」のパワーアップをめざしている。そこで、聴講された市民の方々やゼミ生が学んだことが、日常生活での「消費者力」の涵養に「役立った」のか、また、「役立つと思う」のかについて体系的な集約を試みるため、本稿ではその手始めとして、ゼミで再講義した講演シナリオを一部抜粋して紹介しながら、若干のコメントを記述してみたい。

消費者市民社会(Consumer Citizenship)への転換の道探しを通奏低音としつつも、そのためのファースト・ステップとして、「消費者力」の向上に資するささやかな試みとして本稿を位置づけておきたい。さっそく、学生のみなさんに再講演した内容を記述してみよう。

## 1. 人々は、物価変動を無視して名目値で判断する。 【貨幣錯覚】

<講演シナリオ その1>

最初は、物価と円高、「名目」と「実質」を峻別できないわれわれ消費者の話から始めましょう。早速ですが(図1)のスライドをご覧ください。

今、仮装国家としてビールのみを生産する国があるとします。この国ではビールの原料・材料をすべて輸入に依存しています。ビール1本につきその原価は20円です。で、売価が200円だとすると、単純にこの国で生み出した付加価値は180円となります。これが図のAのところ。ところが、1年後に、この国は円高が進み輸入物価が大幅に下がりました。なんとビール1本につき10円の円高進です。企業としてはもうけが大幅に膨らみます。

## 図1 なぜか貨幣錯覚—名目と実質

例：円高とわたしたちの生活実感（ビール生産国の場合）

1. 原料・材料は@20円—————売価@200円

付加価値は180円・・・A

2. 原料・材料は円高で@10円—————売価@200円

付加価値は190円

3. 原料・材料は円高で@10円—————差益還元@190円

付加価値は180円・・・B

問：1. と3. の場合、A・Bそれぞれ180円の価値は同じか？

◇われわれは、お金の名目値にばかり興味を示しがち。高まる実質値は考慮しない。しかも、われわれはデフレの世界で生きているのに。

200円の売価はそのままでですから、付加価値は190円です。でも、このままでは賢い国民が黙っていません。円高差益の還元を企業や政府に訴えます。そして差益還元が実現しました。100%の差益還元です。したがって、売価は190円となり、この国の物価はすばらしいパフォーマンス（安定）を示したのです。「消費者力」の発揮と言いたいのですが・・・。

このとき、多くの消費者は1. と3. のそれぞれA（180円）とB（180円）の価値の違いに気付いてくれませんでした。問題はここです。何故か・・・？。で、それはこういうことです。金額で示された180円の価値は「名目」では同じ180円です。しかしお金の“使い勝手”、つまり「実質」でみると明らかに円高前と後では価値が異なります。具体的には、1. の円高前のケースでは180円の価値はビールが0.9本買える購買力（ $180/200=0.9$ ）があります。しかし、3. の円高後の場合はどうでしょう。同様に計算すると、180円の価値はビールが0.95本買える購買力（ $180/190=0.95$ ）となります。携帯を出して自分で電卓計算してみてください。分かりますでしょうか。つまり、180円という価値は、円高であろうと次に説明するインフレであろうと「実質」変化しており、このことは、わたしたち消費者が、いかに「名目」の世界中心で暮らしているかということを示す好例です。経済学では、このことを貨幣錯覚と呼んでいるのです。

では、次にインフレ・デフレなど物価変動と貨幣錯覚の代表的な例を取り上げてみましょう。設問AとBの回答結果を比較してみます。（図2）をご覧ください。

A：ある国は現在、深刻な不況にあるがインフレ（物価が持続的に上昇する状態）はない。会社は少しでも利益を上げており、そこで働きたいと望む人は大勢いる。そこで会社は今年、賃金を7%カットすることにした。あなたはどう思いますか？。これに対して、「1. 受け入れられる」とした回答は38%、「2. 受け入れられない」としたのが62%となりました。では、次です。

## 図2 設問AとBを考えて回答しよう

A：ある国は現在、深刻な不況にあるがインフレ（物価が持続的に上昇する状態）はない。会社は少しだけ利益を上げており、そこで働きたいと望む人は大勢いる。そこで会社は今年、賃金を7%カットすることにした。あなたはどう思いますか？。

1. 受け入れられる 38% 2. 受け入れられない 62%

B：ある国は現在、深刻な不況にあり、さらにインフレ（物価が持続的に上昇する状態）率は12%である。会社は少しだけ利益を上げており、そこで働きたいと望む人は大勢いる。そこで会社は今年、昇給は5%しかしないことにした。あなたはどう思いますか？。

1. 受け入れられる 78% 2. 受け入れられない 22%

出所：友野典男(2006)「行動経済学 経済は「感情」で動いている」

B：ある国は現在、深刻な不況にあり、さらにインフレ（物価が持続的に上昇する状態）率は12%である。会社は少しだけ利益を上げており、そこで働きたいと望む人は大勢いる。そこで会社は今年、昇給は5%しかしないことにした。あなたはどう思いますか？。「1. 受け入れられる」とした回答が78%、「2. 受け入れられない」としたのが22%となりました。なぜ、Bの方が受け入れられる回答が8割近くになるのでしょうか。なぜ、Aでは受け入れられないひとが6割になるのでしょうか。すでに皆さんおわかりのように、どちらも「実質」賃金は変わりません。やはり貨幣錯覚が起こっているのです。

われわれは、「名目」賃金を切り下げられると痛い、辛い気持ちになります。「感情的になるな」と言われても不公正感が募り抵抗が大きいわけです。でも「名目」であっても賃金を切り上げてもらうと、先ほどと同様膨らんだお金であっても利得と考え受け入れやすいわけです。昨今の2%インフレ目標の意味がおわかりいただけでしょうか？。長いデフレ時代にも、正社員の賃金は実質切り下げが難しかった、首を切れないわけですから・・・、どうするか？。したがって、そこで雇用の流動化が進み、いつしかフリーターなど非正規雇用が増大し、雇用構造が大きく変わることに繋がったと言えるでしょう。（図3）

### 図3 正解は→どちらも実質賃金は変わらない

◆やはり貨幣錯覚が起こっている。人間の人間的なあやまち。

それは、感情・・・直感・・・慣習によって決めてしまう  
バイアス

ケース A：名目賃金の切り下げ⇒不公正であるとみなし抵抗が大きい

ケース B：名目賃金の切り上げ⇒実質切り下げでも利得とみなし、受け入れやすい

雇用構造の激変の要因になった⇒数字は怖い、大きな教訓である

出所:「行動経済学 経済は感情で動いている」

## 2 . 損失は、利得の2倍の痛みや不満を生む。 【損失回避性】

< 講演シナリオ その2 >

これまでの標準的な経済学の前提というのはこういうものでした。これは何度も言いましたけれどももう一度言います。

人間(経済人)は合理的である。「一、人間は間違わず、いつも最善の選択をする」「二、人間は一度決めたら変えない、自制的である」「三、人間は自分の利益のみを求め、利己的である」。つまり、合理的・自制的・利己的、経済学ではこの3本の柱を堅持する人間を想定しているわけです。でも行動経済学では、合理的、自制的どころか、とんでもない感情に負けてしまう人間の弱さがあるじゃないか、いつも私たちの頭の中に理性と感情が勢力争いする世界があるのが人間の真の姿じゃないか、という疑問から出発します。心理学の知見や実験を経済学に応用し、より現実的な経済理論の構築をめざす新しい学問、まだ生まれて20数年というような経済学です。従来は一切間違わず超合理的と仮定された人間を、直感や感情に頼る限定合理的な人間として捉え直します。この「限定合理性」の前提というところが重要なところで、いつも合理的ばかりじゃありませんよ、でもいつも不合理的なわけでもありません。ある一定部分、限定的に合理的でほかはアバウトな直感や感情に走っちゃうという人間味のある人(ヒューマン)を前提とします。「当たりもしない宝くじを買ってしまう人」「うーん、ダイエットは成功しないよね」といった人間像です。つまり行動経済学のテーマは、人はどのように行動するのか、何故そうするのだろうか、その行動によって一体何が生じるのだろうか、というようなことを多くの実験や、近年では脳科学の新しい研究手法を援用して解明するというようなことです。要するに行動経済学は、温かみのある人間の心理と行動を標的とします。また、これを分析する方法論・ツールを持っています。トライすることで、ゼミのみなさんにも新しい経済学の知見を提供できるのではないのでしょうか。

さっそく、人間は無意識に殆どの行動を行っている、というところを見ていきましょう。  
(中略)さて、次は損失回避性についてのお話です。

「勝ったよろこびより、負けた悔しさの方が大きい?」。柔道を例にしましょう。金メダルは勝ちとったよろこびです、銅メダルも勝てたよろこびです。3位決定戦で勝ちとったメダルが銅メダルですから……。金メダルはもちろんトップですよね、トップの栄冠ということです。しかし銀メダルは柔道の場合どうでしょう。この人は、金メダリスト、名前は上野薫さんです。(以下、講演会で使用したスライド写真は省略)この方、銅メダリストの上野順恵さん、姉妹で活躍されました。これは一昨年(2012年)のロンドンオリンピックの表彰場面です。そしてこの方、銀メダリストの中矢力さん。笑ってらっしゃいますけど、銀メダルっていうのは心中どうなのでしょう。実は、銀メダルは負けてもらうメダルです。ということは「勝ったよろこびより負けた悔しさの方が大きい」という感情が、このオリンピックの柔道で如実に表れているんじゃないでしょうか。これは、私からみなさんへの初質問になります……。どうですか?。なぜか知らないけれどもこういう風に金・銀・銅とあった場合、個人技で相手を打ち負かすいわゆる格闘技の世界では、このように人間の感情が大きく左右します。本音は損失回避性が強いのです。「顔で笑って、心で泣いて……」、悔しさが残ります。

一方、2013年の世界水泳の場合、ここで見た「勝ったよろこびと負けた悔しさ」を比べますと、金メダルはトップのよろこび、これは同じです。銅メダルも入賞した安堵感、3着ですからね。大事なのは、競技が変わったら先ほどの柔道と違って銀メダルも「うれしい、やった!」という勝ったよろこびが金メダルの次に表れてくる、銅メダルよりも銀メダルが上というのがはっきりとわかる世界水泳の結果です。400m個人メドレーの金メダリスト(瀬戸大地)>200m個人メドレーの銀メダリスト(荻野公介)>50m背泳ぎで銅メダリスト(寺川綾)ということになります。これは何故かというと、みなさんおわかりいただけるように、水泳の場合はタイムです。タイムという「客観的な判定基準」が用意されていますから、そのタイムで1着2着3着になる、ここでは人間の裁量や感情が入るってことはあり得ません。したがって純粋に勝ったよろこびが溢れてくるわけです。これを前提に考えると、人間行動と私たちの考え方・感じ方っていうのはTPOでいろんな姿で出て参ります。それをこの方がこういうかたちで世界に発表したら、こういうものをもらいました。

それは何か。それは「得た満足や、得た利得よりも、失った不満、損失の方が大きい」という発見です。柔道の銀メダリストの「痛み」を代弁しているようですね。写真(省略)はダニエル・カーネマンという心理学者です。損失回避性を含む人間の不確実性下の行動をプロスペクト理論(注2)というかたちで発表して、2002年にノーベル経済学賞をもらった人です。その中身につきましては今からお話しましょう。

さっそく問題です。「あなたは、コイン投げのギャンブルに誘われました。A.表が出たら、10,000円支払います。B.裏が出たら、15,000円もらえます。このギャンブルは魅力

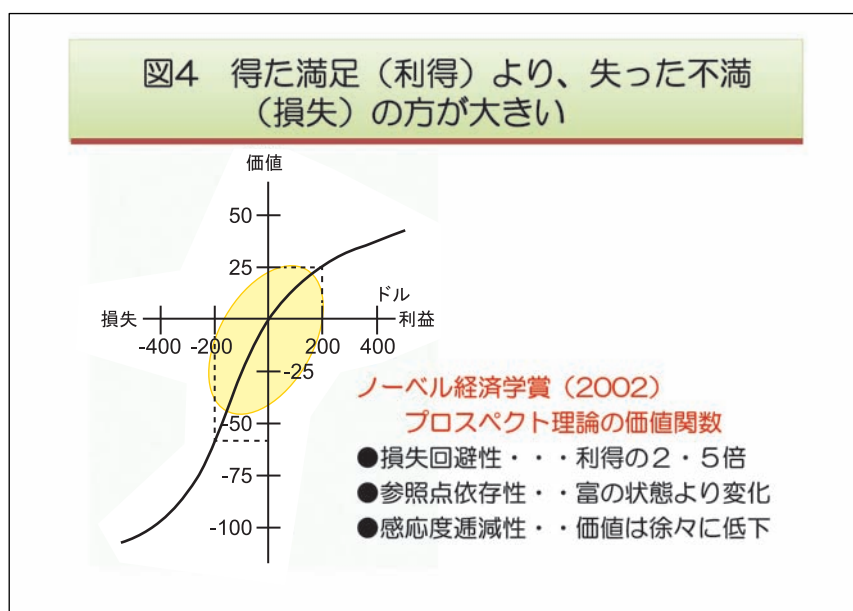
的ですか？あなたは やりますか？ 」

「これやりますか」と言われたらほとんどの人が「嫌だ」と断りますよね。それは何故か。断るのは理性で考えた頭の“熟慮の結果”と思われがちです。しかし決定的要因は、私たちの頭がやらかす速い“直感的な反応”だ、ということなんです。それもほとんど無意識に近い反応です。このギャンブルでは、合理的には2分の1の確率で5,000円儲かるのですが、「損する」という恐怖感は「得する」期待感をかなり勝っています。およそ2倍の20,000円以上でないとギャンブルを断ります。これが損失回避性といわれるプロスペクト理論の中心的な内容です。したがって、昨年流行った“倍返し”というのは、人間の直感的な損失回避を表現しているということです（笑）。

（中略）このプロスペクト理論の内容は大きく2つあります。

一つは価値関数、あと一つは確率加重関数で説明されますが、ここでは価値関数について3点ほどお話をしておきます。

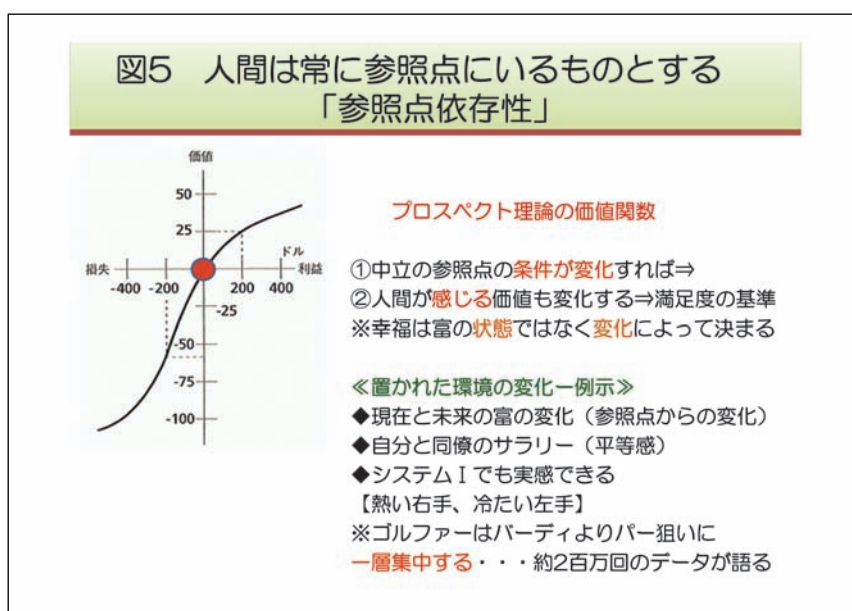
まず、(図4)に示すグラフ(価値関数)の損失回避性です。上述のコイン投げギャンブル問題を観念化して考えてみましょう。X軸のプラス方向(利得場面)では、200ドルの利益から感受する価値(満足)が+25(Y軸)ほどの価値であることを示しています。一方、X軸のマイナス方向(損失場面)では、同額200ドルの損失から受ける苦痛(不満)は-50以上(Y軸)になることがわかります。結果、第1象限と第3象限の楕円の面積が「非対称」となりました。つまり、満足より不満領域の方が大きな影響力(面積が大きい)を持つことを示しているのです。



二つめは、感応度逓減性とよばれるものです。詳細は省略しますが、要するにグラフの傾きが徐々に緩くなる、カーブがなだらかになることを言います。最初のビールはとてもうまいが、2杯、3杯となると美味しさも落ちてきます。こんな感じでしょうか。



三つめは、参照点依存性です。グラフの原点を見てください。ここは決して (0, 0) の座標を厳密に当てはめているわけではありません。人間が思っている価値の基準点のことです。見てきたように、参照点からの動きによって人はプラスやマイナスの価値を受け入れます。中立であるところの参照点の条件が変化すれば、人間が感じる価値も変化するのは、ならば満足度の基準でありますから、たとえば「幸福感」の場合はどうでしょう。「幸福は富の状態ではなく変化によって決まる」と考えるのがプロスペクト理論の考え方です。このように考えると、人間が置かれた環境といえ、(図5)に示しましたが、現在と未来の富の変化(参照点からの変化)、自分と同僚とのサラリーの多寡・比較(平等感)など、一寸考えただけでもたくさんの例示が思い浮かぶことでしょう。同僚と比べ 100 円でも給料が少ないと・・・イヤなんです。参照する、比べたがるのが人間だというわけです。



ダニエル・カーネマンらは、人間の認知機能を、「システム1」という直感的で素早い判断と、論理的だがスピードが遅い「システム2」による判断に分けています。「システム1」が実感できる認知機能の実験は、「熱いお湯の右手の洗面器、冷たい水の左手の洗面器」による説明がよくわかります。2つの両端の洗面器に別々に浸した手が、上記の状態から真ん中に置いた「ぬるいお湯」の洗面器に両手を同時に浸し替えるとどうなるでしょう。熱い右手は冷たく感じ、冷たい左手は温かく感じることでしょう。右手と左手の触感はもとの参照点異なるからです。ちなみに、プロゴルファーはバーディよりパー狙いに一層集中するそうです・・・米国での実験では、約 2 百万回のパターのデータが証明しているそうです。基準(参照点)であるパーを逃すという損失回避性、バーディよりもパーの死守に賭けるプロ魂の深層心理が浮かんでくるのではないのでしょうか。

実は、この理論は経済的なお金の損得だけじゃなくて、ここは人間の「地位」とか「名誉」も・・・次の保有効果もそうですが、様々な価値に対する反応にこの理論は適用され

ますから、そこは注意をしていただかなければならないと思います。

### 3. なぜ、自分の所有物を高く評価したがるのか

【保有効果】

#### <講演シナリオ その3>

(図6)は、「人はなぜ自分の所有物を高く評価したがるのか」、ということでやった世界的に有名な実験です。マグカップを与えられた学生と、そのマグカップと同じぐらいの値段のチョコレートを与えられた学生で、これはもう300人ずつぐらい、実際にアメリカの大学で行われた実験なのですが、300人同数ぐらいの学生に「交換しませんか」と提案してもらった。そうするとどちらも「イヤ」と答えたのが9割以上いたわけです。これは何故なのか。結論を言いますと、どちらの学生も、つまりマグカップを与えられた学生も同額のチョコを与えられた学生も自分が一度手にしたのものには愛着を感じる。したがって手放すことは「イヤ」。相手の持っているものと交換したらどうやら損をするような気がする、ということなのです。よくいわれるように、これが損失回避、「生活を守る経済学」の好例なのです。例えば通信販売で、よく“お試し期間”というのがあります。それは消費者に一度保有させてみることによって、心に芽生える保有効果を期待するトラップ(罠)であると……。少し辛辣な言い方になりますが、はっきり言って売り手のマーケティング手法だと思いますね。「試せば必ず買う」。あるいは別の例で、車のディーラーは、新車を買おうとする消費者の多くが新車の値引きよりも下取り価格の交渉に躍起になるということを知っています。要するに、自分の車はとても手入れが良くて(中古車ですけどね……)その中古車、保有している車の下取り価格を高く見積もってくれた方のディーラーで買おうとするわけです。新車の値引きよりも自分の車、保有していた車の中古車の査定評価を高くしてくれる。そういうところで買ってやろうと判断する。人間のバイアス(偏り)、保有効果の表れでしょう。なお、この保有効果で注意しておかなければならないのは、経済学的な意味での保有効果だけでなく、これは先ほどの損失回避性と同じように「名誉」や「社会的地位」あるいは「権力」などの保有にも当てはまるということです。注意する必要があります。

#### 図6 なぜ、自分の所有物を高く評価したがるのか

- 《例》①マグカップを与えられた学生と同額のチョコレートを与えられた学生での交換実験  
②交換しますか?  
③どちらもno!が90%。  
④損失を回避したい(手放すことはイヤ、愛着)

【生活を守る】通販の「お試し期間」は、一度保有させることにより、消費者の「保有効果」を期待する罠。  
車のディーラーは、新車を買おうとする人の多くが、新車値引きより、下取り価格の交渉に躍起になることを知っている

《参考》経済的な保有効果ではなく、これは名誉、社会的地位、権力などにも当てはまる。注意!!!

4. なぜ、未来より現在を優先させるのだろうか 【現在志向バイアス】  
なぜ、将来の計画は先送りされるのだろうか、自信過剰？【コミットメント】

<講演シナリオ その4>

次の行動経済学のテーマは現在志向バイアスとコミットメントです。

なぜ私たちは将来の計画を先送りしちゃうのでしょうか。将来のことと現在のことで、心の中で重み付けはどう違うのでしょうか。それは私たちが自信過剰だから？。そのあたりをみんなで一緒に考えてみたいと思います。これはみなさん復習ですね、3年生ですから。さっそく、将来価値と現在価値のバイアスを考えてみましょう。(図7)

図7 「先に楽しみ、後で憂う」

- ◆お金の限らず、人間はどうしても、より早く手に入る利得を選んでしまう。つまり「先楽後憂」(先に楽しみ、後で憂う)だ。諺の「先憂後楽」は難しい。
- ◆つまり、「将来は不確実だから、実際に手に入るかどうかわからないものよりも、現在確実に手に入るものを重視するクセがある」ということ。  
「現在志向バイアス」という。

問1：A 今日100万円もらう、 B 明日101万円もらう

問2：A 1年後100万円もらう B 1年と1日後に101万円もらう

「あなたはAとBでどちらが良いですか?」。問1では、Aが今日100万円もらう。100万円ももらえるなら今日もらっちゃえ。Bは、いや1日待てば明日101万円もらえます、というわけですね。さあどちらでしょう。頭の中でイメージしておいてください。次、問2になるんですが、「あなたはCとDではどちらが良いですか?」。Cは1年後に100万円もらう、Dは1年と1日後に101万円もらう、こういうわけですね。これが将来価値と現在価値の比較実験なんですが、「現在の方が大事」というのが私たちの癖、バイアスなんですね。人間はどうしても早く手に入る利得をつい選んでしまいます。つまり近視眼的な側面がどうしてもあります。それは前出の損失回避性でも説明できますし、保有効果っていうのでも説明できますし、人間の進化論からも説明ができます。つまり、人は、将来は不確実ですから実際に手に入るかどうかわからないものよりも、現在、確実に手に入るものを重視する性質がある、というものでした。これは行動経済学では「現在志向バイアス」と、こういう風に名前がついています。つまり、「先憂後楽」でなく「先楽後憂」ということです。

楽しみは後に置いておくことができず、人間は「今が大事」なんですね。したがって、先ほどみなさんに答えてもらいました問1と問2は、今日100万円もらうと明日の101

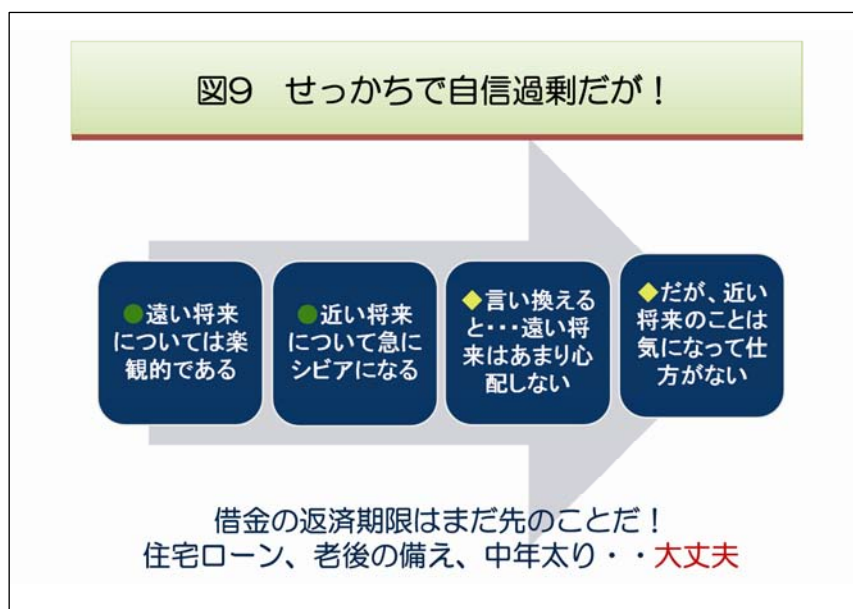
万円もらうでは、現在は大事なのですが、今日と明日では、どちらかという今日、ということにかなり現在に重きを置いちゃいます。で、これを実はグラフにしたのがこういうことなのですね。(図8) 今が大事、将来は価値が次第に下がっていきます。時間効用、つまり時の経過とともに満足度がどのように変化するか。グラフは「又曲型割引(時間割引が近い将来には高く、遠い将来には低くなる)」っていう用語で説明するんですが、言葉の意味はともかくとして、今日もらうものと1年後にもらうものではこんな風にその価値、効用が異なると……。縦軸は価値がどんどん……。漸減する……。どれくらい下がっていくか。これ見ておわかりのように、今日と明日では、ずいぶん、ぐっと下がっていますよね。だから現在に対しては、「せっかち」で早くもらっちゃいたいわけですね。でも支払う将来債務については、先のことだから「まあいいや」とかなり楽観的、ということがおわかりいただけるでしょう!。ですから、債務を抱えた人、とりわけ多重債務者であれば尚更のこと、後先のことを楽観視する傾向があります。返済期限が直前になると慌てるくせに、まだまだ「大丈夫」とタカをくくるわけです。先ほどの問題でいえば、今日と1年後では「選考の逆転」が起こっちゃうわけですね。100万円という金額なのか101万円という金額なのかで逆転が起こっちゃいます。同じ1万円の差でも現在と未来では重みが違うのがおわかりいただけだと思います。このことをみなさん実習等で照らしあわせて考えますと、遠い将来については楽観的、近い将来については急に厳格になる、言い換えますと、遠い将来はあまり心配してない、だが近い将来のことは気になって仕方がない。お正月早々恐縮ですが就活もそう、近い将来のことです。1年後といってもみなさんの人生にとっては非常に近い未来、大事な目標ですから気になるわけです。そう、気になるのは当たり前、必然ですね。まあ就活とは言わずに、論文と言いましょう。皆さんの卒業論文はまだまだ先のことだ、準備はまだまだ大丈夫と思っている。これは当然でしょうね。だから時間の影響を受けやすい私たち、ということで、ここは申し上げている訳でして……。



たとえばこんな例があります。卒論も提出して就職も決まった4年生が、・・・お陰さまでわたしのゼミ生全員そうになりました、社会人も1人今日決まりました、良かったです。社会人で新卒採用を受けた方が今日決まりました、全員OK。でも間近に迫った卒論提出の期限が気になって仕方ないようになってきています。全員NO(笑)。

(閑話休題)

楽しみにしていたゼミ卒業旅行なのに出かける前になるとなんだか億劫になる。こういうのもありますね。たとえば前出の論文や報告書の提出、楽しみにしていたコンパ。コンパなどは、特に楽しみで待ち遠しかった。それなのに直前になると会費や、服装や、髪型まで気になっちゃう。それから皆さんにとっては、まだ将来のことでしょうが、いざ結婚式の前になるとマリッジ・ブルーなんて言葉もあります。時間の影響を受けやすい私たち、人間、消費者行動の非合理的なパターンですね。ですから、そういうことを理解したうえで「自信過剰」には「ぜひ、注意しましょう」というのが行動経済学の教訓ですね。(図9)



たとえば、論文執筆は予定通りにできますか？ということで・・・。社会心理学者のロジャー・ビューエラーらの実験結果があります。多くの学生さんにこういう風に聞きました。「執筆は最も順調で何日ぐらいかかりますか？」。じゃあ逆に、「もっとも論文執筆に手間取った場合、何日で書きますか？あなたは」という質問を事前におきます。そして、実際にかかった日数をみまるとこんな結果になりました。以下、回答結果です。「論文執筆は予定通りか？」。最も順調で27.4日、平均値ですから小数単位がでておりますが約27日くらいです。最も手間取った場合は48.6日となりますから、ほぼ49日。ところが実際にかかったのは55.5日という結果です。なかなか予定通り、予測どおりじゃないですね。順調で27.4日っていうのに、実際にかかったのは55.5日ですから、倍の時間かかっているわけですね。やはり自分の将来の行動にアンカーを入れることが大事である、ということ

が行動経済学の教えなのですね。

アンカー、みなさんご承知のとおり「錨 (いかり)」です。たとえば自分で、ひとりで自分自身に言い聞かせる、新年の初心表明っていうのがよくありますね。今年目標とかです。「今年こそ資格を取る」という目標、一人だけの場合に目標を立てたとします。約束がこれじゃ弱いので、他人に、お友達とか家族みんなに告白します、「今年こそ資格を取ります」。これが強いアンカーになりますね。もっと強いアンカーは、他人に、みんなに告白すること。さらにプラスして、駄目な時にこんな約束をします。たとえば「皆に御馳走します」。なんていうような約束を他人に告白すること。そうです。アンカーにプラス鞭 (むち) のインセンティブ、自分にムチを打つということですね。そういうインセンティブを与えちゃう。この三段階で考えるのがベスト、ということです。これがコミットメントする、という経済学用語の意味になります。すなわちコミットメントするというのは日常良く使う言葉なんです、「将来の自分の行動を固く約束する」。そうすることをコミットするといいます。約束は大事なのですね、いわば前出のアンカーのこと、このアンカーを入れると船が身動きできませんから金縛りにする、アンカーを入れて自分の行動を抑制する、約束する。これが計画達成の原動力となることは十分承知できますし、約束は大事だっていうことの念押しになります。未然の防止策っていう考え方もできます。約束破りは恥ずかしい、「オオカミ少年」と言われかねません。「あー、もう駄目だった」というお手上げ (ホールドアップ) は嫌である。こんなことであります。

でも、このコミットメントっていうのは万能選手ではありません。論文の準備を怠らないためには、繰り返しますがアメだけではないムチの動機づけを持つことが必要です。これは実習やゼミでみんなでも共有していきたいと思っております。一言、説明を付け加えますと「アンダーマイニング効果」というのがあります。これをちょっと説明しましょう。何のことか全くわからないのでたとえ話を紹介いたします。よく聞いてください。

ある町に一人暮らしのお年寄りが住んでいらっしゃいました。自宅の隣の広い空地で子ども達が放課後に毎日ドッジボールをするので騒がしくってたまりません。このお年寄りは困り果てていました。そこで、熟慮のあげく、この老人は実に上手いトラップ (罠) を思いつきました。それはどんなことかというと、ある日子ども達に言ったわけなんです。「君たちのドッジボールを観るのがとても楽しくて、いつも楽しみながら家から観戦しているんだよ。これからも、ここで毎日ドッジボールをやってくれたらお小遣いとして 100 円あげよう」と、巧みに話しかけたのです。遊びにきたのにお金をもらえちゃうということになりましたので、子ども達はみなびっくりしました。でもその後 1 週間、老人は毎日子ども達に 100 円あげました。もちろん一人ずつ 100 円ではありません、まとめて全員で 100 円あげたわけです。その翌週にその老人は「すまんが、お金にだんだん余裕がなくなってきたんだよ、これからは毎日 50 円にするけどそれでいいかね？」とこう言ったわけです。子ども達の一部はしぶしぶでしたが、また翌週も毎日毎日ドッジボールをしにきて 50 円をもらって帰っていきました。その翌週、今度は、老人はこのように計画通り実行します。

その老人の上手い計画とは、「すまんが今日からは 10 円にさせてもらうよ、お金がなくなってきたのだよ！」と言いました。もともとそこで遊ぶのが目的だった子ども達は「まあしょうがないか」と思いその後もドッジボールをしに来ました。とどめはその数日後です。老人は「悪いが今日からもうお金は無いよ、ついにあげるお金がなくなっちゃったんだ」と告げました。すると子ども達は怒って文句を言い始めました。「冗談じゃないよ、僕たちがタダで遊んでやると思っているの？もう来てやらないよ！」それ以降、子ども達は2度と隣の空き地でドッジボールをしなくなりました。老人は千円ちょっとで騒々しい子ども達を追い出すことができたわけでありませう。これは非常に有名なお話なんです、みなさん、お聞きになっておわかりのように、少年たちは、最初は内からこみあげてくる正真正銘のモチベーションによってドッジボールをやっていたんですが、老人からお金をもらうという外発的な、つまり外から受ける刺激ですね、モチベーションを得たということで、いつの間にか「お金をもらいたい」という外向きの動機付け、モチベーションばかりが強くなって、ドッジボールをやりたいという自発的、内発的なモチベーションはなくなっちゃったわけです。結果、報酬がなくなっちゃえばもうドッジボールをやる理由はなくなってしまう。まあこういったことが身近でいろいろ経験があるんじゃないかと……。たとえば、ボランティアや実習でやっている好きなことを、卒業して仕事にしちゃったら昔のように全然楽しめなくなった。自発的に実習をやろうかな、と思っていたら、先生から強制的に「やりなさい」と言われてやる気がなくなった、とか、そんなことを含めてここではお話をしておきます。コミットメントは以上です。

## 5 . 社会的ジレンマはだれもが経験するもの 【共有地の悲劇・協力行動】 < 講演シナリオ その5 >

100%確実に物事を達成できるようにするっていうのは、これは自分のことだけを考えていますからきわめて利己的な行動です。要するに利己的とは他者に与える負担やコストを全く考えないで、自分の利益あるいは便益だけを考える行為と、こういうふうに規定していいと思います。だから確実に 100%自分のためになるわけです。ところが行動経済学で最近つとに研究が進んでいますのが利他的行動ですね。利他的とは、自ら時間や労力を払って他者に便益をあたえる行為なのです。ゼミのみなさんは一緒に学習してきたように標準的な経済学では、利己的な行動というのは合理的である、そうすべきだという大前提がありました。それは、つまりこう言うことでした。どんな決まりがあったかという、1つ、人間は合理的である、人間は間違えず選択をする。2つめ、人間は一度決めたら変えない、自制的である、セルフコントロールが完璧というわけですね。それから、人間は自分の利益のみを求め、利己的である、この3つを前提として標準的な経済学の理論は成り立っていましたけれども、その大前提は誤りである、という攻撃、あるいは反証（アノマリーといいます）が次々に登場してきました。行動経済学者のなかでの話ですね。これはおかしいんじゃないか、っていうことです。じゃあ経済学の中で、この誤りってことで

考えると、人間は利己的じゃない利他的です。コストを自分が負担して他者に利益を与えますよ。さらに、この利他的行動の解明ができるとすれば、世界中の人々が現在直面する「社会的ジレンマ」を解くカギとなるんじゃないですか、と。たとえば、「社会的ジレンマ」といえば、この後すぐにお話ししますが、環境問題が典型です。あるいは、交通渋滞を惹き起すのに、公共交通を使わずに自分だけマイカー通勤しちゃう、自分だけが良ければ、独りよがり・・・、自分勝手な行動が環境にやさしくない行動です。

例のイソップ物語の「ネズミの会議」のネズミたちっていうのはどんなお話だったかという、いつもネズミを追いかけてネズミたちを食べちゃう猫がいます。その猫の首に鈴をネズミの誰かが勇気を出して付けてくれば、猫がどこを通るかチリンチリンと音がするから判る、だから猫に鈴をつけに行こう、という会議をネズミたちがするわけです。全員のネズミたちが、「そうだ、そうだ」と言うんですが、じゃあ誰が猫に鈴を付けに行くの？といったら誰もみんなNOというわけですよ。こういう物語がイソップ物語でありました。まさに「社会的ジレンマ」の好例を示していると思います。だから今言いましたように、環境問題を取りあげれば、「社会的ジレンマ」の解説で一番わかりやすい話じゃないでしょうか。

その例として地球温暖化に関して簡単に、掻い摘まんでお話しすると、自分だけは環境にやさしい協力行動をとらないで非協力行動をとります。多くの方は環境にやさしい協力行動をとっています。つまり、自分だけが「ただ乗り」しちゃうっていうのがありますね。フリーライダーとよくいわれます。自分ひとりだけが「ただ乗り」するんだから、多くの方は環境にやさしい行動をとる社会が実現しています。結果、環境は改善されて予定通り地球温暖化などが少しは良くなっていく。ところが問題は、みんなが同じように考えるんですね、すなわち「ただ乗りしちゃおう」「馬鹿バカしい、なんで自分だけが・・・」、となっちゃいまして、誰も協力行動をとらなくなる。ということで、環境の変動は最悪の事態になるわけですね。そういう「社会的ジレンマ」っていうのは、だから、定義としてみれば、ちょっとご覧になってください（スライド省略）。一人ひとりの人間が協力行動か非協力行動のどちらかをとります。そして一人ひとりにとっては協力行動よりも非協力行動をとるほうが楽な行動であり、自分にとって都合の良い結果が得られる。しかし全員がそんな利己的な非協力行動をとると、全員が協力行動をとった場合よりも、誰にとっても好ましくない結果が生まれてしまいます。これがまさにジレンマですね。このことについて、皆さんは、恐らく多くの方が実習や日常生活でお感じになったことがあるんじゃないかと思います。これは、「社会的ジレンマ」の中で典型的な共有地の悲劇といわれるものですが、ここは少しだけ、簡単にお話をしておきます。（図10）

協力すべき地域問題を自分たちでコントロールできない！。共有地っていうのは言い換えますと公共財、みんなのものということですね。みんなものっていう場合には、このような悲劇が起こりますよっていう説明をちょっと今からさせていただきます。話は大きいのですが、産業革命時代のイギリス農業を考えます。イギリスは牧草地のなかで多くの羊



## 図10 共有地の悲劇

協力すべき地域問題を自分たちでコントロールできない！

- ①産業革命時代のイギリス⇒共有の牧草地（コモンズ）⇒羊の放牧が盛んだった⇒革命後羊毛の需要が急増
- ②さらに競って羊を放牧⇒牧草が不足（根まで食べる羊の増加）⇒自分の私有地なら・・・⇒しかし共有の牧草地であることの悲しさ（利己的>利他的）
- ③結果、牧草地が荒廃⇒共有地の悲劇となる

≪動画：猫に鈴をつけることの必要性をすべてのネズミが理解しても、だれも自ら進んで行動しないために悲劇が起こる≫

や牛、特に羊毛、牧草地で羊の放牧が盛んでした。産業革命が起こった後は、ヨークシャー地方、ランカシャー地方っていうまでもなく、毛織物が大量にできるようになります。そうすると需要が急増します。さらに争って羊を放牧すると牧草が不足しちやいます、根っこまで食べる羊が増加しちゃう。自分だけの私有地ならば自分の羊たちだけに食べさせることができますが、共有している国土、共有の牧草地であることの悲しさゆえ、悲劇が起こる。自分が飼っている牛にだけは餌を食べさせたい、皆同じように考える。結果、牧草地が荒れちやいます。共有地の悲劇が生みだされます。これは様々なたとえがあります。たとえば、私たちの身近な共有地というのは公共財という言葉で表すことができます。公共財問題という「社会的ジレンマ」がいろいろありました。簡単な例はこれです。公園や観光地にゴミが散乱しています、あるいは指定袋に入れて指定場所に出さない家庭ごみ。最近では、自分の家庭ごみをスーパーに持っていったり、コンビニに持っていったりして捨てる人もいます。駅のホームもそうです。あるいは違法駐車による渋滞、信号無視なんてことになると、これは法律違反ですね、とんでもない勝手です。例は替わって学者の世界でいえば、学会発表で自分の発表時間だけ平気で超過してしまう先生がいます、困ります、これはね。私にもだんだん身近な例に近づいてきました・・・(笑)。もっと、ケチな例をあげると、こういう例はどうでしょう。割り勘のジレンマ。これはこういうことなんです。焼肉パーティーをしました。今日は2千円の割り勘です、となると“我れ先”にと美味しい肉を食べちゃう。少しささやかな例になりましたが、なんとなく分かりますね、みんなで一緒だから先に食べちゃおうかな。豊かに育った皆さんは、そこまでケチ行動はしないかもしれませんが、公共財問題という「社会的ジレンマ」ということでお話ししておきたいと思います。(図11)

## 図11 公共財問題という社会的ジレンマ

≪例示≫

①公園や観光地のゴミ問題、指定場所にださない  
家庭ごみ

②違法駐車による渋滞

③信号無視

④学会発表での時間超過

⑤ささやかな例をあげると・・・割り勘のジレンマ？

(利己的>利他的)

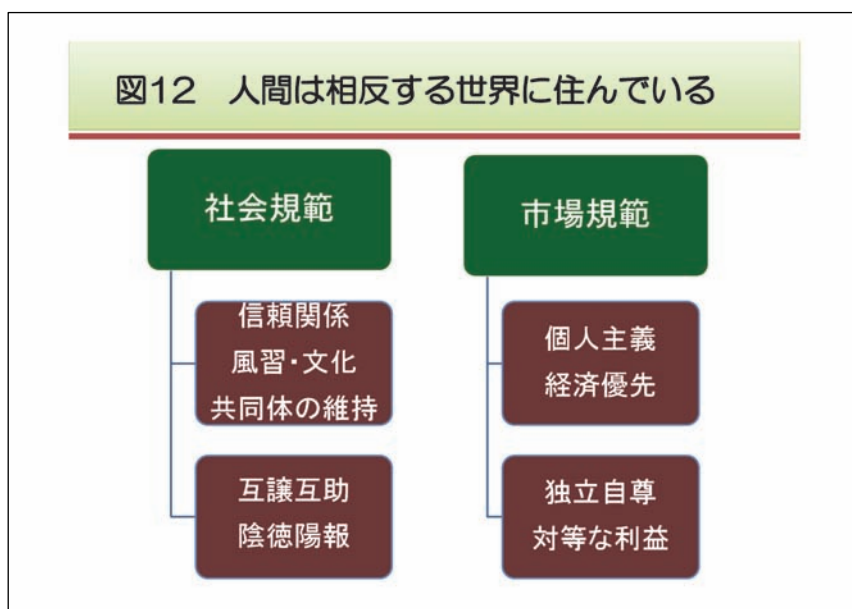
### 6. 市場原理を導入すると、腐敗する社会規範もある 【市場規範と社会規範】 利他的な人間が、環境に適応しながら進化してきた 【互恵性原理】

#### ＜講演シナリオ その4＞

市場原理を導入すると、墮落したり腐敗したりする社会規範もある。言葉が難しいのでちょっとわかりにくいと思いますので、実際に詳しくみていきましょう。地域での「消費者力」、例えば、地域でみなさんが実習をする、あるいは実生活を行っていく上で「消費者力」を引き出すアプローチについて考えていきたいと思います。まず、市場規範と社会規範の関係について考えてみましょう。好ましい相互依存と相互信頼の社会実現のために、欠かせない消費者教育の実践課題とわたしは思うからです。

さて、人間は2つの相反する世界に住んでいます。これは私も皆さんも、子どもも大人も全て地球上の人はそうでしょう。そういうジレンマのなかに我々は住んでいますけど、それはどんな世界かというと、少し言葉は難しいけれどもこういう世界です。社会規範と、一方では市場規範、これは相互にぐるぐる、ぐるぐる回っているということを表しています(※スライド省略)。あるときは、世のため人のため社会の決まり、法律までには成らないけれど“決まり”ってあります、つまり社会規範ですよ。一方で市場規範っていうのは、市場の原理で、はっきりいえば経済学の論理。分かりやすく言いますと、例えばボランティアでやる作業なのか、お金もらう有償か。これは学生の場合に置き換えますと、実習かアルバイトかと言ってもいいかもしれません。あるいは世のため、人のため。利他的なのか、自分のため(利己的)なのか。何も利己的が悪いといっているわけじゃありません。人間は皆、利己的ですが、でも人間は全て、利他的でもあります。皆そうです。それが利己的な行動を行う場合と、利他的な行動が表に出る場合と2つ分かれてくるということ。そこでもう一つ言い換えますと、社会規範と市場規範はひとりの人間が、いつも、あっち

使ったりこっち使ったりするんです。まず社会規範の方をみますと、これはお互いの信頼関係で成り立っています。あるいは日本の風土といいますか風習、あるいは日本の文化、それがキリスト教の世界だとキリスト教の文化、イスラムの世界ならイスラムの風習・文化もあるでしょう。それは共同体の維持という大きな目的のため、これは人類が進化していく過程で共同体を維持するため、集団生活を始めた古い時代から社会規範というのが生まれたわけです。したがって、そこでの社会規範の行動原理は“互譲互助”、すなわち互いに譲り、互いに助け合いましょう。あるいは“陰徳陽報”という古くからの言葉があります。陰（かげ）で徳（とく）を積みましょ、そうするといつか良い報い、いつか良い知らせがあなたに届きます。言い換えますと、「情けは人の為ならず」と同じ意味ですね。一方で、市場規範の場合はどうなのかというと、市場原理の導入という言葉と同じですから、ここでは冷徹な個人主義がまかり通ります。個人主義は悪いといっているのではありません、行き過ぎた個人主義というのは、今、現代社会で言われておりますけれども、まあ、行き過ぎているかどうかは個人の感想もあると思いますが、個人主義の時代であることは否めません。で、ここでは経済の論理が貫徹しますから利益が優先します。その市場規範の世界ではお互いが独立自尊です。だから個人主義に非常に密接にかかわり合ってきますね、独立自尊の精神では……。(図12)の最後に書いた対等な利益というのを説明します。あなたにとっても私にとってもそれぞれが自己を優先させることによって、それは取引として対等に利益を得たり、損失を被ったりしますよね、こういうことを、ここではお話ししているのです。そうすると、実はこんな教訓がありました。これはイスラエルでの実話(注4)なんです。



保育所に、子どもを迎えにくる親。夕方6時っていうのにいつも遅刻して車で迎えに来ちゃうわけです。先生が「遅刻しないでください」。母親が「どうもすみません」。この時

の保育所のルールは、「お互い助け合いだから今度からしないでね」という暗黙の了解、以心伝心です。俗にいう社会規範がベースになっているわけです。このケースで母親は、「遅れて申し訳ない」という気持ちがあるけれど、つつい社会規範に甘えて許していただいていた。それがどういう具合になったかという、この保育所では、10分以上遅刻した場合に3ドルの罰金を徴収するようにルールを変更しちゃったわけです。そうするとどうでしょう。保育士さんは「また遅刻ですか!」。で、母親は「3ドル払うんだからいいじゃない」とこうなっちゃったわけです。これは、今までの社会規範が市場規範に置き換わってしまったという典型的な例なんですね。すなわち、お金で済むようになると、どうも今までのお互いの程良い関係が世知辛くなっちゃった、っていうことなんです。やはりこうなっちゃうと感情、私たちの心は元には戻らないようです。仕方がないから、この保育所では再びルールを変更しました。「仕方がない、もう罰金ルールはやめましょう」、こういう風になったわけでありませぬ。実際に罰金ルールを廃止したんですね。市場規範に置き換わってしまったのです。廃止したのですが、じゃあ、どういう風に変ったかという、むしろ罰金の前後に比べて少しだけ遅刻の回数が増えちゃいました、というのが結果です。

ここでの行動経済学的な教訓は、社会規範、つまり“互譲互助”の精神が市場規範、すなわち罰金ルールと衝突しちゃいますと社会規範はどこかへ消えて行っちゃう、という発見であります。社会的な人間関係はそう簡単に修復できないっていうところが教訓でして、この教訓は全世界でつとに有名です。みなさんもちょっとお考えになって、何か今までで体験があまりじゃないでしょうか。あれば、それはぜひ書き出していきたい。教訓その2。社会規範、“互譲互助”でもいいんですが、行動経済学の考えでは、世界はある意味感情で成り立つ社会です。社会規範は、一度でも市場規範すなわちお金のルールに負けるとまず戻ってきません。すなわち、社会規範とはまさに今書いておりますようにこの言葉で分かり合えると思います(※板書)。これは何かというと答えを後でお出しします。つまり、社会規範とは、「以心伝心」という言葉。市場規範とは、「弱肉強食」と言う言葉がピッタリですね。こう言う風に説明すればよろしいのではないのでしょうか。

(中略)

今日お話ししてきた数々の実験からわかった重要なまとめというのはこういうことです。「自分だけなら」という心理が集団全体に不利益を引き起こすのが「社会的ジレンマ」の問題です。人間は常に「利己的」で「かしこい」行動をとるわけじゃありませんが、多くの場合、「まわりが、皆そうするなら」という理屈で動くことが最近わかってきました。これが先ほどお話ししました「互惠性原理」です、互惠、つまりお互いさまということです。この「皆そうするなら、わたしも」という行動原理こそが、人間が社会環境に適応させるために進化させた真の賢明さではないだろうか、と。これは進化心理学の立場です。人間の利他性を信じましょう、と。あなたの大学生活や人生にもさまざまなヒントを与えてくれるだろう、と。お人好しになれ、と言っているのじゃありません。人を信じることは自分を信じることでもある、というぐらいのゆとりを持って人を思いやれること。そして、

わたしがいつも言っている「知足（足るを知る）」の精神で、これからの人生をぜひ送って頂きたい。

これが私のゼミ生への、ささやかな“贈る言葉”だと思っております。（図13）  
（平成26年1月7日 ゼミ教室にて）

**図13 数々の実験からわかったこと  
(重要なまとめ)**

- ◆「自分だけなら」という心理が集団全体に不利益を引き起こす社会的ジレンマ問題。
- ◆最近わかったことは、人間は常に「利己的」で「かしこい」行動をとるわけではない。
- ◆多くの場合、「まわりが皆そうするなら」という理屈で動くことがわかってきた。【互惠性原理】
- ◆この「皆そうするなら」という行動規範こそが、人間が社会環境に適応するために進化させた「本当のかしこさ」ではないか。  
神山⇒人間の利他性を信じれば、あなたの大学生活やこれからの人生にも、さまざまなヒントを与えてくれると思います。

資料出所：山岸俊男「社会的ジレンマ」1997

## 7. 「消費者力」が身につく行動経済学の教え

以上、ゼミ生に再講演した「消費者力」にかかわるテーマは、以下の行動経済学のコンテンツから抜粋したものである。

《講演した行動経済学の基礎理論》

- |                                |                  |
|--------------------------------|------------------|
| 1. なぜ、未来より現在を優先させるのだろうか        | 【現在志向バイアス】       |
| 2. なぜ、振り込め詐欺は成功するのだろうか         | 【カクテルパーティ効果】     |
| 3. 人間は利己的ばかりではない。多くが利他性を併せもつ   | 【最後通牒ゲーム】        |
| 4. 損失は利得の2倍強の痛み。喜び・悲しみの差も2倍強   | 【損失回避性】          |
| 5. なぜ、自分の所有物を高く評価したがるのか        | 【保有効果】           |
| 6. なぜ、新たな挑戦をしようとししないのか         | 【現状維持のバイアス】      |
| 7. なぜ、人は過去の選択や行動に引きずられるのか      | 【サンクコストの呪縛】      |
| 8. なぜ、人は多すぎると選択できなくなるのか        | 【選択麻痺・後悔回避】      |
| 9. 非合理的人には、なぜ初期設定で誘導してあげるのか    | 【ナッジ(Nudge)のすすめ】 |
| 10. 名目価値と実質価値の違いを確認しよう         | 【貨幣錯覚】           |
| 11. なぜ、将来の計画は先送りされるのだろうか。自信過剰? | 【コミットメント】        |
| 12. 社会的ジレンマはだれもが経験するもの         | 【共有地の悲劇・協力行動】    |
| 13. 市場原理を導入すると、腐敗する社会規範もある     | 【市場規範と社会規範】      |
| 14. 利他的な人間が、環境に適応しながら進化してきた    | 【互惠性原理】          |

本稿で紹介することができたのはわずかな内容に過ぎない。実際、ここでは上記の1, 4, 5, 10, 11, 12, 13, 14 などほぼ半数の項目である。ただ再講義シナリオにより、学生自らの体験や大学の実習と関連づけ「消費者力」を実感したとする行動経済学の教訓は多岐にわたり、内容としても様々な反応があった。

なお、ゼミ生が「実習」と関連づけて感想を記述した教訓は、1位が【共有地の悲劇・協力行動】であり、これは2年生ゼミの半数以上8名に及んでいる。ここで、かれらの反応を紹介してみよう。

#### 共有地の悲劇・協力行動 その1 (S君)

私は、担当実習で3つのチームのうち1つのリーダーをさせていただいていた。その役割上、同じチームのメンバーに活動の役割を振り分けなければならなかった。どのメンバーもお願いした仕事をそつなくこなしてくれ一生懸命に動いてくれた。そんな中、あるイベント時に1つの役割を数人のメンバーにお願いした際に誰もその役割をやっていないという問題が生じた。各メンバーは、それぞれの理由で誰かがやっているという考えを共有したわけである。普段はどのメンバーも仕事をしっかりこなすだけに少し戸惑った。しかし、この事例は、普段ゼミで学んでいる行動経済学の「共有地の悲劇」と少し関係しているのではないかと考えた。この場合、メンバー全員が協力して行動していればその仕事も早く終わり、お互いにメリットがある。しかし、全員が、経済学にいう合理的判断を下し、利己的な非協力行動をとったため、締切間近に焦燥感に追われながら仕事をしなければならなかった。その結果、全員に悲劇が生まれたのである。私はこのような問題にぶつかった後、役割で数人のグループを作った時も、こまめに連絡を取り話し合う機会を持つようにアドバイスした。その結果、近頃このような問題も少なくなったように感じられる。

以上、私の演習での学びが、実習でも役立ったと感じたささやかな事例である。

#### 共有地の悲劇・協力行動 その2 (Tさん)

報告会で発表しなければならなかったときである。「発表者になった」ということは誰もが分かっていた。しかし今どのような状況なのか、誰が先導に立って進めていくのか、形式はどうするのか等、おおまかなことすら誰も気にしておらず他人任せになり、全員が非協力行動をとってしまったことがある。長期の休みもだんだん少なくなっていき、発表資料の提出が迫ってきたためようやく準備にとりかかった。「去年の資料を参考にすればいいだろう」と安易に考えており、手直しをして完成したと思った時、先輩からお叱りを受けた。「私たちの実習を背負ってこれを発表できるの？」その後、一から作りなおすこととなり、結局、発表前日はほぼ徹夜になってしまった。先輩にも迷惑をかけてしまった。もっと早めに行動していれば、誰かひとりでも事の重大さに気づいていれば、誰にとっても好ましくない結果は生まれなかっただろう。また、この事例は、担当メンバーになったばかりの頃でもあり、誰もが遠慮してしまったことも原因だった。

社会的ジレンマは、接触が浅い希薄な人間関係の場合ほど起こりやすいのではないだろうかと思った。

これに次いで、学生が実感したのは【現在志向バイアス】【コミットメント】であり、やはり半数近くが実習に有用な行動経済学の教えだと感受したようである。紹介しよう。

現在志向バイアス・コミットメント その1 (Fさん)

私は、「なぜ、将来の計画は先送りされるのだろう。それも自信過剰のせい?(現在志向・コミットメント)」が最も実習に役立った。

実習で携わっているプロジェクトとお店がコラボレーションして、商品を期間限定で販売するイベントの企画を行なうことがあった。イベントの目的は、プロジェクトをより多くの方に知ってもらうことなので、特に広報活動に力を注いだ。そこでチラシ、ポスター、WEB、新聞の4つを広報の方法として取り入れた。その4つの広報を並行して活動していた。しかし、現在志向のバイアスが働き、実習メンバー全員がイベントはまだ先のことからと遠まわしにしてしまい、思うように進まず、イベントの期間が迫っていた。そこで、すぐにガントチャートを作成して、4つの広報にそれぞれ責任者を設けてスケジュールを組むことにした。その結果、期間に間に合わせることができ、イベントは成功した。

メンバー全員が行動しなければ、イベントは成功しない責任感というアンカーを入れることで、独りで抱え込むのではなく他人を巻き込み、計画達成に導くことができたと考えられる。今後は、それに加えて、できなかったときの場合のムチのインセンティブを取り入れると、物事を先延ばししないで行動できると確信した。

現状維持のバイアス・コミットメント その2 (Kさん)

私が実習で最も役立ったと思う基本理論は現状維持のバイアスと、コミットメントである。実習では、年間予定を立てようとしたり、今手を付けている計画を今後どのように進めていくかといった話になった時に特に実感できる。なぜなら、今運用している計画は、行き詰ってきていると実感していても、できるだけその基本形を変えずに運用しようとするからだ。これは、現状維持のバイアスがかかっているといえる。しかし、計画の状況を全体会で報告し、他グループから指摘や新しい刺激を受け、その場で今後の予定を変更することがある。この時実習全体にこの予定を発表しておくとも実現しやすい。これが全体に向けたコミットメントになっているからではないだろうか。全体に向けてコミットメントした方がしないときよりも実現しやすいのだ。しかし、このコミットメントも万能ではなく、年間計画等の長期計画においてはその力が及びにくい。長期的であると、その長い計画よりも、その時々が発生する問題に目を奪われ、計画通りに事を進められないからだ。私の場合、マップ作成がそれにあたる。今となって思えば、より効率的に実現させようとするなら、長期計画の他に、中期、短期計画を作成し、その時期に合ったアンカーを設定するべきであった。

このように、学生にとれば実習という行動の教訓、市民の方々とすれば「生活を守る経済学」の知恵ともいえる行動経済学の知見は、広く応用されて初めてその意義が生まれよう。ここで、「消費者力」に関するコンテンツをまとめれば次のようである。「経済は厳密

に合理的ではなく、無意識な感情で動いている」「だから、仕事や生活にかかわる多くの場面で自分の感情や直感を検証すべき。そうしなければ、同じ過ちを繰り返す」「多く場合、感情や直感を疑うどころか頼ってしまう、自信過剰や楽観バイアスに陥っている」「問題は、自信過剰になると、自覚もないまま過大なリスクを背負いこんでしまうことだ」「例えば、多重債務や有り金をはたいてベンチャー企業に投資するのは弱気で自信喪失した人ではなく、自信満々な人である。」(図15)

### 図15 「消費者力」が身につく行動経済学の教え

- ◆心理学の知見や実験を経済学に応用して現実的な経済理論の構築をめざすあたらしい経済学
- ◆一切まちがわず超合理的と仮定された人間（ホモ・エコノミカス）を、直感や感情に頼る限定合理的な人間（ヒューマン）として捉えなおす
- ◆テーマは、「消費者はどのように行動するのか」「なぜそうするのか」「その行動により何が生じるのか」などを多くの心理学実験や脳科学を駆使して解明する

※経済学が血の通った人間の感情や心理を分析する学問に変貌している。ゼミの皆さんにもあたらしい発見を提供できるかも・・・

つまり、「消費者力」が身につく行動経済学の教えとは、「心理学の知見や実験を経済学に応用して現実的な経済理論の構築をめざすあたらしい経済学」「一切まちがわず超合理的と仮定された人間（ホモ・エコノミカス）を、直感や感情に頼る限定合理的な人間（ヒューマン）として捉えなおす」「テーマは、「消費者はどのように行動するのか」「なぜそうするのか」「その行動により何が生じるのか」などを多くの心理学実験や脳科学を駆使して解明する」

今すでに、経済学が血の通った人間の感情や心理を分析する学問も採り入れつつある。今後は、ゼミの皆さんにもあたらしい発見を提供できることを、自らにコミットしたい。

#### おわりに - 「消費者力」研究の意義と今後の展望 -

最後になるが、ここでは、本稿を記述する問題意識の背景となった「消費者問題」と行政対応の簡単な足跡を確認し、「消費者力」を身に付ける消費者教育についても、何故重要なのか、行動経済学でどのような貢献が可能なのか、その展望を示しておく。また、今後の「研究ノート」に関する筆者の思いについて記述しておくこととする。

さて、わが国における消費者行政の萌芽は昭和40年頃とされるが、地方消費者行政が全国に定着したのは43年の「消費者保護基本法」が制定されてからである。20年を経過した



昭和60年、わが国がグローバル化を進める社会経済政策を背景に、当時の経済企画庁が保護される消費者から自立する消費者を初めて提唱した際、期せずして起こったのがあの豊田商事事件であった。「保護」から「自立」への転換を標榜したこのパラダイムシフトの黎明期に、保護対策に戻らざるを得ない、まさに時代の皮肉とも言うべき事件であった。

バブル崩壊後の1990年代に入り、わが国で市場メカニズム重視の経済社会の構築が進められるなか、消費者をめぐる環境の変化はまさに急激であった。われわれは、現在もその潮流の渦の中にある。そこでは、消費者にとって身近に感受すべき変化とは、規制緩和の推進を中心とした構造改革が進められる上で、政策の軸が行政による事前規制から市場ルールにもとづいた事後チェック型への転換が求められるようになったことである。

しかしながら、現在の消費者問題はますます複雑多様化の一途にあり、単純に規制緩和の推進を喜ぶわけにはいかない。それは、これまで規制によって保護されてきた消費者の利益が軽視される可能性の存在であり、一方で、透き間から巧みに参入する新しい悪質商法の恐怖である。現実をみれば、自己破産の拡大、情報通信分野のIT革命による電子商取引の増大とトラブルの発生、多様な金融商品の登場、遺伝子組み換え食品の是非、などに加え地球環境問題や介護保険制度による福祉サービスまでも消費者問題の俎上にのせられて久しい。このように、規制緩和に伴い、商品・サービスの選択の自由が拡大するのは消費者にとって好ましいが、一方で、国民の誰もが、自らの主体的かつ合理的な判断が一層強く求められることとなった。「選択の自由」は、全ての消費者にとって強力な自己責任を伴うものであることを忘れてはならない。

消費者教育の緊要度は高まりをみせるが、その教育効果は不十分である。それゆえ時代は「消費市民社会」の実現に向け、自立して生きる術を持つために「消費者力」の涵養を求めていると言える。消費者被害の事後処理は、行政や法制度の所管であるが、重要なのは被害の予防と市民すべての“互譲互助”のしくみである。消費者は必ずしも合理的に行動するわけではないことはすでに指摘した。その具体的な内容を提供する新しい経済学が「行動経済学」である、行動経済学は、様々な教訓を消費者問題に対しても提供するだろう。今後は、もっと脳科学や心理学の知見も組み入れ、消費者政策を多角的に展開することが肝要である。

なお、この研究ノートは以降も続くことを最後にお伝えしておきたい。

## 補注

(注 1) ここで言う「消費者力」とは、「情報の非対称性」をはじめとする弱い消費者の立場から社会のさまざまな苦難に際し、自立できる賢い消費者のパワーを身につける行動の総称。現在は、消費者であると同時に生活者として、主体性ある行動で経済社会を変革する国民の姿が望まれている。いわゆる消費市民社会の実現に向け、消費者が自ら生きる力だけでなく、全体の福祉のために貢献する力が求められている。「消費者力」とは、まさにその役割を担う新しい実践能力といえる。

- (注2) 心理学者のダニエル・カーネマンらが1979年に発表した理論。不確実性下において人はいかなる予測を立てて、どのように行動するかという、予測や行動背景にある原理をまとめた。これが従来の経済学のアノマリー(例外)をうまく説明できたことで、その後、行動経済学の基礎理論に位置付けられている。
- (注3)(図4)で示した価値関数の原点で示される。人間が抱く満足度や不満度の基準となる。この参照点からの変化(利得・損失)が大きい程、意思決定に大きな影響を与える。それは、人が置かれた環境、慣習、状況などに応じて変わるので、従来の経済学からみれば不合理と判断される。
- (注4) 詳しくは、マイケル・サンデル著、鬼沢忍訳(2012)「それをお金で買いますか」早川書房に詳しい。アメリカの経済学者ユリ・グニージェがイスラエルの保育所でこの実験を行った。世界的に知られることとなった有名なもの。
- (注5) 人(組織)が将来について約束・宣誓し、行動に制約を加えること。自分で自分にアンカーを降すことである。コミットメントは計画の先送り防止に大きな威力があるが、アメとムチのさじ加減が難しいとされている。
- (注6) 人はどうしても、より早く手にできる現在の利得の方に惹かれ、将来のより有利な選択を捨ててしまう傾向があること。ダイエットや貯蓄が続かないなど、わかりやすい多くの事例がある。

#### 引用・参考文献

- 1) 公益財団法人 日本オリンピック委員会ウェブサイト (<http://www.joc.or.jp/>)
- 2) 朝日新聞デジタルウェブサイト  
(<http://www.asahi.com/sports/update/0805/TKY201308040237.html>)
- 3) ダニエル・カーネマン著、村井章子訳(2012)「ファスト&スロー 上・下」早川書房
- 4) シーナ・アイエンガー著、櫻井裕子訳(2012)「選択日記 The Choice Diary」文芸春秋
- 5) マッテオ・モッテルリーニ著、泉典子訳(2008)「経済は感情で動く」紀伊国屋書店
- 6) 山岸俊男(1997)「社会的ジレンマ」PHP 研究所
- 7) 友野典男(2006)「行動経済学 経済は「感情」で動いている」光文社新書



## 2013 年度「地域づくりに関する調査研究」執筆担当者一覧

### 生活感に関連する要因

- 生活のゆとり感や社会関係の認知、地域活動への参加との関連性 -

石塚 優 北九州市立大学都市政策研究所

地域子育て支援拠点における相談のあり方について

池田 佐輪子・岩丸 明江 コラボラキャンパスネットワーク  
親子ふれあいルーム実行委員

行動経済学による「消費者力」の涵養（１）

～「生活を守る経済学」講演シナリオを通じて～

神山 和久 北九州市立大学都市政策研究所

### 2013 年度「地域づくり研究会」実行委員会

山崎 克明 北九州市立大学名誉教授

石塚 優 北九州市立大学都市政策研究所教授

岩丸 明江 NPO 法人 GGP（ジェンダー・地球市民企画）代表理事

佐藤八代江 北九州市生涯学習センター社会教育主事

田代久美枝 NPO 法人「おとなりさんネット<えん>」代表

半田百合枝 北九州市体育協会

平野 謙太 北九州市社会福祉協議会

道盛 誠一 下関市立大学教授

村山浩一郎 福岡県立大学（社会学、社会福祉論）准教授

山下 厚生 前北九州市生涯学習総合センター社会教育主事

山田 留里 図書館サポート北九州・北九州社会教育・生涯学習研究会

渡辺 良司 北九州市社会福祉協議会総務部長

吉田 成美 北九州市立大学大学院社会システム研究科（福岡県職）



---

---

2013年度 地域課題研究  
「地域づくり」に関する調査研究  
平成26年3月

発行所 地 域 づ く り 研 究 会  
北九州市立大学都市政策研究所  
〒802-8577 北九州市小倉南区北方4丁目2-1号  
TEL (093) 964-4302 FAX (093) 964-4300  
<http://www.kitakyu-u.ac.jp/iurps/index.htm>

印刷所 エ ポ ッ ク 株 式 会 社  
〒800-0039 北九州市門司区中町 5-10

---

---

